飯島町都市計画マスタープラン改訂 及び
飯島町立地適正化計画策定に関する
住民アンケート調査

報告書

令和６年３月

飯島町 建設水道課 調査計画係

目 次

１．アンケート概要 1
１．目的 1
２．調査対象者 1
３．標本抽出 2
４．実施方法 2
５．実施の経緯 2
６．回収結果 3
７．設問一覧及び各設問趣旨 4

２．住民アンケート調査（単純集計） 5
＜回答者属性＞ 5
問１　年齢 5
問２　家族構成 5
問３　職業 5
問４　居住地区 6
問５　居住歴 6
問６　住宅種類 7
＜公共交通機関の利用状況等＞ 7
問７　ＪＲ飯田線の利用頻度 7
問８　最寄りの駅までの徒歩での所要時間 7
問９　いいちゃんバスの利用頻度 8
問 10　いいちゃんバスのバス停までの徒歩での所要時間 8
問 11　日常の移動手段や行動範囲 9
①外出の頻度 9
②交通手段 10
③目的地（市町村） 11
＜現計画の評価＞ 13
問 12　まちづくり満足度・重要度（現計画の評価） 13
１．土地利用の基本方向 16
２．交通体系整備の方針 18
３．自然環境の保全・創造の方針 24
４．生活環境の整備の方針 30
５．福祉と子育て環境づくり 34
６．景観形成の方針 36
＜町の将来像＞ 38
問 13　少子高齢社会に起因する影響への認識 38
問 14　人口減少等による影響に対する行政の取組み方向性 39
問 15　コンパクトシティ形成に向けた重点施策 40
問 16　道路整備の優先の考え方 41
問 17　自由記述：その他、飯島町のまちづくり、都市計画等に関するご意見 42

3．考察（単純集計）.....43
1．アンケート結果の総括.....43
2．まちづくり課題の整理.....44

4．クロス集計.....46
1．クロス集計一覧.....46
2．居住地区（問 4）とのクロス集計.....47
3．少子高齢社会に起因する影響への認識（問 13）とのクロス集計.....53
4．人口減少等による影響に対する行政の取組方向性（問 14）とのクロス集計.....58
5．コンパクトシティ形成に向けた施策（問 15）とのクロス集計.....60
6．道路整備の優先性の考え方（問 16）とのクロス集計.....65

5．過去アンケートの比較及び整理.....70
1．土地利用.....70
2．交通.....71
3．公園.....71
4．景観.....72
5．通勤・通学の利便性.....73
6．買い物・通院の利便性.....73
7．生活環境の満足度評価（地区別）.....74
8．コンパクトシティへの理解.....78

注）構成比は無回答を除いて算出している。また数字の表章単位未満は、四捨五入を原則とする。したがって、総数と内容の計が一致しない場合がある。

1．アンケート概要

1．目的

飯島町では、「飯島町都市計画マスタープラン」の改訂と「飯島町立地適正化計画」を新たに策定するための検討を進めている。

両計画の策定の際に、住民意向に沿った施策を立案するため、住民の現状と町に対する意向を把握することを目的とした。

2．調査対象者

住民基本台帳における中学生を除く満 15 歳以上の住民 1,500 人を調査対象とした。

年齢層の回収数の均衡及び若年層の回収率増進のため、下表に示すとおり過去のアンケート調査実績を参考に、年齢別配布数を抽出した。

なお、令和元年 7 月に実施した町アンケート調査の回収率 34.1%を、本調査の目標値とした。

年齢層	R5.8住基台帳人口（参考値）		R1.7実施 町アンケート実績				
			配布数（年齢層均衡を想定※2）		回収実績		
	人口	年齢別構成比	アンケート配布数	年齢別構成比	回収数	年齢別構成比	配布数に対する回収率(想定)
10歳代※1	280	3.6%	105	3.5%	27	2.6%	25.7%
20歳代	687	8.9%	256	8.5%	55	5.4%	21.5%
30歳代	849	11.0%	317	10.6%	81	7.9%	25.6%
40歳代	1,088	14.1%	406	13.5%	112	10.9%	27.6%
50歳代	1,110	14.4%	414	13.8%	141	13.8%	34.1%
60歳代	1,345	17.4%	502	16.7%	245	23.9%	48.8%
70歳代	1,412	18.3%	527	17.6%	247	24.1%	46.9%
80歳代	940	12.2%	351	11.7%	116	11.3%	33.0%
90歳代+不明			122	4.1%			
	7,711	100%	3,000	100%	1,024		34.1%

年齢層	本調査対象者抽出		
	目指すべき回収数※3（各年齢層均衡）	実績回収率を配布数で按分	配布数における年齢別構成比
10歳代※1	29	103	6.9%
20歳代	69	291	19.4%
30歳代	69	245	16.3%
40歳代	69	227	15.1%
50歳代	69	184	12.3%
60歳代	69	128	8.5%
70歳代	69	133	8.9%
80歳代	69	189	12.6%
	512	1,500	100%

※1　10 歳代とは、中学生(80 人を想定)を除く 15 歳から 19 歳を対象としている。
※2　令和元年 7 月アンケートでは年齢別を考慮した抽出を行っていないことから、住基台帳人口の年齢割合を採用した。
※3　目指すべき回収数は、令和元年 7 月アンケートの回収率(34.1%)より算出。

３．標本抽出

一般住民アンケートにおける標本数の確認は、次の公式を用いて、信頼度 98.0%、誤差率±5.0%となる事を確認した。

なお、公式中の母比率は、設問の内容が多岐にわたることや、選択肢が複数であることなどを考慮し、標本数が最大となる二者択一（50%）を用いることとした。

$$\text{標本数} = \frac{\text{母集団の数}}{1 + \dfrac{(\text{母集団の数} - 1)}{(1 - \text{母比率}) \times \text{母比率}} \times \left[\dfrac{\text{誤差率}}{\text{信頼度係数}}\right]^2}$$

信頼度係数表

信頼度(%)	68.3	90.0	95.0	95.4	98.0	99.0	99.7
信頼度係数	1.000	1.645	1.960	2.000	2.326	2.576	3.000

標本数検討表(飯島町　令和5年8月住基台帳人口)

母集団	標本数	信頼度	誤差率	母比率	信頼度係数
7,711	262	95.0%	5%	0.5	1.645
7,711	400	96.0%	5%	0.5	2.053
7,711	444	97.0%	5%	0.5	2.170
7,711	506	98.0%	5%	0.5	2.326
7,711	612	99.0%	5%	0.5	2.576
7,711	807	99.7%	5%	0.5	3.000
7,711	269	90.0%	3%	0.5	1.000
7,711	685	95.0%	3%	0.5	1.645
7,711	1,488	99.0%	3%	0.5	2.576

上記の計算のとおり、今回の標本数は前回並みの回収を見込んだ場合（回収率 34.1%、回収数 512 通)、信頼度 98.0%、誤差率±5%以上確保できることになる。

今回のアンケート調査では 527 通の回答が得られたことから、98.0%以上の信頼度、誤差率±5%以上の確保が得られたといえる。

４．実施方法

（１）発送～回収期間　　令和５年 10 月 19 日～11 月６日（延長 11 月 24 日）
（２）発送方法　　郵送
（３）回収方法　　いいちゃんポストへ投函、または WEB 回答

５．実施の経緯

令和５年９月 25 日～	調査票原案作成
10 月 10 日	調査票の決定
10 月 16 日～	調査票発送準備
10 月 19 日	調査票発送（郵送）
11 月　６日	回答締切日
11 月 24 日	回答締切延長
～12 月 25 日	入力・集計
令和６年１月	集計結果の報告

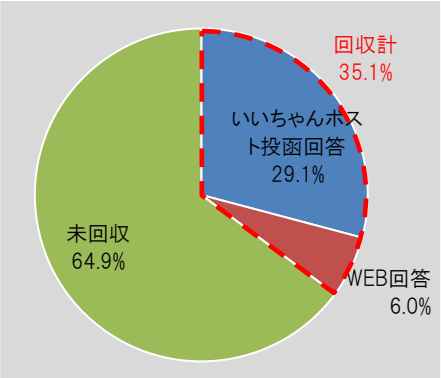
6．回収結果

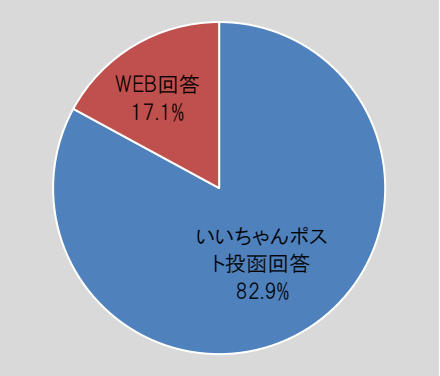
＜総回収状況＞

回収数は 527 通、回収率 35.1%であった。そのうちいいちゃんポストへの投函が 29.1%、WEB 回答が 6.0%となり、返信のうち WEB 回答は 17.1%を占める結果となった。

回収状況	回答数	構成比
回収	527	35.1%
未回収	973	64.9%
計	1,500	100.0%

返信方法	回答数	構成比
いいちゃんポスト投函回答	437	82.9%
WEB回答	90	17.1%
回収　計	527	100.0%

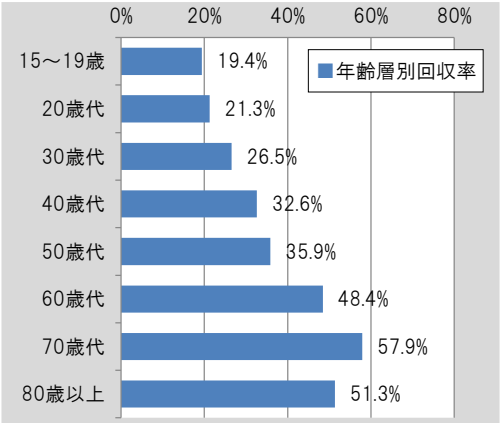


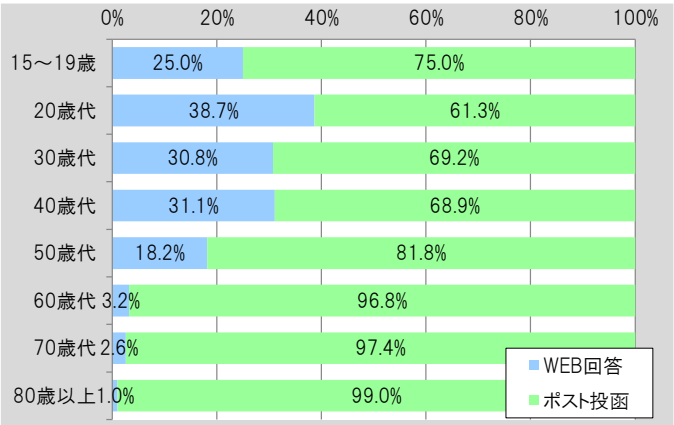


＜年齢別回収状況＞

年齢別に回収率を見ると 70 歳代が 57.9%で最も多く、年齢層が下がるごとに回収率も下がる傾向となっている。年齢層の回収数を均衡にする目標については、依然高齢者の回収率は高いものの、若年層も 20～30%は確保しており一定の効果が見られる。また、Web 回答ついては、20 歳代の 38.7%を最高に、30、40 歳代の 30%以上が Web 回答を利用している結果となった。

	年齢層	総数			うちWEB回答	
		配布数	回答数	回収率	回答数	回収率
1.	15～19歳	103	20	19.4%	5	25.0%
2.	20歳代	291	62	21.3%	24	38.7%
3.	30歳代	245	65	26.5%	20	30.8%
4.	40歳代	227	74	32.6%	23	31.1%
5.	50歳代	184	66	35.9%	12	18.2%
5.	60歳代	128	62	48.4%	2	3.2%
6.	70歳代	133	77	57.9%	2	2.6%
7.	80歳以上	189	97	51.3%	1	1.0%
	無回答		4	―	1	25.0%
	計	1,500	527	35.1%	90	6.0%





７．設問一覧及び各設問趣旨

主　題	番号	設問内容	設問趣旨
回答者の属性	1	年齢	回答者の属性把握のため。
	2	家族構成	
	3	職業	
	4	居住地区	
	5	居住歴	
	6	住宅種類	
	7	飯田線の利用頻度	回答者の公共交通機関の利用のしやすさ及び利用状況を把握する。
公共交通機関の利用状況について	8	最寄り駅までの徒歩での所要時間	
	9	いいちゃんバス利用頻度	
	10	バス停までの徒歩での所要時間	
日常の移動手段や行動範囲について	11	外出の頻度等	日常及び特別な場合の行動について、その頻度、最も多い交通手段を把握する。併せて、高齢者の外出頻度、利用交通機関も把握する。
少子高齢社会とまちづくり	12	少子高齢社会と日常生活への影響	人口減少と少子高齢社会が各地域に及ぼす影響の認識の把握。 都市計画マスタープラン地域別構想の参考資料とする。
	13	行政サービスの方向性	少子高齢社会に起因する諸問題を解決するための方策についての認識の把握。
都市計画マスタープランの事後評価関連	14	現マスタープランの評価	主に現行の都市計画マスタープランの事後評価。 客観的評価に対する住民の意識によるアウトカム化。
施設整備方向性	15	誘導区域の配置	コンパクトプラスネットワークの方向性の検討の際の参考とする。
	16	道路整備の優先の考え方	道路整備への認識と今後の整備への要望の確認。
自由意見	17	自由意見	自由記述

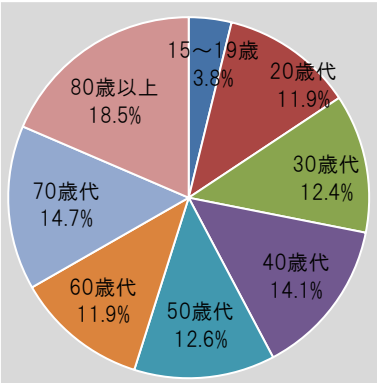
2．住民アンケート調査（単純集計）

＜回答者属性＞

問１　年齢

回答者の年齢で最も割合が高いのは「80 歳代以上」が 18.5%であるものの「10 歳代」を除くすべての年齢層の構成比は 10%台にあり、均等に回答が得られている。

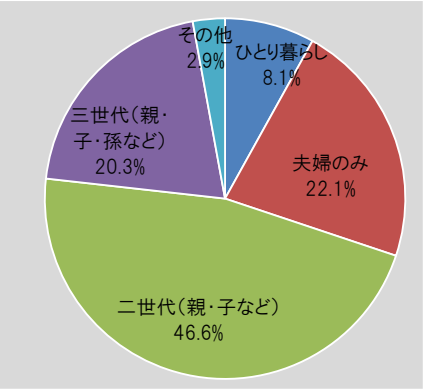
	選択肢	回答数	構成比
1.	15～19歳	20	3.8%
2.	20歳代	62	11.9%
3.	30歳代	65	12.4%
4.	40歳代	74	14.1%
5.	50歳代	66	12.6%
6.	60歳代	62	11.9%
7.	70歳代	77	14.7%
8.	80歳以上	97	18.5%
	無回答	4	―
	計	527	100.0%



問２　家族構成

回答者の家族構成は、「二世代（親・子など）」が 46.6%と概ね半数を占めており、次いで「夫婦のみ」が 22.1%となっている。

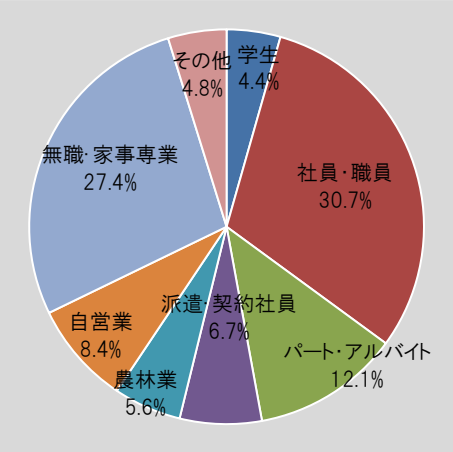
	選択肢	回答数	構成比
1.	ひとり暮らし	42	8.1%
2.	夫婦のみ	115	22.1%
3.	二世代(親･子など)	243	46.6%
4.	三世代(親･子･孫など)	106	20.3%
5.	その他	15	2.9%
	無回答	6	―
	計	527	100.0%



問３　職業

回答者の職業は、「正規の社員または職員」が 30.7%、「無職･家事専業」27.4%で全体の大半を占める。「パート・アルバイト」は 12.1%となっている。

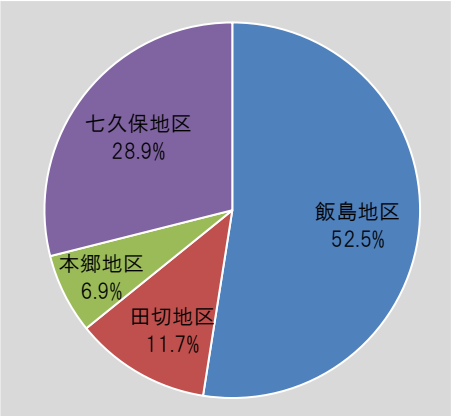
	選択肢	回答数	構成比
1.	学生	23	4.4%
2.	正規の社員または職員	160	30.7%
3.	パート･アルバイト	63	12.1%
4.	派遣･嘱託･契約社員または職員	35	6.7%
5.	主に農林業の自営業主･家族従業者	29	5.6%
6.	自営業主･家族従業者(農林業以外)	44	8.4%
7.	無職･家事専業	143	27.4%
8.	その他	25	4.8%
	無回答	5	―
	計	527	100.0%



問４　居住地区

回答者の居住地区は、「飯島地区」52.5%、「七久保地区」28.9%、「田切地区」11.7%、「本郷地区」11.7%の順となっている。

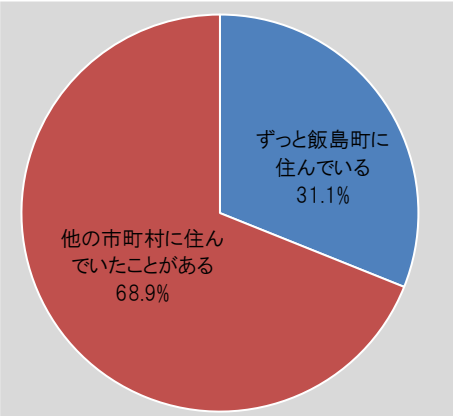
	選択肢	回答数	構成比
1.	飯島地区	274	52.5%
2.	田切地区	61	11.7%
3.	本郷地区	36	6.9%
4.	七久保地区	151	28.9%
	無回答	5	—
	計	527	100.0%



問５　居住歴

居住歴は、「生まれてからずっと飯島町に住んでいる」が 31.3%、「他の市町村に住んでいたことがある」が 68.9%となっている。

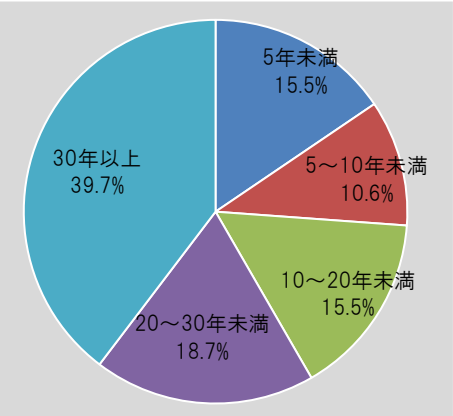
	選択肢	回答数	構成比
1.	生まれてから（記憶にあるとき以来）ずっと飯島町に住んでいる	160	31.1%
2.	他の市町村に住んでいたことがある	355	68.9%
	無回答	12	—
	計	527	100.0%



＜居住期間＞

「他の市町村に住んでいたことがある」と回答した人のうち、飯島町への居住期間について問いたところ、「30 年以上」が 39.7%で最も多くなっている。

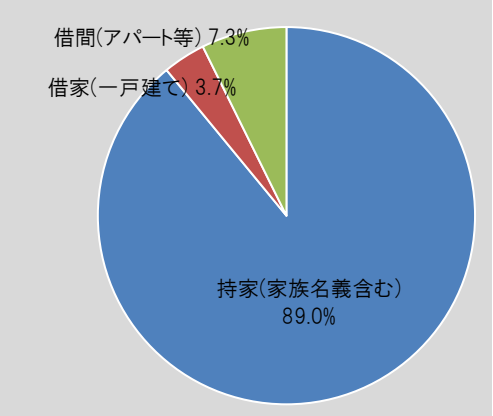
	選択肢	回答数	構成比
1.	5年未満	54	15.5%
2.	5～10年未満	37	10.6%
3.	10～20年未満	54	15.5%
4.	20～30年未満	65	18.7%
5.	30年以上	138	39.7%
	無回答	179	—
	計	527	100.0%



問６　住宅種類

回答者の住宅種類は、「持家(家族名義を含む)」が 89.0%で最も多くなっている。

	選択肢	回答数	構成比
1.	持家(家族名義を含む)	463	89.0%
2.	借家(一戸建て)	19	3.7%
3.	借間(アパート･公営住宅･社宅)	38	7.3%
4.	その他	0	0.0%
	無回答	7	―
	計	527	100.0%

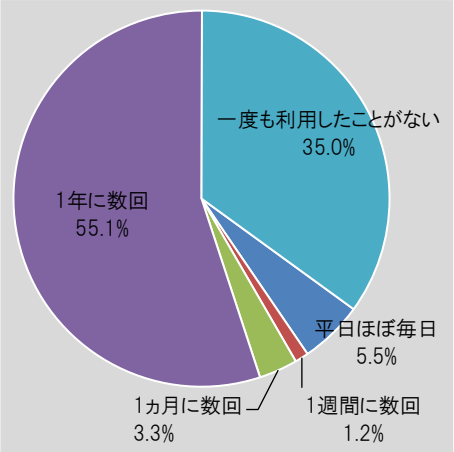


＜公共交通機関の利用状況等＞

問７　ＪＲ飯田線の利用頻度

ＪＲ飯田線の利用頻度は、「1 年に数回程度」が 55.1%で最も多く、次に「一度も利用したことがない」が 35.0%となっている。「平日ほぼ毎日」の利用は、5.5%にとどまっている。

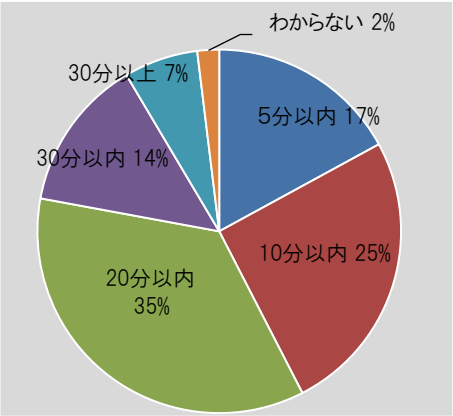
	選択肢	回答数	構成比
1.	平日ほぼ毎日	28	5.5%
2.	1週間に数回程度	6	1.2%
3.	1ヵ月に数回程度	17	3.3%
4.	1年に数回程度	282	55.1%
5.	一度も利用したことがない	179	35.0%
	無回答	15	―
	計	527	100.0%



問８　最寄りの駅までの徒歩での所要時間

最寄りの駅までの徒歩での所要時間（片道）は、「20 分以内」が 35.5%で最も多く、次に「10 分以内」が 25.4%となっている。

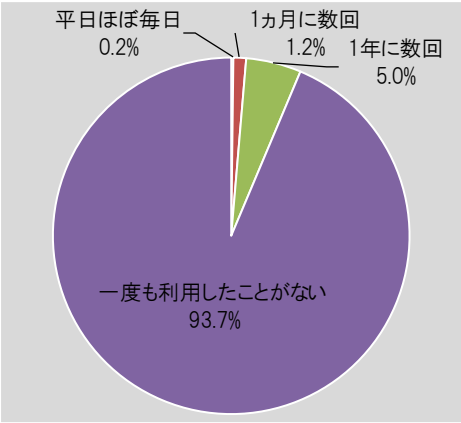
	選択肢	回答数	構成比
1.	5分以内	88	17.1%
2.	10分以内	131	25.4%
3.	20分以内	183	35.5%
4.	30分以内	70	13.6%
5.	30分以上	34	6.6%
6.	わからない	10	1.9%
	無回答	11	―
	計	527	100.0%



問９　いいちゃんバスの利用頻度

いいちゃんバスの利用頻度は、「一度も利用したことがない」が 93.7%で最も多く、「1 年に数回程度」がわずか 5.0%となっており、利用者が限られていることが伺える。

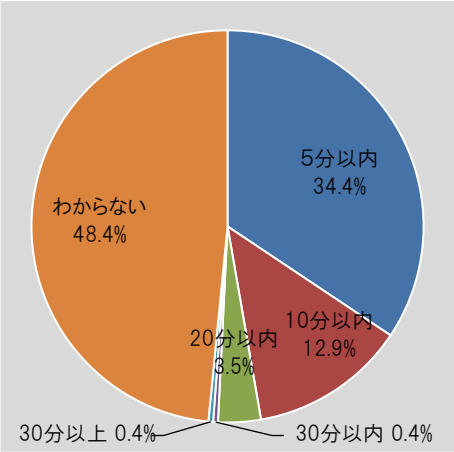
	選択肢	回答数	構成比
1.	平日ほぼ毎日	1	0.2%
2.	1週間に数回程度	0	0.0%
3.	1ヵ月に数回程度	6	1.2%
4.	1年に数回程度	26	5.0%
5.	一度も利用したことがない	487	93.7%
	無回答	7	―
	計	527	100.0%



問 10　いいちゃんバスのバス停までの徒歩での所要時間

いいちゃんバスのバス停までの徒歩での所要時間（片道）は、「わからない」が 48.4%で最も多く、次いで「５分以内」が 34.4%となっている。

	選択肢	回答数	構成比
1.	5分以内	176	34.4%
2.	10分以内	66	12.9%
3.	20分以内	18	3.5%
4.	30分以内	2	0.4%
5.	30分以上	2	0.4%
6.	わからない	248	48.4%
	無回答	15	―
	計	527	100.0%



問 11　日常の移動手段や行動範囲

通勤・通学や日常の買い物などのそれぞれの目的で外出するとき、①どのくらいの頻度で、②どのような交通手段を使い、③どこへ行きますか。

①外出の頻度

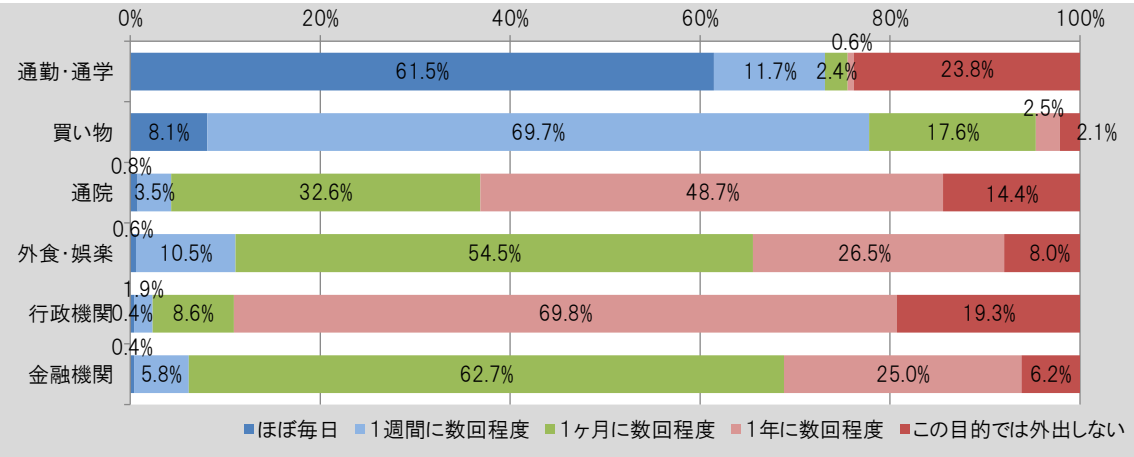
外出の頻度を目的別に見ると、「ほぼ毎日」の回答が高いのは「通勤・通学」で 61.5%、「1 週間に数回程度」は「買い物」が 69.7%となっている。「1 ヶ月に数回」は「外食・娯楽」「金融機関」、「1 年に数回」は「通院」「行政機関」が高くなっている。

（回答数）

選択肢		通勤･通学	買い物	通院	外食･娯楽	行政機関	金融機関
1.	ほぼ毎日	284	42	4	3	2	2
2.	1週間に数回程度	54	361	18	54	10	30
3.	1ヶ月に数回程度	11	91	167	280	44	326
4.	1年に数回程度	3	13	250	136	359	130
5.	この目的では外出しない	110	11	74	41	99	32
	無回答	65	9	14	13	13	7
	計	527	527	527	527	527	527

（構成比）

選択肢		通勤･通学	買い物	通院	外食･娯楽	行政機関	金融機関
1.	ほぼ毎日	61.5%	8.1%	0.8%	0.6%	0.4%	0.4%
2.	1週間に数回程度	11.7%	69.7%	3.5%	10.5%	1.9%	5.8%
3.	1ヶ月に数回程度	2.4%	17.6%	32.6%	54.5%	8.6%	62.7%
4.	1年に数回程度	0.6%	2.5%	48.7%	26.5%	69.8%	25.0%
5.	この目的では外出しない	23.8%	2.1%	14.4%	8.0%	19.3%	6.2%
	計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



②交通手段

外出時の交通手段は、どの外出目的も「自動車・オートバイ」が多くを占めている。

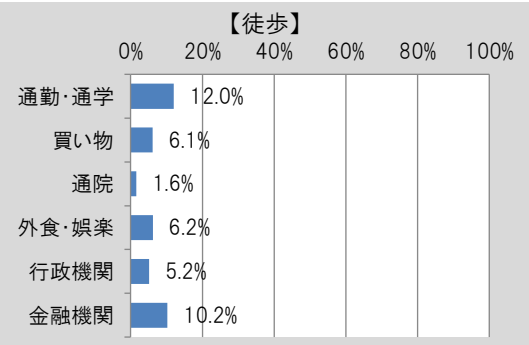
また「通勤・通学」には「徒歩」「自転車」「電車」、「通院」には「電車」「タクシー」の利用がやや見られる。「バス」の利用は「通院」目的が最も多い。

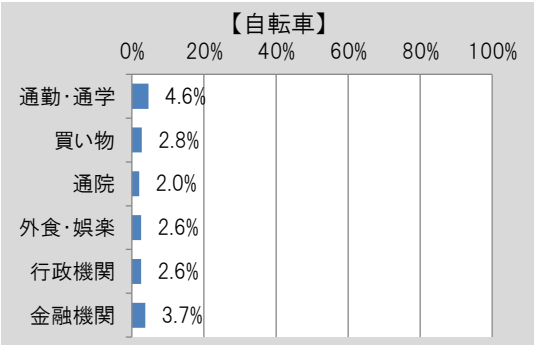
（回答数）

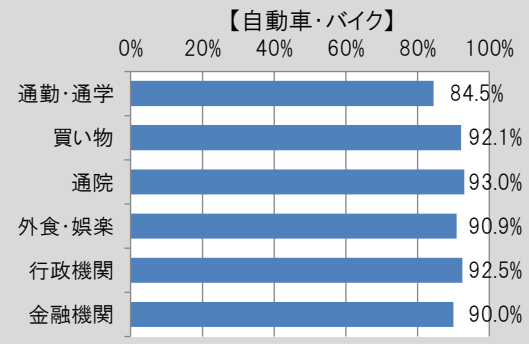
	回答項目	通勤･通学	買い物	通院	外食･娯楽	行政機関	金融機関
1.	徒歩	44	31	7	29	22	50
2.	自転車	17	14	9	12	11	18
3.	自動車･オートバイ	310	468	415	427	393	440
4.	電車	27	15	14	34	9	7
5.	バス	0	2	3	1	0	0
6.	タクシー	5	4	10	5	4	4
7.	その他	5	11	10	5	5	3

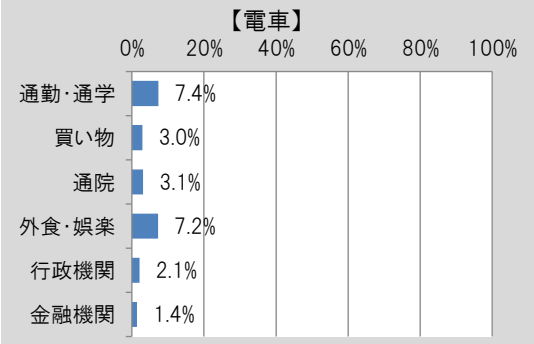
（構成比）

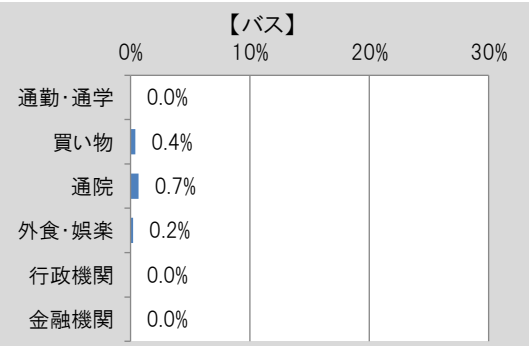
	回答項目	通勤･通学	買い物	通院	外食･娯楽	行政機関	金融機関
1.	徒歩	12.0%	6.1%	1.6%	6.2%	5.2%	10.2%
2.	自転車	4.6%	2.8%	2.0%	2.6%	2.6%	3.7%
3.	自動車･オートバイ	84.5%	92.1%	93.0%	90.9%	92.5%	90.0%
4.	電車	7.4%	3.0%	3.1%	7.2%	2.1%	1.4%
5.	バス	0.0%	0.4%	0.7%	0.2%	0.0%	0.0%
6.	タクシー	1.4%	0.8%	2.2%	1.1%	0.9%	0.8%
7.	その他	1.4%	2.2%	2.2%	1.1%	1.2%	0.6%

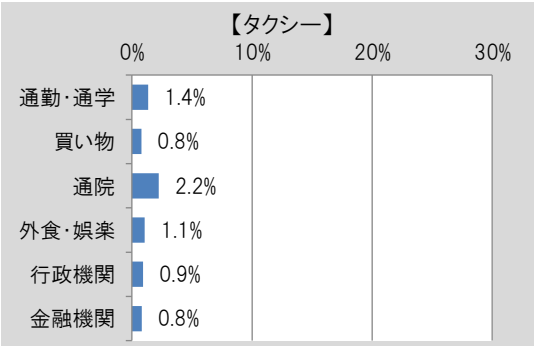












③目的地（市町村）

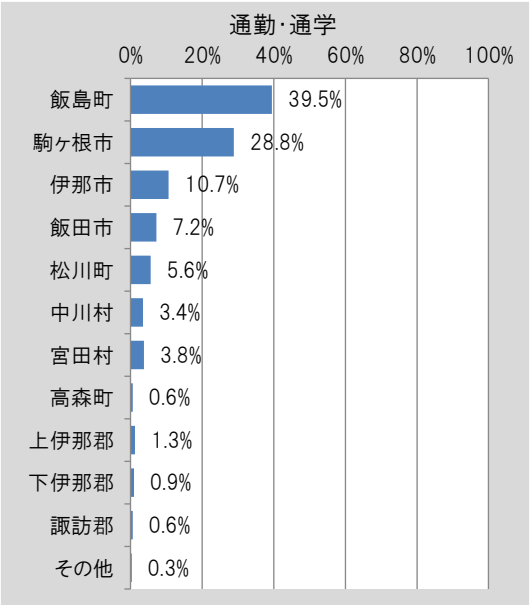
外出時の目的地が「飯島町」との回答が最も高いは「通勤・通学」「行政機関」「金融機関」となった。「駒ヶ根市」は「買い物」「通院」「外食・娯楽」の目的が高く、特に「買い物」「外食・娯楽」は突出している。

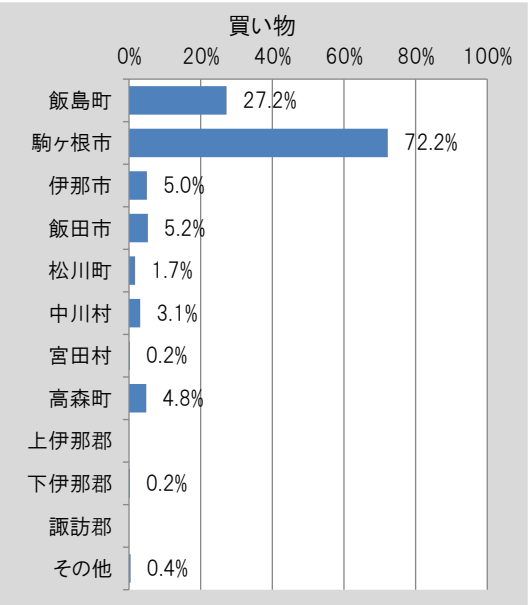
（回答数）

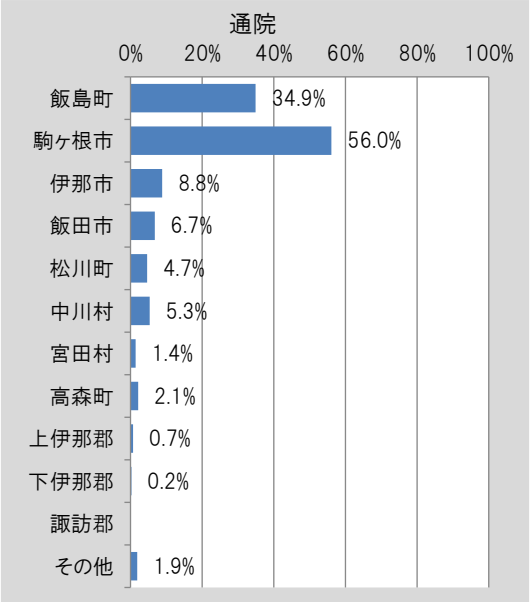
回答項目	通勤･通学	買い物	通院	外食･娯楽	行政機関	金融機関
飯島町	126	131	150	82	397	413
駒ヶ根市	92	348	241	270	3	59
伊那市	34	24	38	81	4	1
飯田市	23	25	29	80		6
松川町	18	8	20	10	1	8
中川村	11	15	23	7		1
宮田村	12	1	6	2		1
高森町	2	23	9	6		
上伊那郡	4		3	5		
下伊那郡	3	1	1	4		
諏訪郡	2			8		
その他	1	2	8	18	2	1
無回答	208	45	97	82	123	64

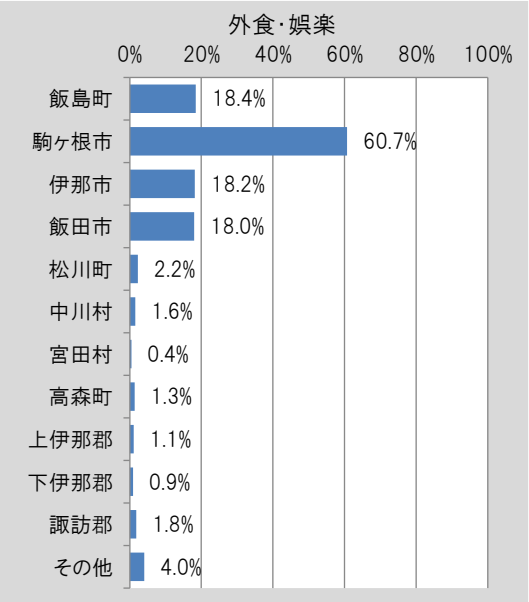
（構成比）

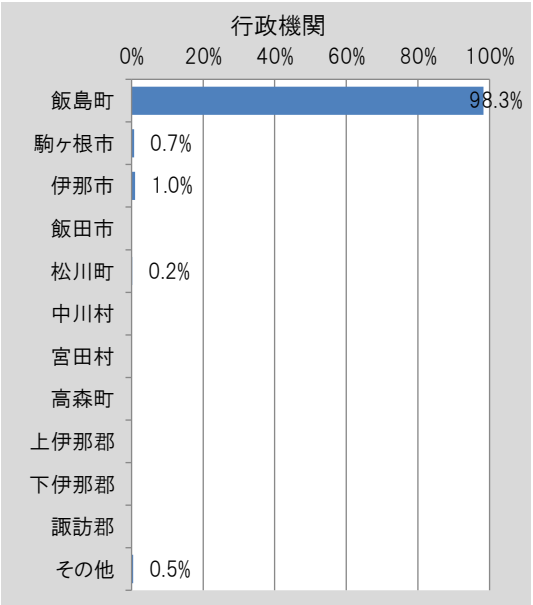
回答項目	通勤･通学	買い物	通院	外食･娯楽	行政機関	金融機関
飯島町	39.5%	27.2%	34.9%	18.4%	98.3%	89.2%
駒ヶ根市	28.8%	72.2%	56.0%	60.7%	0.7%	12.7%
伊那市	10.7%	5.0%	8.8%	18.2%	1.0%	0.2%
飯田市	7.2%	5.2%	6.7%	18.0%		1.3%
松川町	5.6%	1.7%	4.7%	2.2%	0.2%	1.7%
中川村	3.4%	3.1%	5.3%	1.6%		0.2%
宮田村	3.8%	0.2%	1.4%	0.4%		0.2%
高森町	0.6%	4.8%	2.1%	1.3%		
上伊那郡	1.3%		0.7%	1.1%		
下伊那郡	0.9%	0.2%	0.2%	0.9%		
諏訪郡	0.6%			1.8%		
その他	0.3%	0.4%	1.9%	4.0%	0.5%	0.2%

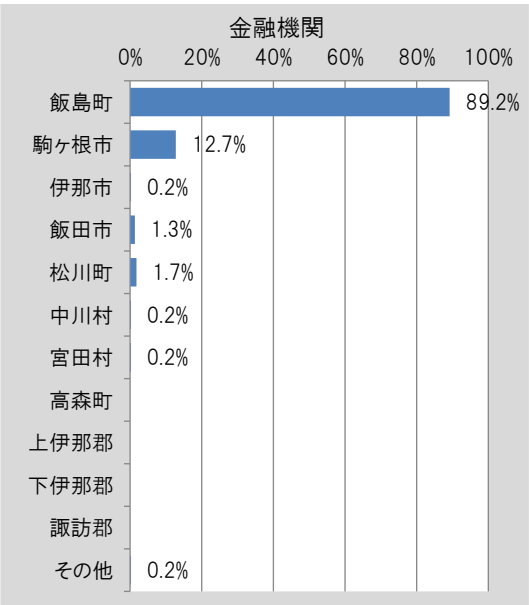

通勤･通学
0%
20%
40%
60%
80%
100%
飯島町 39.5%
駒ヶ根市 28.8%
伊那市 10.7%
飯田市 7.2%
松川町 5.6%
中川村 3.4%
宮田村 3.8%
高森町 0.6%
上伊那郡 1.3%
下伊那郡 0.9%
諏訪郡 0.6%
その他 0.3%


買い物
0%
20%
40%
60%
80%
100%
飯島町 27.2%
駒ヶ根市 72.2%
伊那市 5.0%
飯田市 5.2%
松川町 1.7%
中川村 3.1%
宮田村 0.2%
高森町 4.8%
上伊那郡
下伊那郡 0.2%
諏訪郡
その他 0.4%


通院
0%
20%
40%
60%
80%
100%
飯島町 34.9%
駒ヶ根市 56.0%
伊那市 8.8%
飯田市 6.7%
松川町 4.7%
中川村 5.3%
宮田村 1.4%
高森町 2.1%
上伊那郡 0.7%
下伊那郡 0.2%
諏訪郡
その他 1.9%


外食･娯楽
0%
20%
40%
60%
80%
100%
飯島町 18.4%
駒ヶ根市 60.7%
伊那市 18.2%
飯田市 18.0%
松川町 2.2%
中川村 1.6%
宮田村 0.4%
高森町 1.3%
上伊那郡 1.1%
下伊那郡 0.9%
諏訪郡 1.8%
その他 4.0%


行政機関
0%
20%
40%
60%
80%
100%
飯島町 98.3%
駒ヶ根市 0.7%
伊那市 1.0%
飯田市
松川町 0.2%
中川村
宮田村
高森町
上伊那郡
下伊那郡
諏訪郡
その他 0.5%


金融機関
0%
20%
40%
60%
80%
100%
飯島町 89.2%
駒ヶ根市 12.7%
伊那市 0.2%
飯田市 1.3%
松川町 1.7%
中川村 0.2%
宮田村 0.2%
高森町
上伊那郡
下伊那郡
諏訪郡
その他 0.2%

＜現計画の評価＞

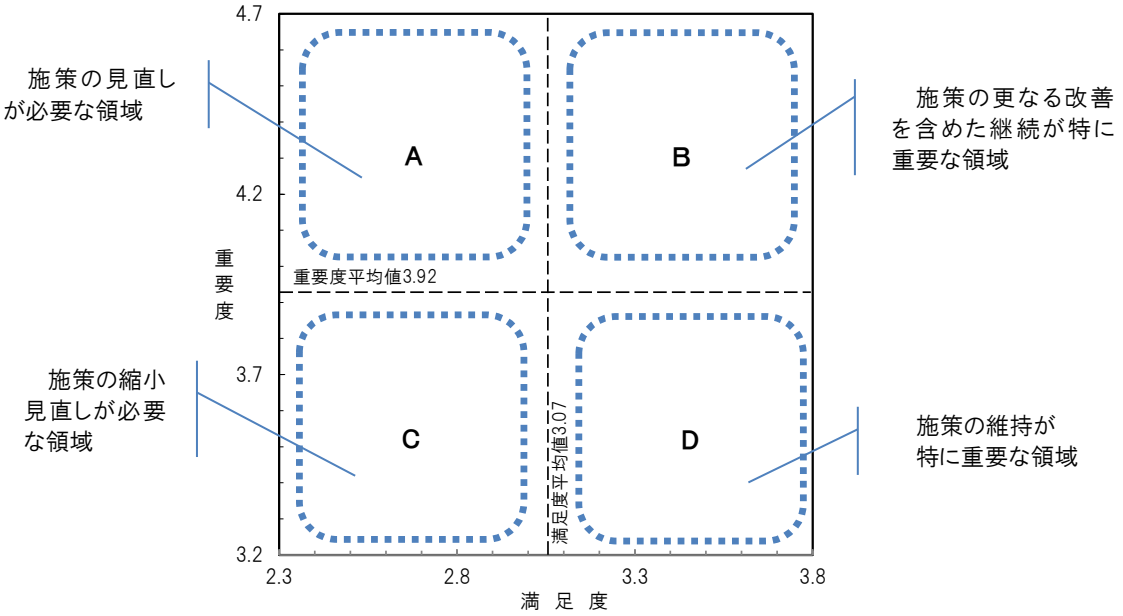
問 12　まちづくり満足度・重要度（現計画の評価）

平成１６年３月に策定した飯島町都市計画マスタープランに示された全体構想における「まちづくりの方針」の各項目ついて、あなたの満足度をお答えください。 また、今後のまちづくりに対する重要度についてもお答えください。

現飯島町都市計画マスタープラン（以下「都市マス」という。）の施策について町民からの評価を得るため、都市マスの「まちづくりの方針」の個別施策すべてに対して満足度と重要度を設問した。また、それら満足度と重要度の相関関係について示した。

相関関係は、満足度の「とても満足である」「まあ満足である」「どちらとも言えない」「やや不満である」「不満である」まで、重要度の「とても重要である」「まあ重要である」「どちらとも言えない」「あまり重要でない」「まったく重要でない」までの回答順に 5 から 1 のポイントを付け、それに回答数を乗算した数値の平均を算出し、満足度をＸ軸、重要度をＹ軸とした散布図グラフとして表現した。なお、4 つの領域を区分する満足度及び重要度の平均値は、39 項目すべての平均値（満足度平均値 3.07、重要度平均値 3.92）とした。

相関散布図の見方は下記のとおりである。



A領域　　**重要度が高く満足度が低い領域**

町民が求めている施策の内容と、実施している施策の内容が不整合を起こしていたり、施策への取り組みが十分でないため、施策の内容等の見直しが必要な領域と判断できる。

B領域　　**重要度が高く満足度も高い領域**

町民が施策の内容について概ね満足しており、さらなる改善も含めて重点的に継続していくことが必要な領域と判断できる。

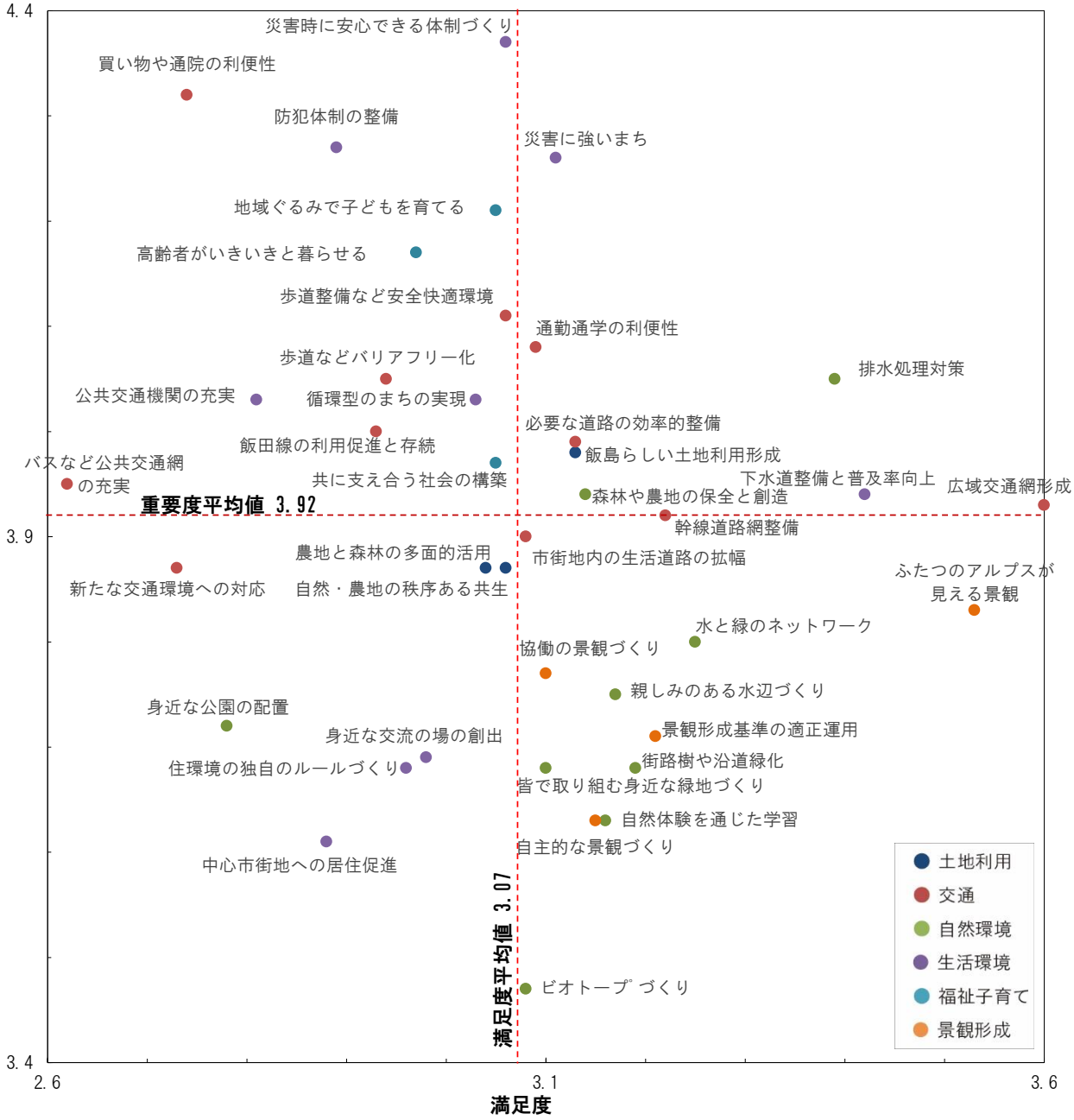
C領域　　**重要度が低く満足度も低い領域**

今後の推移によっては、施策の縮小、廃止を検討する領域と判断できる。

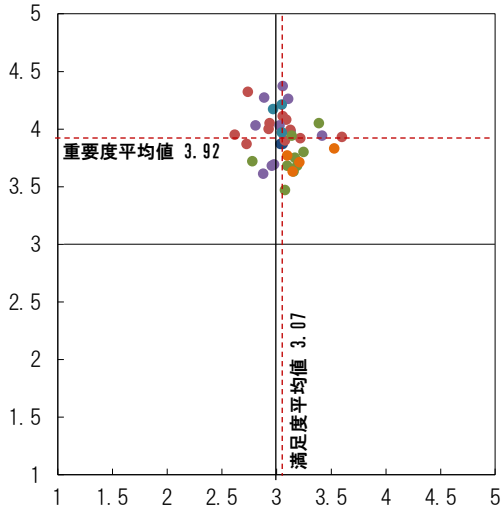
D領域　　**重要度が低く満足度は高い領域**

町民が施策の内容に概ね満足しているが、重要度は高くないため、現状の施策の維持が重要な領域。

まちづくりの方針		施策の展開	満足度平均	重要度平均	領域
1．土地利用の基本方向	1	飯島らしさを映す土地利用の形成	3.13	3.98	B
	2	自然･農地･まち･集落の秩序ある共生	3.06	3.87	C
	3	農地と森林の多面的な活用	3.04	3.87	C
2．交通体系整備の方針	4	国道バイパス整備による広域交通網の形成	3.60	3.93	B
	5	まちの骨格となる幹線道路網の整備	3.22	3.92	B
	6	市街地･集落地内の生活道路の拡幅整備	3.08	3.90	D
	7	必要な道路の効率的な整備	3.13	3.99	B
	8	通勤通学の利便性	3.09	4.08	B
	9	買い物や通院の利便性	2.74	4.32	A
	10	歩道整備など安全、快適に歩ける環境	3.06	4.11	A
	11	歩道の拡幅など交通のバリアフリー化	2.94	4.05	A
	12	バスなど公共交通網の充実	2.62	3.95	A
	13	新たな交通環境への対応	2.73	3.87	C
	14	飯田線の利用促進と存続への働き	2.93	4.00	A
3．自然環境の保全・創造の方針	15	森林や農地の保全と創造	3.14	3.94	B
	16	街路樹や沿道緑化による生活環境の向上	3.19	3.68	D
	17	多様な生物の生息空間(ビオトープ)づくり	3.08	3.47	D
	18	身近な公園の配置	2.78	3.72	C
	19	排水処理対策などにより清流を取り戻す	3.39	4.05	B
	20	生物の生息空間の水と緑のネットワーク	3.25	3.80	D
	21	河川の親水化など親しみのある水辺づくり	3.17	3.75	D
	22	皆で取り組む身近な緑地の手入れと創出	3.10	3.68	D
	23	自然体験を通じた学習や情報交流	3.16	3.63	D
4．生活環境の整備の方針	24	中心市街地への居住促進など暮らしの場の再生	2.88	3.61	C
	25	気軽に集まれる身近な交流の場の創出	2.98	3.69	C
	26	下水道整備の推進と普及率の向上	3.42	3.94	B
	27	公共交通機関の充実による便利に暮らせる環境づくり	2.81	4.03	A
	28	地域独自のルールづくりによる住みやすい住環境形成	2.96	3.68	C
	29	ライフラインの耐震性向上など災害に強いまちづくり	3.11	4.26	B
	30	災害時に安心できる体制づくり	3.06	4.37	A
	31	街灯防犯灯設置の見直しなど防犯体制の整備	2.89	4.27	A
	32	省資源･循環型の地球環境に配慮したまちの実現	3.03	4.03	A
5．福祉と子育て環境づくり	33	高齢者や障がい者がいきいきと暮らせる基盤整備	2.97	4.17	A
	34	地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり	3.05	4.21	A
	35	地域コミュニティの育成など共に支え合う社会の構築	3.05	3.97	A
6．景観形成の方針	36	ふたつのアルプスが見える景観づくり	3.53	3.83	D
	37	飯島町景観計画の景観形成基準の制限の適正な運用	3.21	3.71	D
	38	景観形成住民協定など地域住民の自主的な景観づくり	3.15	3.63	D
	39	町民･事業者･行政の相互理解と協働による景観づくり	3.10	3.77	D
総平均			3.07	3.92	


4.4
3.9
3.4
2.6
3.1
3.6
満足度
重要度平均値 3.92
満足度平均値 3.07
災害時に安心できる体制づくり
買い物や通院の利便性
防犯体制の整備
災害に強いまち
地域ぐるみで子どもを育てる
高齢者がいきいきと暮らせる
歩道整備など安全快適環境
通勤通学の利便性
歩道などバリアフリー化
排水処理対策
公共交通機関の充実
循環型のまちの実現
必要な道路の効率的整備
飯田線の利用促進と存続
飯島らしい土地利用形成
バスなど公共交通網の充実
共に支え合う社会の構築
下水道整備と普及率向上
広域交通網形成
森林や農地の保全と創造
幹線道路網整備
農地と森林の多面的活用
市街地内の生活道路の拡幅
新たな交通環境への対応
自然・農地の秩序ある共生
ふたつのアルプスが見える景観
水と緑のネットワーク
協働の景観づくり
親しみのある水辺づくり
身近な公園の配置
景観形成基準の適正運用
身近な交流の場の創出
街路樹や沿道緑化
住環境の独自のルールづくり
皆で取り組む身近な緑地づくり
自然体験を通じた学習
自主的な景観づくり
中心市街地への居住促進
ビオトープづくり
土地利用
交通
自然環境
生活環境
福祉子育て
景観形成

相関散布図


5
4.5
4
3.5
3
2.5
2
1.5
1
1
1.5
2
2.5
3
3.5
4
4.5
5
重要度平均値 3.92
満足度平均値 3.07

（全体位置図）

1．土地利用の基本方向

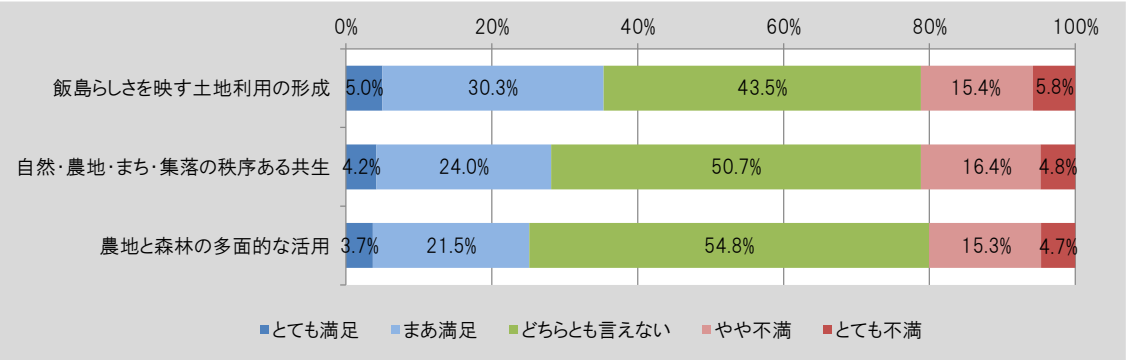
まちづくりの方針「土地利用の基本方向」の満足度では、「とても満足である」「まあ満足である」の回答が多い項目は、「飯島らしさを映す土地利用の形成」が 35.3%と最も高い。「自然・農地・まち・集落の秩序ある共生」「農地と森林の多面的な活用」も順に 28.1%、25.2%を占め、「やや不満である」「とても不満である」を上回っている。

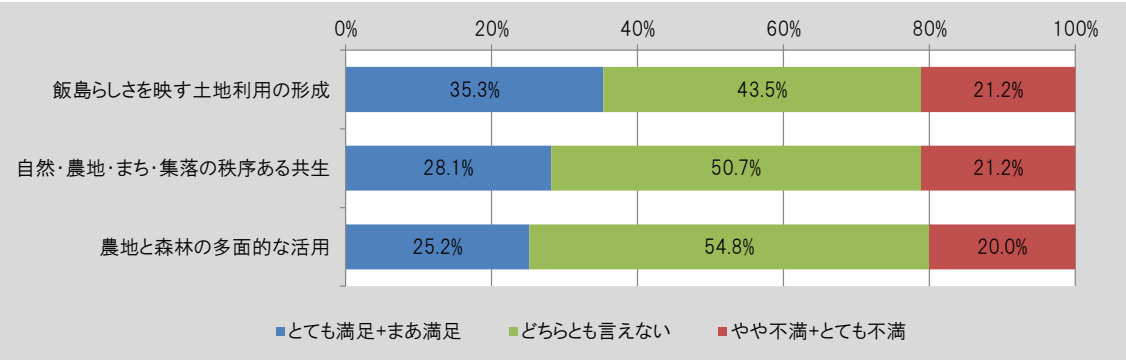
重要度では、「飯島らしさを映す土地利用の形成」を 33.9%が「とても重要である」と回答している。「土地利用の基本方向」の３項目ともに重要度は高く「とても重要である」「まあ重要である」の回答はすべて 60%を超えている。

39 項目全体での相関関係を見ると「飯島らしさを映す土地利用の形成」がＢ領域（重要度が高く満足度も高い領域）、「自然・農地・まち・集落の秩序ある共生」「農地と森林の多面的な活用」がＣ領域（重要度が低く満足度も低い領域）に位置する。

＜満足度＞

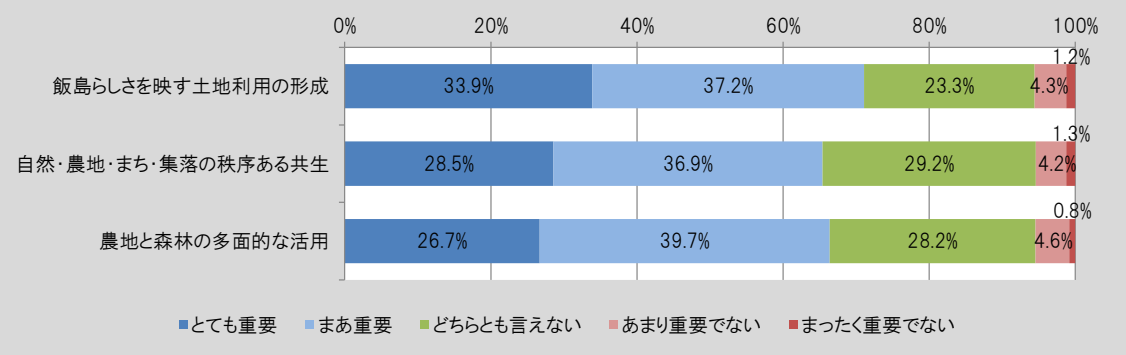
	回答項目	満足度	とても満足である	まあ満足である	どちらとも言えない	やや不満である	とても不満である	無回答	計
1	飯島らしさを映す土地利用の形成	回答数	25	152	218	77	29	26	527
		構成比	5.0%	30.3%	43.5%	15.4%	5.8%	—	100.0%
2	自然･農地･まち･集落の秩序ある共生	回答数	21	120	254	82	24	26	527
		構成比	4.2%	24.0%	50.7%	16.4%	4.8%	—	100.0%
3	農地と森林の多面的な活用	回答数	18	105	268	75	23	38	527
		構成比	3.7%	21.5%	54.8%	15.3%	4.7%	—	100.0%

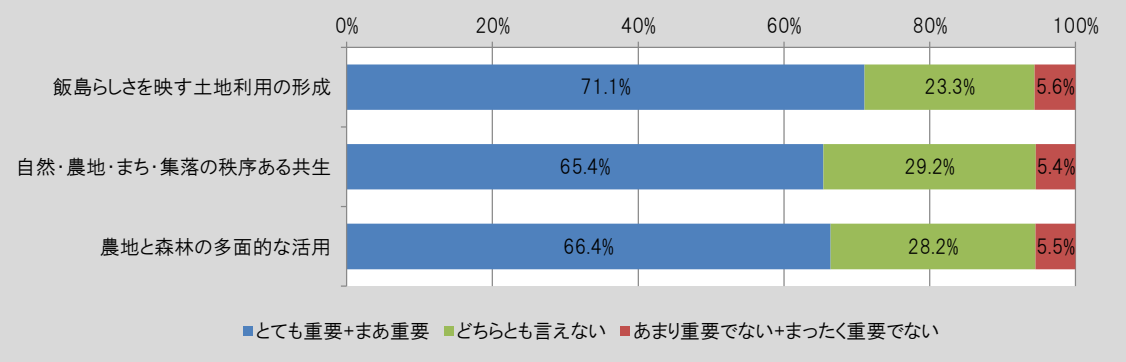




＜重要度＞

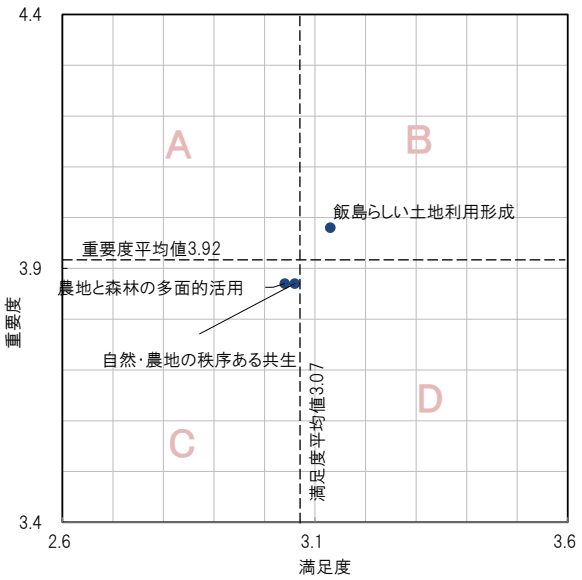
回答項目		満足度	とても重要である	まあ重要である	どちらとも言えない	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	計
1	飯島らしさを映す土地利用の形成	回答数	164	180	113	21	6	43	527
		構成比	33.9%	37.2%	23.3%	4.3%	1.2%	—	100.0%
2	自然･農地･まち･集落の秩序ある共生	回答数	137	177	140	20	6	47	527
		構成比	28.5%	36.9%	29.2%	4.2%	1.3%	—	100.0%
3	農地と森林の多面的な活用	回答数	127	189	134	22	4	51	527
		構成比	26.7%	39.7%	28.2%	4.6%	0.8%	—	100.0%





＜相関関係＞

土地利用の基本方針		満足度	重要度
1	飯島らしさを映す土地利用の形成	3.13	3.98
2	自然･農地･まち･集落の秩序ある共生	3.06	3.87
3	農地と森林の多面的な活用	3.04	3.87



2．交通体系整備の方針

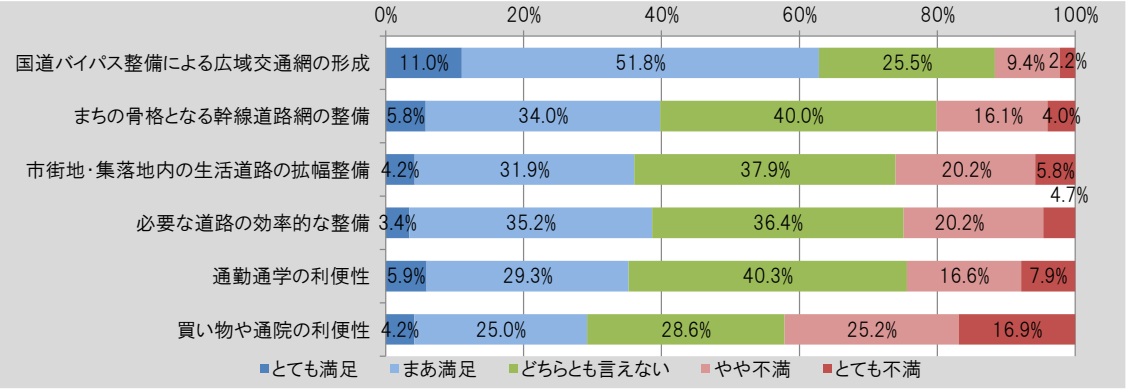
安全で利用しやすい道路網づくり

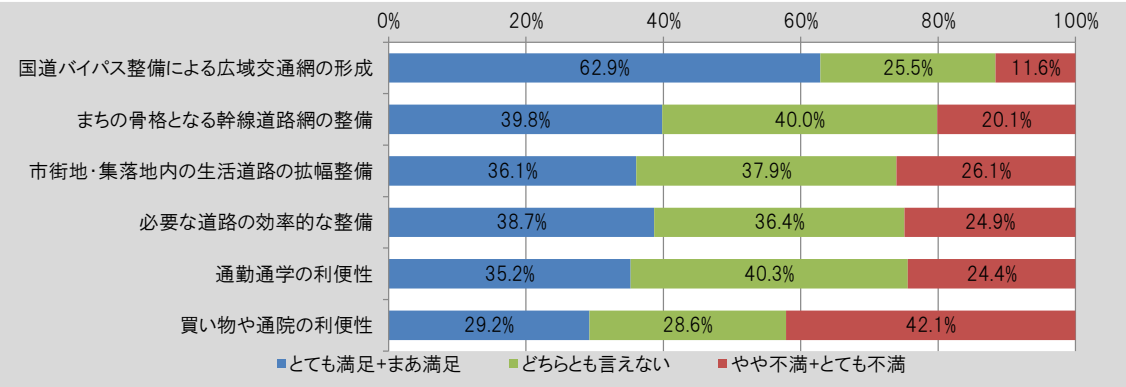
まちづくりの方針「交通体系整備の方針」の「安全で利用しやすい道路網づくり」主に道路や移動に関する９項目になる。満足度では、「国道バイパス整備による広域交通網の形成」が11.0%と高く「まあ満足である」の合計は62.9%と突出して高くなっている。反対に「買い物や通院の利便性」は「やや不満である」と「とても不満である」の合計は42.1%を占めている。

重要度では、満足度が低い「買い物や通院の利便性」について「とても重要」が47.5%と高く、「まあ重要である」の合計は86.7%にも上る。

＜満足度＞

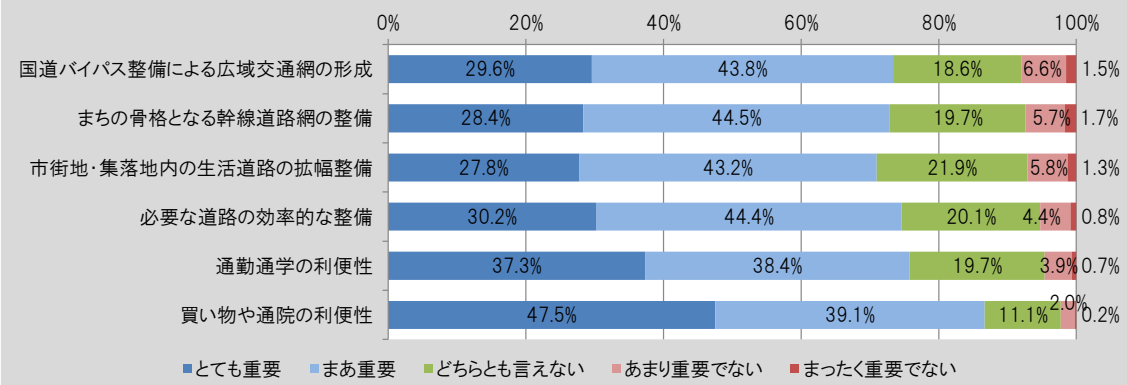
	回答項目	満足度	とても満足である	まあ満足である	どちらとも言えない	やや不満である	とても不満である	無回答	計
4	国道バイパス整備による広域交通網の形成	回答数	55	258	127	47	11	29	527
		構成比	11.0%	51.8%	25.5%	9.4%	2.2%	—	100.0%
5	まちの骨格となる幹線道路網の整備	回答数	29	169	199	80	20	30	527
		構成比	5.8%	34.0%	40.0%	16.1%	4.0%	—	100.0%
6	市街地･集落地内の生活道路の拡幅整備	回答数	21	159	189	101	29	28	527
		構成比	4.2%	31.9%	37.9%	20.2%	5.8%	—	100.0%
7	必要な道路の効率的な整備	回答数	17	174	180	100	23	33	527
		構成比	3.4%	35.2%	36.4%	20.2%	4.7%	—	100.0%
8	通勤通学の利便性	回答数	28	138	190	78	37	56	527
		構成比	5.9%	29.3%	40.3%	16.6%	7.9%	—	100.0%
9	買い物や通院の利便性	回答数	21	126	144	127	85	24	527
		構成比	4.2%	25.0%	28.6%	25.2%	16.9%	—	100.0%

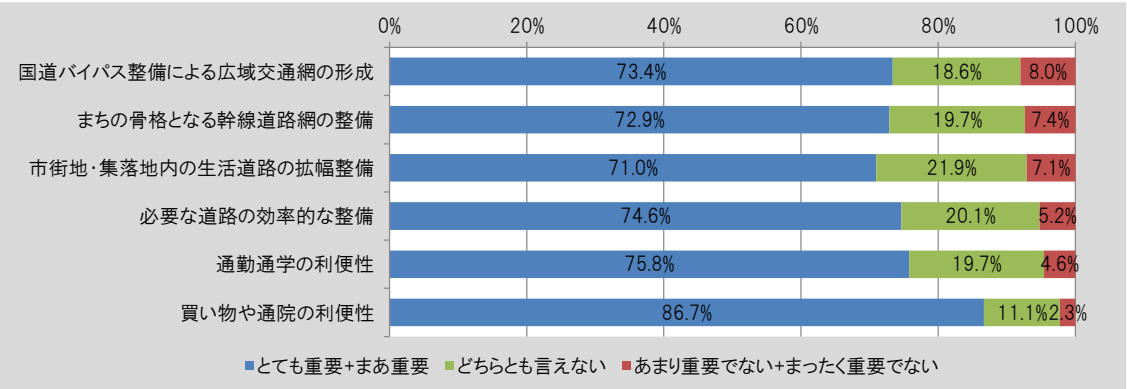




＜重要度＞

	回答項目 ＼ 満足度		とても重要である	まあ重要である	どちらとも言えない	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	計
4	国道バイパス整備による広域交通網の形成	回答数	140	207	88	31	7	54	527
		構成比	29.6%	43.8%	18.6%	6.6%	1.5%	—	100.0%
5	まちの骨格となる幹線道路網の整備	回答数	135	212	94	27	8	51	527
		構成比	28.4%	44.5%	19.7%	5.7%	1.7%	—	100.0%
6	市街地･集落地内の生活道路の拡幅整備	回答数	133	207	105	28	6	48	527
		構成比	27.8%	43.2%	21.9%	5.8%	1.3%	—	100.0%
7	必要な道路の効率的な整備	回答数	144	212	96	21	4	50	527
		構成比	30.2%	44.4%	20.1%	4.4%	0.8%	—	100.0%
8	通勤通学の利便性	回答数	171	176	90	18	3	69	527
		構成比	37.3%	38.4%	19.7%	3.9%	0.7%	—	100.0%
9	買い物や通院の利便性	回答数	232	191	54	10	1	39	527
		構成比	47.5%	39.1%	11.1%	2.0%	0.2%	—	100.0%





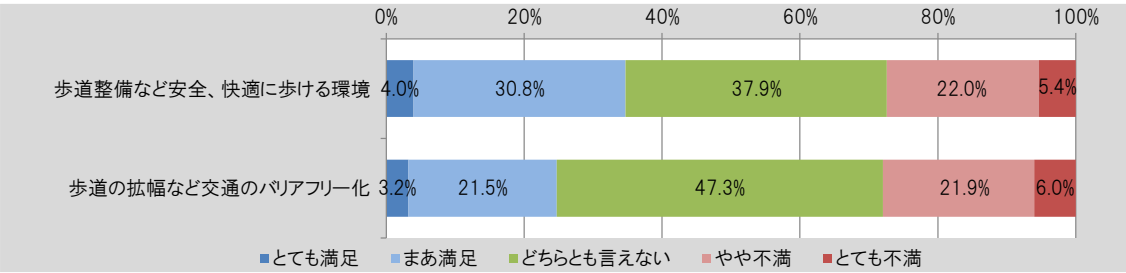
だれもが安心できる交通環境づくり

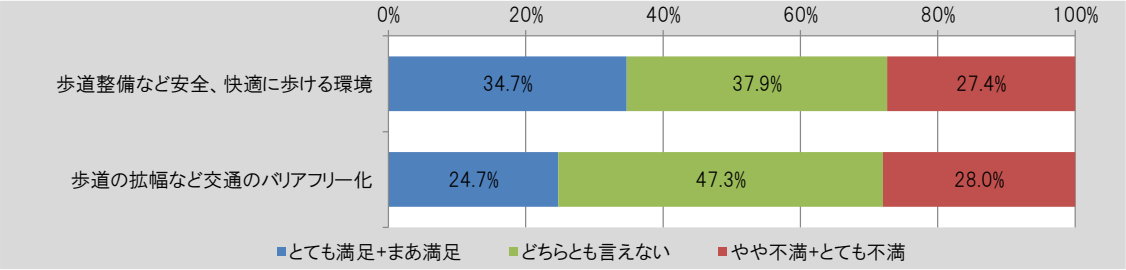
まちづくりの方針「交通体系整備の方針」の「だれもが安心できる交通環境づくり」、主に歩道整備に関する 2 項目である。満足度では「とても満足である」と「まあ満足である」の回答の合計を見ると「安全、快適に歩ける環境」が 34.7%、「歩道の拡幅など交通のバリアフリー」が 24.7%となっている。「歩道の拡幅など交通のバリアフリー」は「やや不満である」「とても不満である」を合計すると 28.0%となり満足より不満が上回っている。

重要度では、「まあ重要である」「とても重要である」の回答は「安全、快適に歩ける環境」79.0%、「歩道の拡幅など交通のバリアフリー化」74.8%と高い値を示している。

＜満足度＞

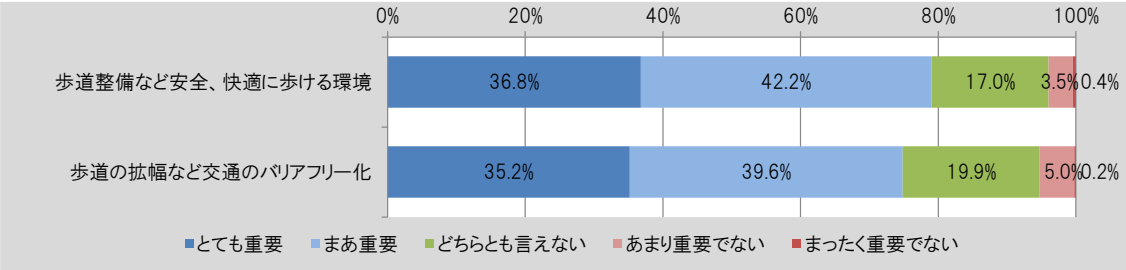
回答項目		満足度	とても満足である	まあ満足である	どちらとも言えない	やや不満である	とても不満である	無回答	計
10	歩道整備など安全、快適に歩ける環境	回答数	20	155	191	111	27	23	527
		構成比	4.0%	30.8%	37.9%	22.0%	5.4%	—	100.0%
11	歩道の拡幅など交通のバリアフリー化	回答数	16	107	235	109	30	30	527
		構成比	3.2%	21.5%	47.3%	21.9%	6.0%	—	100.0%

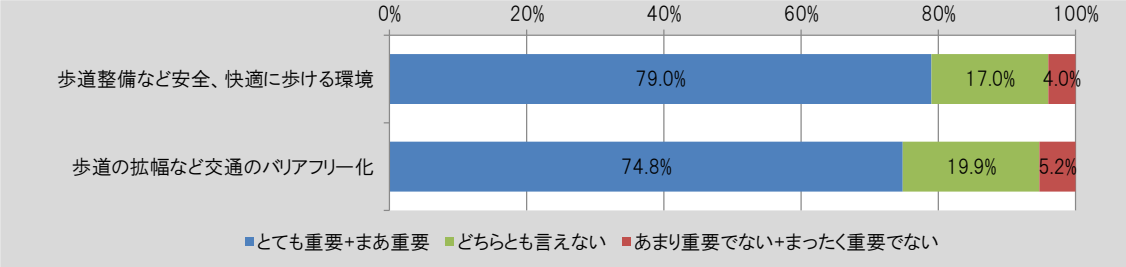




＜重要度＞

	回答項目	満足度	とても重要である	まあ重要である	どちらとも言えない	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	計
10	歩道整備など安全、快適に歩ける環境	回答数	177	203	82	17	2	46	527
		構成比	36.8%	42.2%	17.0%	3.5%	0.4%	—	100.0%
11	歩道の拡幅など交通のバリアフリー化	回答数	168	189	95	24	1	50	527
		構成比	35.2%	39.6%	19.9%	5.0%	0.2%	—	100.0%





気軽に外出できる公共交通の確保

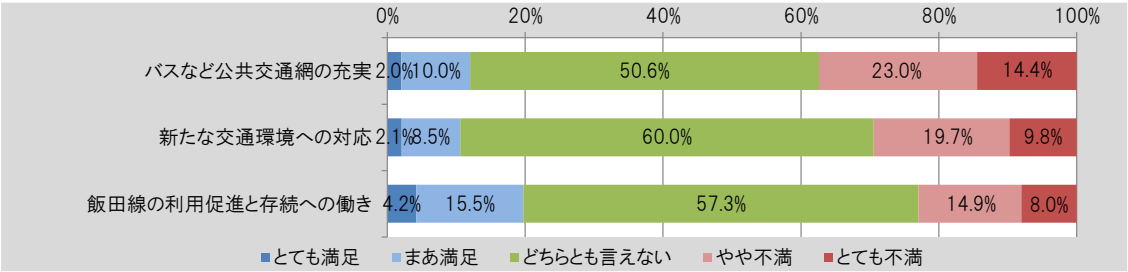
まちづくりの方針「交通体系整備の方針」の「気軽に外出できる公共交通の確保」、主に公共交通に関する３項目である。満足度を見ると、「とても満足である」「まあ満足である」の合計が３項目すべて 10～20%未満にとどまっている。「バスなど公共交通網の充実」は「とても不満である」が 14.4%であり、「やや不満である」の合計は 37.4%となる。３項目すべて「不満」が「満足」を上回っている。

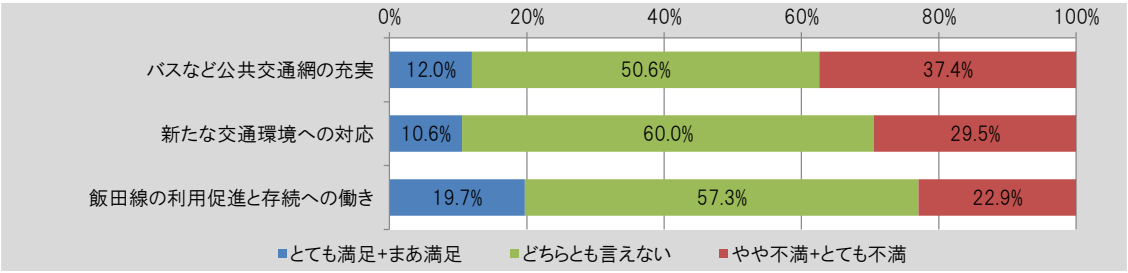
重要度は、３項目とも「とても重要である」の回答が 30%を超えており、「まあ重要である」の合計は「飯田線の利用促進と存続への働き」が 70.1%であり、次いで「バスなど公共交通網の充実」が 69.2%、「新たな交通環境への対応」61.2%と非常に高い値を示している。

また、「交通体系整備の方針」について 39 項目全体での相関関係を見ると、全体的に重要度が平均以上であることから、歩道や買い物等の利便性に関する項目はＡ領域（重要度が高く満足度が低い領域）に多く、道路に関する項目はＢ領域（重要度が高く満足度も高い領域）に多い。

＜満足度＞

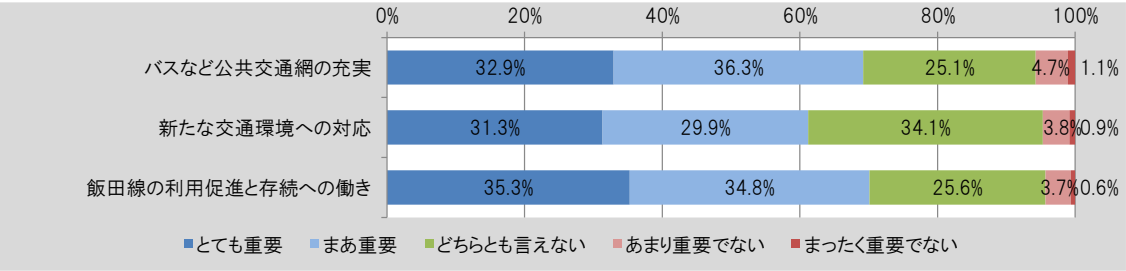
	回答項目	満足度	とても満足である	まあ満足である	どちらとも言えない	やや不満である	とても不満である	無回答	計
12	バスなど公共交通網の充実	回答数	10	49	249	113	71	35	527
		構成比	2.0%	10.0%	50.6%	23.0%	14.4%	―	100.0%
13	新たな交通環境への対応	回答数	10	41	289	95	47	45	527
		構成比	2.1%	8.5%	60.0%	19.7%	9.8%	―	100.0%
14	飯田線の利用促進と存続への働き	回答数	21	77	285	74	40	30	527
		構成比	4.2%	15.5%	57.3%	14.9%	8.0%	―	100.0%

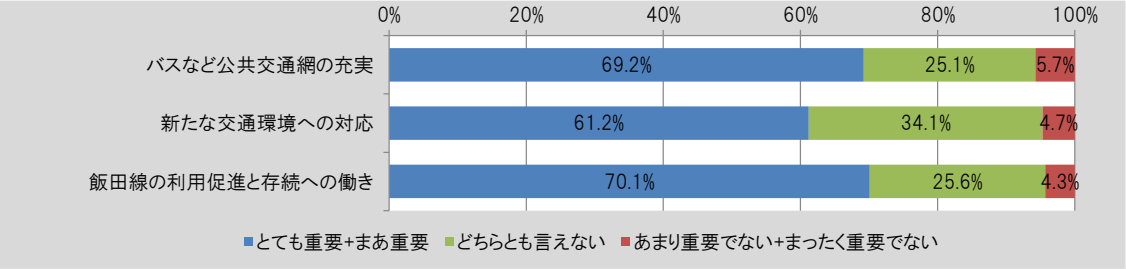




＜重要度＞

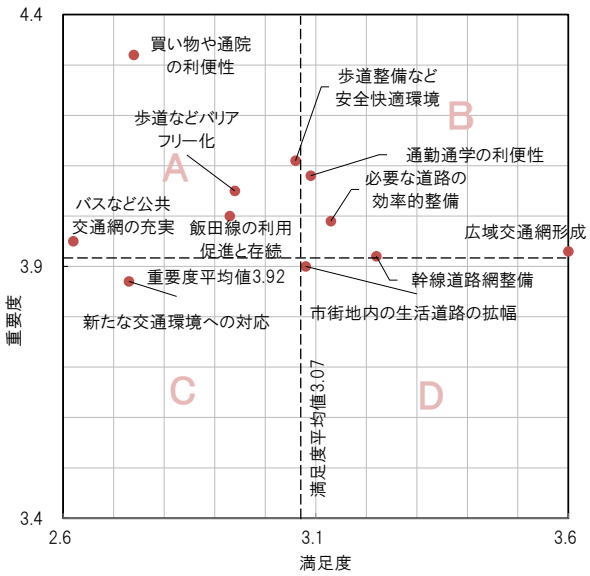
回答項目		満足度	とても重要である	まあ重要である	どちらとも言えない	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	計
12	バスなど公共交通網の充実	回答数	155	171	118	22	5	56	527
		構成比	32.9%	36.3%	25.1%	4.7%	1.1%	—	100.0%
13	新たな交通環境への対応	回答数	147	140	160	18	4	58	527
		構成比	31.3%	29.9%	34.1%	3.8%	0.9%	—	100.0%
14	飯田線の利用促進と存続への働き	回答数	171	169	124	18	3	42	527
		構成比	35.3%	34.8%	25.6%	3.7%	0.6%	—	100.0%





＜相関関係＞

	交通体系整備の方針	満足度	重要度
4	国道バイパス整備による広域交通網の形成	3.60	3.93
5	まちの骨格となる幹線道路網の整備	3.22	3.92
6	市街地・集落地内の生活道路の拡幅整備	3.08	3.90
7	必要な道路の効率的な整備	3.13	3.99
8	通勤通学の利便性	3.09	4.08
9	買い物や通院の利便性	2.74	4.32
10	歩道整備など安全、快適に歩ける環境	3.06	4.11
11	歩道の拡幅など交通のバリアフリー化	2.94	4.05
12	バスなど公共交通網の充実	2.62	3.95
13	新たな交通環境への対応	2.73	3.87
14	飯田線の利用促進と存続への働き	2.93	4.00



3．自然環境の保全・創造の方針

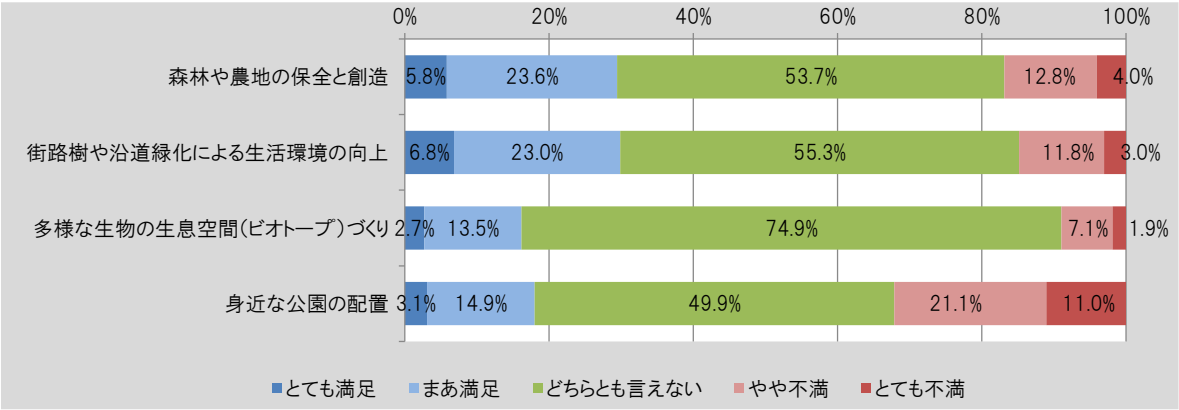
緑に包まれるまちづくり

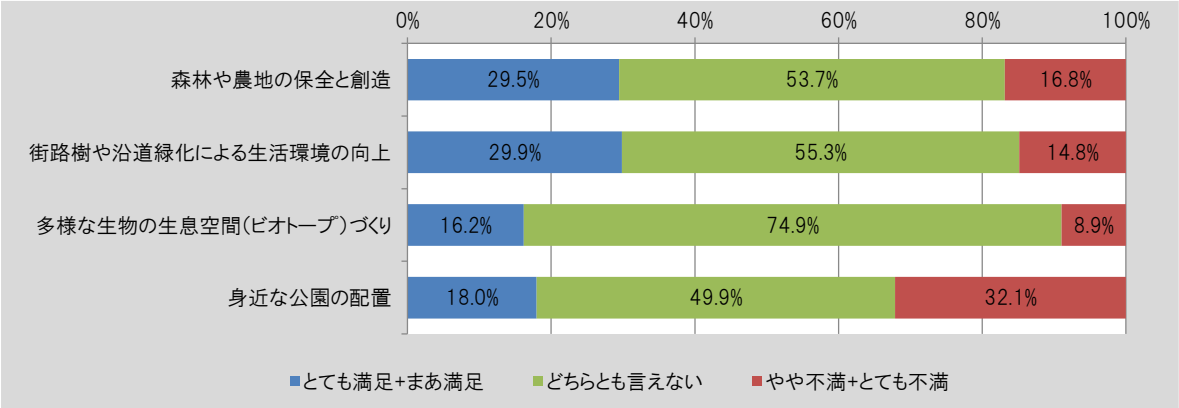
まちづくりの方針「自然環境の保全・創造の方針」の「緑に囲まれるまちづくり」、主に森林や市街地緑化に関する４項目である。満足度を見ると、「とても満足である」「まあ満足である」の合計は、「街路樹や沿道緑化による生活環境の向上」が 29.9%、「森林や農地の保全と創造」29.5%と比較的高い。「身近な公園の配置」は 18%と低く、「やや不満である」「とても不満である」の合計は 32.1%と非常に高い値を示している。

重要度は、「とても重要である」の回答が多いのは「森林や農地の保全と創造」が 30.7%、「身近な公園の配置」が 24.6%となっており、「まあ重要である」の合計は順に 66.4%、58.6%となっている。

＜満足度＞

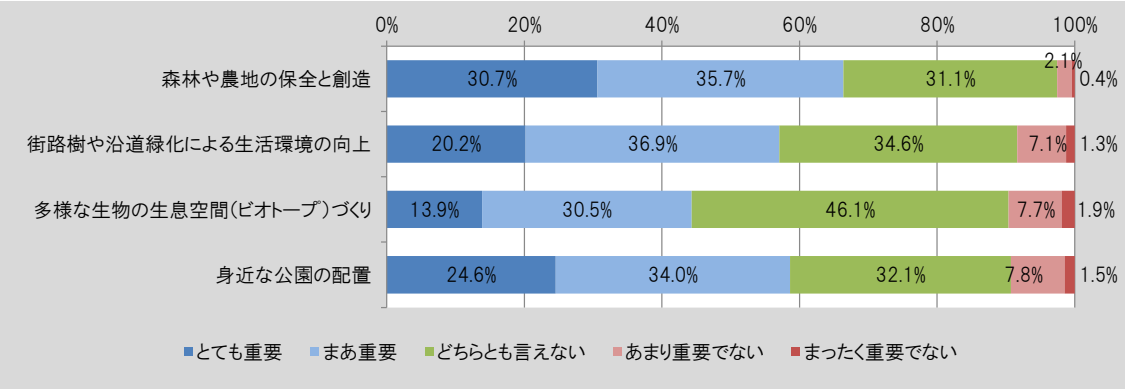
	回答項目	満足度	とても満足である	まあ満足である	どちらとも言えない	やや不満である	とても不満である	無回答	計
15	森林や農地の保全と創造	回答数	29	118	268	64	20	28	527
		構成比	5.8%	23.6%	53.7%	12.8%	4.0%	—	100.0%
16	街路樹や沿道緑化による生活環境の向上	回答数	34	115	276	59	15	28	527
		構成比	6.8%	23.0%	55.3%	11.8%	3.0%	—	100.0%
17	多様な生物の生息空間(ビオトープ)づくり	回答数	13	65	361	34	9	45	527
		構成比	2.7%	13.5%	74.9%	7.1%	1.9%	—	100.0%
18	身近な公園の配置	回答数	15	73	244	103	54	38	527
		構成比	3.1%	14.9%	49.9%	21.1%	11.0%	—	100.0%

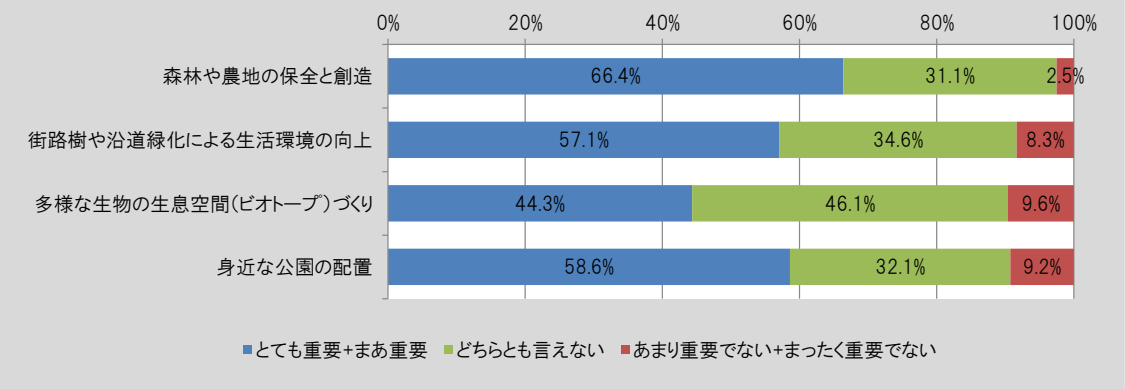




＜重要度＞

	回答項目	満足度	とても重要である	まあ重要である	どちらとも言えない	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	計
15	森林や農地の保全と創造	回答数	145	169	147	10	2	54	527
		構成比	30.7%	35.7%	31.1%	2.1%	0.4%	―	100.0%
16	街路樹や沿道緑化による生活環境の向上	回答数	97	177	166	34	6	47	527
		構成比	20.2%	36.9%	34.6%	7.1%	1.3%	―	100.0%
17	多様な生物の生息空間(ビオトープ)づくり	回答数	65	143	216	36	9	58	527
		構成比	13.9%	30.5%	46.1%	7.7%	1.9%	―	100.0%
18	身近な公園の配置	回答数	117	162	153	37	7	51	527
		構成比	24.6%	34.0%	32.1%	7.8%	1.5%	―	100.0%





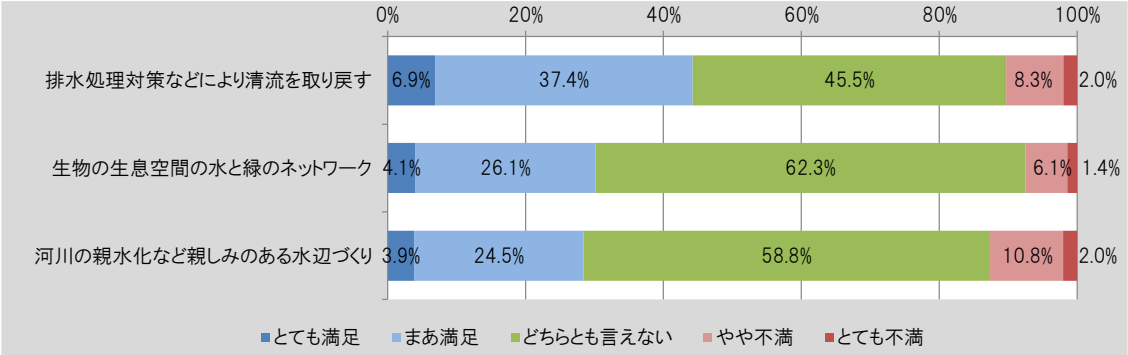
水環境の保全と再生

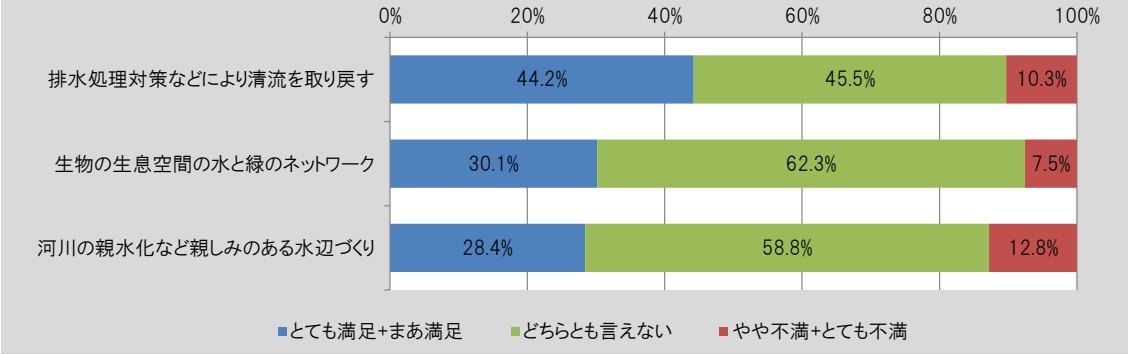
まちづくりの方針「自然環境の保全・創造の方針」の「水環境の保全と再生」、河川に関する３項目である。満足度を見ると、「排水処理対策などにより清流を取り戻す」が「とても満足である」「まあ満足である」の合計が 44.2%と比較的高い値を示している。反対に「河川の親水化など親しみのある水辺づくり」は 28.4%にとどまり、「やや不満である」「とても不満である」の合計が 12.8%にのぼる。

重要度では、３項目とも「とても重要である」「まあ重要である」の合計が 60%を超えており、特に「排水処理対策などにより清流を取り戻す」が 73.4%を示している。

＜満足度＞

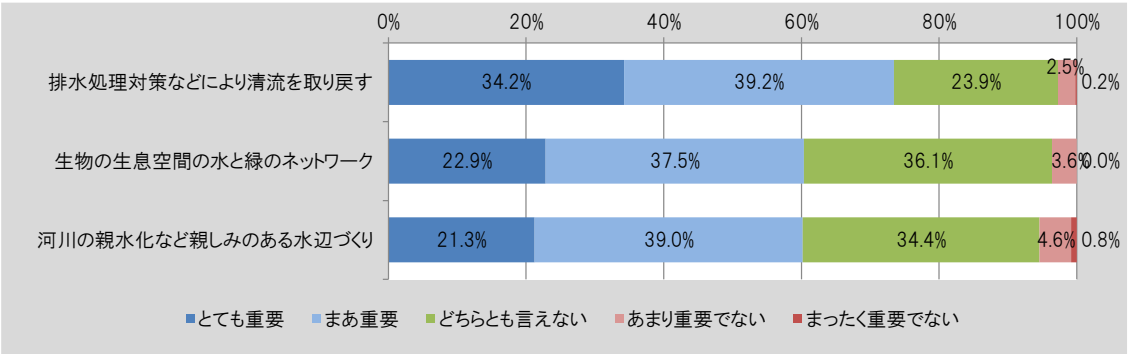
回答項目		満足度	とても満足である	まあ満足である	どちらとも言えない	やや不満である	とても不満である	無回答	計
19	排水処理対策などにより清流を取り戻す	回答数	34	185	225	41	10	32	527
		構成比	6.9%	37.4%	45.5%	8.3%	2.0%	―	100.0%
20	生物の生息空間の水と緑のネットワーク	回答数	20	128	306	30	7	36	527
		構成比	4.1%	26.1%	62.3%	6.1%	1.4%	―	100.0%
21	河川の親水化など親しみのある水辺づくり	回答数	19	121	290	53	10	34	527
		構成比	3.9%	24.5%	58.8%	10.8%	2.0%	―	100.0%

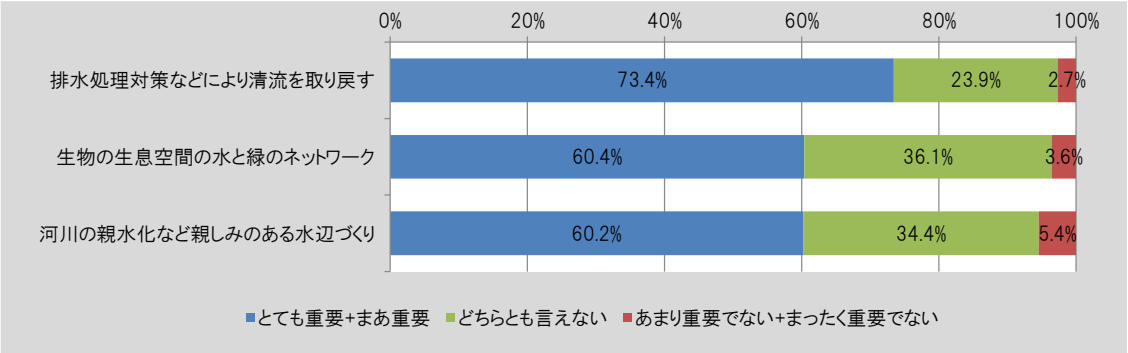




＜重要度＞

	回答項目	満足度	とても重要である	まあ重要である	どちらとも言えない	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	計
19	排水処理対策などにより清流を取り戻す	回答数	165	189	115	12	1	45	527
		構成比	34.2%	39.2%	23.9%	2.5%	0.2%	—	100.0%
20	生物の生息空間の水と緑のネットワーク	回答数	109	179	172	17	0	50	527
		構成比	22.9%	37.5%	36.1%	3.6%	0.0%	—	100.0%
21	河川の親水化など親しみのある水辺づくり	回答数	102	187	165	22	4	47	527
		構成比	21.3%	39.0%	34.4%	4.6%	0.8%	—	100.0%





みんなで取り組む環境づくり

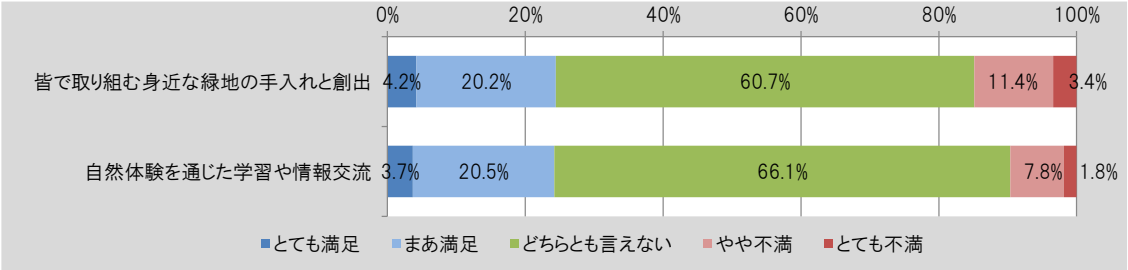
まちづくりの方針「自然環境の保全・創造の方針」の「みんなで取り組む環境づくり」、環境への住民参加に関する２項目である。満足度では、「皆で取り組む身近な緑地の手入れと創出」「自然体験を通じた学習や情報交流」ともに「とても満足である」「まあ満足である」の合計が24%程度、一方で「やや不満である」「とても不満である」も低い。関心の低さ、もしくは項目の答え難さも考えられる。

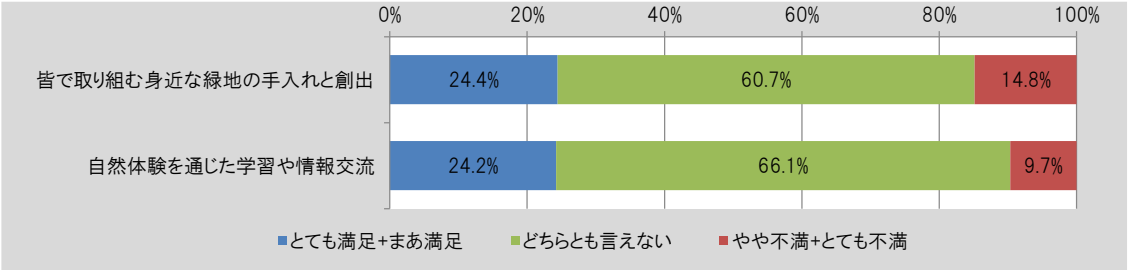
重要度では、「とても重要である」「まあ重要である」の合計は、「皆で取り組む身近な緑地の手入れと創出」が 58.1%、「自然体験を通じた学習や情報交流」が 54.6%と高い。

また、「自然環境の保全・創造の方針」について 39 項目全体での相関関係を見ると、「森林や農地の保全と創造」「排水処理対策などにより清流を取り戻す」がＢ領域（重要度が高く満足度も高い領域）、「身近な公園整備」がＣ領域に位置する。その他の項目については、重要度が平均を下回っていることから、Ｄ領域（重要度が低く満足度は高い領域）に多く位置する。

＜満足度＞

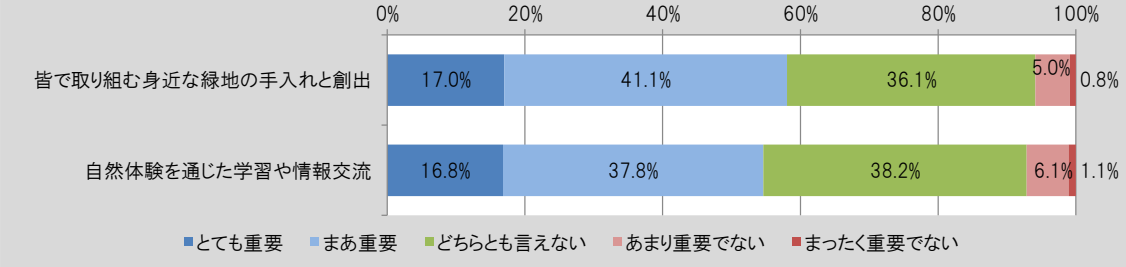
	回答項目 ＼ 満足度		とても満足である	まあ満足である	どちらとも言えない	やや不満である	とても不満である	無回答	計
22	皆で取り組む身近な緑地の手入れと創出	回答数	21	101	303	57	17	28	527
		構成比	4.2%	20.2%	60.7%	11.4%	3.4%	—	100.0%
23	自然体験を通じた学習や情報交流	回答数	18	100	322	38	9	40	527
		構成比	3.7%	20.5%	66.1%	7.8%	1.8%	—	100.0%

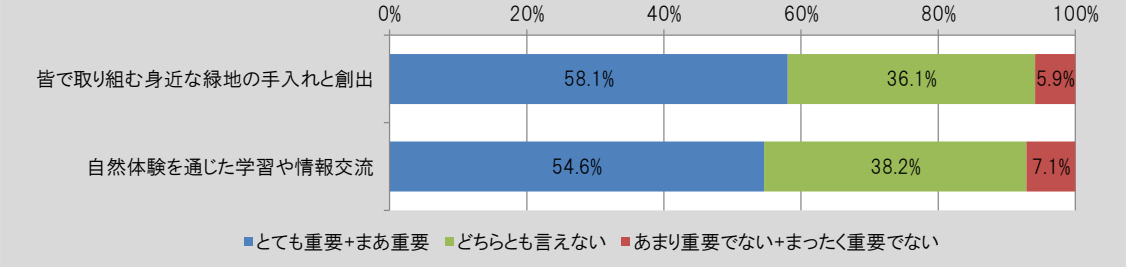




＜重要度＞

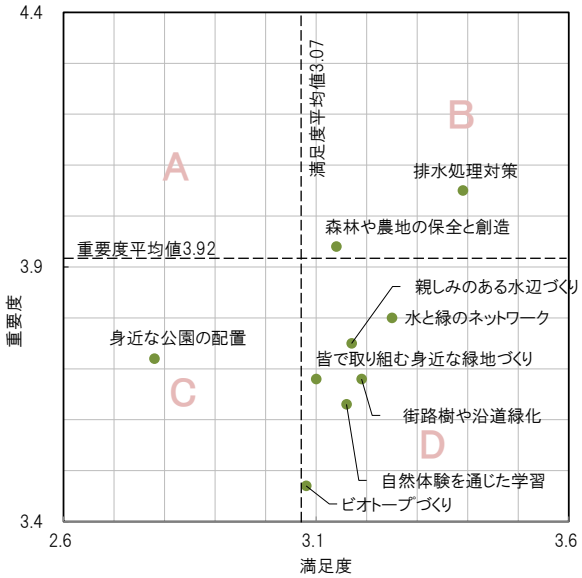
回答項目		満足度	とても重要である	まあ重要である	どちらとも言えない	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	計
22	皆で取り組む身近な緑地の手入れと創出	回答数	81	196	172	24	4	50	527
		構成比	17.0%	41.1%	36.1%	5.0%	0.8%	—	100.0%
23	自然体験を通じた学習や情報交流	回答数	80	180	182	29	5	51	527
		構成比	16.8%	37.8%	38.2%	6.1%	1.1%	—	100.0%





＜相関関係＞

自然環境の保全・創造の方針		満足度	重要度
15	森林や農地の保全と創造	3.14	3.94
16	街路樹や沿道緑化による生活環境の向上	3.19	3.68
17	多様な生物の生息空間(ビオトープ)づくり	3.08	3.47
18	身近な公園の配置	2.78	3.72
19	排水処理対策などにより清流を取り戻す	3.39	4.05
20	生物の生息空間の水と緑のネットワーク	3.25	3.80
21	河川の親水化など親しみのある水辺づくり	3.17	3.75
22	皆で取り組む身近な緑地の手入れと創出	3.10	3.68
23	自然体験を通じた学習や情報交流	3.16	3.63



4．生活環境の整備の方針

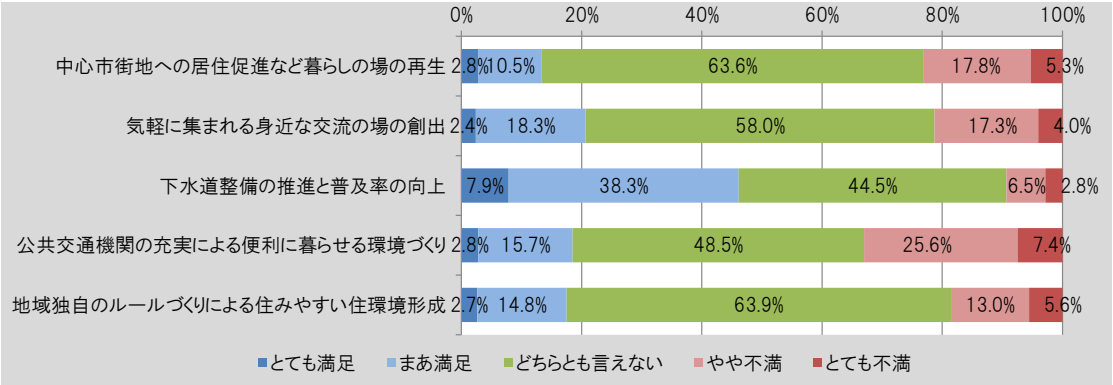
質の高い住環境づくり

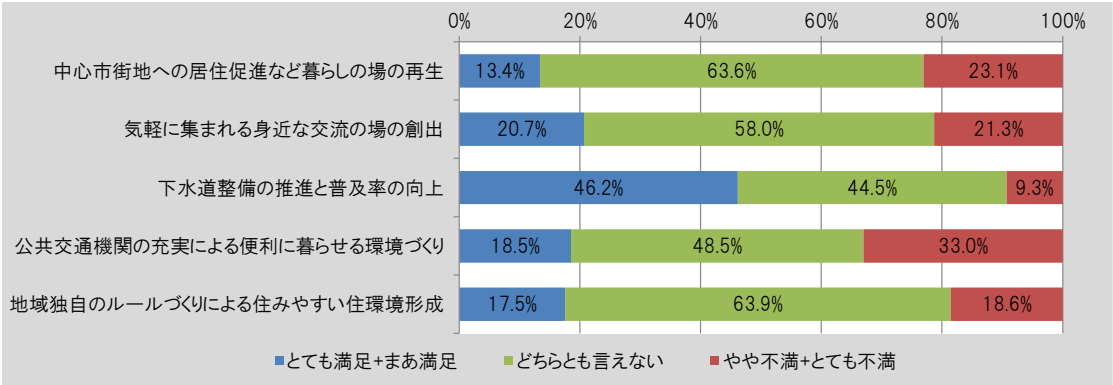
まちづくりの方針「生活環境の整備の方針」の「質の高い住環境づくり」、住環境に関する5項目である。満足度は、「下水道整備の推進と普及率の向上」の満足度が突出して高く「とても満足である」「まあ満足である」の合計が46.2%を占めている。反対に「公共交通機関の充実による便利に暮らせる環境づくり」の「やや不満である」「とても不満である」の合計が33.0%と最も高く、次いで「中心市街地への居住促進など暮らしの場の再生」「気軽に集まれる身近な交流の場の創出」に不満が高くなっている。

重要度は、「公共交通機関の充実による便利に暮らせる環境づくり」は「とても重要である」の回答が31.7%と非常に高く「まあ重要である」を合計すると74.8%になる。その他の項目すべて50%を超えている。

＜満足度＞

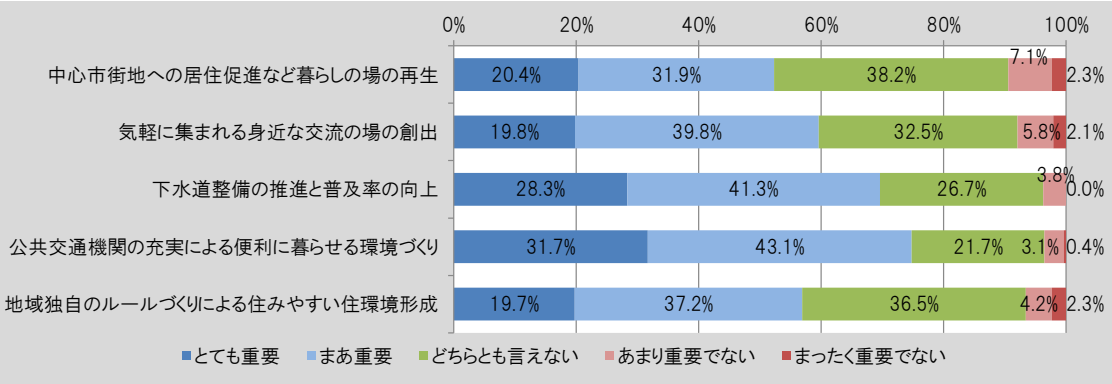
	回答項目	満足度	とても満足である	まあ満足である	どちらとも言えない	やや不満である	とても不満である	無回答	計
24	中心市街地への居住促進など暮らしの場の再生	回答数	14	52	314	88	26	33	527
		構成比	2.8%	10.5%	63.6%	17.8%	5.3%	—	100.0%
25	気軽に集まれる身近な交流の場の創出	回答数	12	91	289	86	20	29	527
		構成比	2.4%	18.3%	58.0%	17.3%	4.0%	—	100.0%
26	下水道整備の推進と普及率の向上	回答数	39	189	220	32	14	33	527
		構成比	7.9%	38.3%	44.5%	6.5%	2.8%	—	100.0%
27	公共交通機関の充実による便利に暮らせる環境づくり	回答数	14	78	241	127	37	30	527
		構成比	2.8%	15.7%	48.5%	25.6%	7.4%	—	100.0%
28	地域独自のルールづくりによる住みやすい住環境形成	回答数	13	72	310	63	27	42	527
		構成比	2.7%	14.8%	63.9%	13.0%	5.6%	—	100.0%

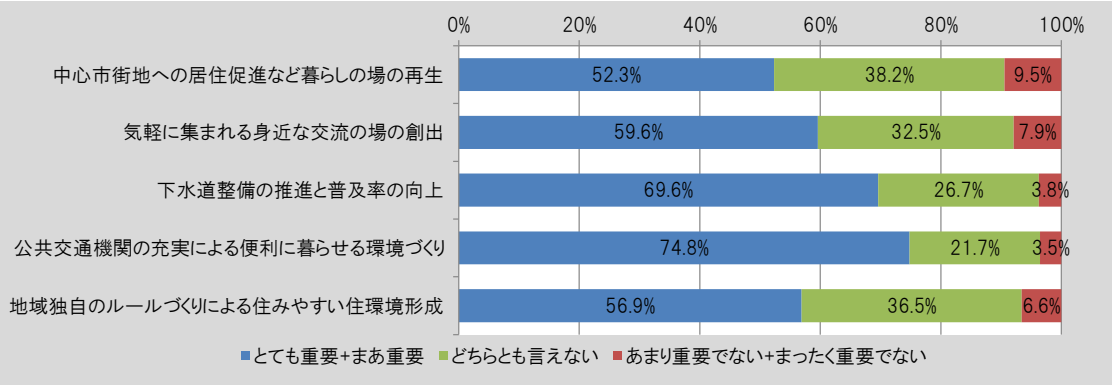




＜重要度＞

	回答項目 ＼ 満足度		とても重要である	まあ重要である	どちらとも言えない	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	計
24	中心市街地への居住促進など暮らしの場の再生	回答数	97	152	182	34	11	51	527
		構成比	20.4%	31.9%	38.2%	7.1%	2.3%	—	100.0%
25	気軽に集まれる身近な交流の場の創出	回答数	95	191	156	28	10	47	527
		構成比	19.8%	39.8%	32.5%	5.8%	2.1%	—	100.0%
26	下水道整備の推進と普及率の向上	回答数	136	198	128	18	0	47	527
		構成比	28.3%	41.3%	26.7%	3.8%	0.0%	—	100.0%
27	公共交通機関の充実による便利に暮らせる環境づくり	回答数	152	207	104	15	2	47	527
		構成比	31.7%	43.1%	21.7%	3.1%	0.4%	—	100.0%
28	地域独自のルールづくりによる住みやすい住環境形成	回答数	93	175	172	20	11	56	527
		構成比	19.7%	37.2%	36.5%	4.2%	2.3%	—	100.0%





安心して住み続けられる環境づくり

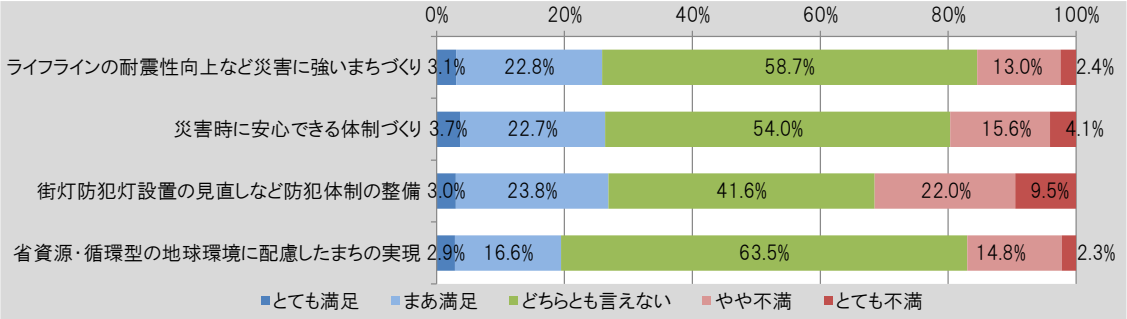
まちづくりの方針「生活環境の整備の方針」の「安心して住み続けられる環境づくり」、防犯・防災等に関する 4 項目である。満足度は、「とても満足である」「まあ満足である」の合計は、「街灯防犯灯設置の見直しなど防犯体制の整備」が 26.9%、「災害時に安心できる体制づくり」26.4%、「ライフラインの耐震性向上など災害に強いまちづくり」25.9%であり、防犯・防災に関する満足度は 25%程度となっている。「省資源・循環型の地球環境に配慮したまちの実現」は 19.5%と防犯・防災の項目よりやや満足度は低い。また、「街灯防犯灯設置の見直しなど防犯体制の整備」は「やや不満である」「とても不満である」の合計が 31.5%を占めている。

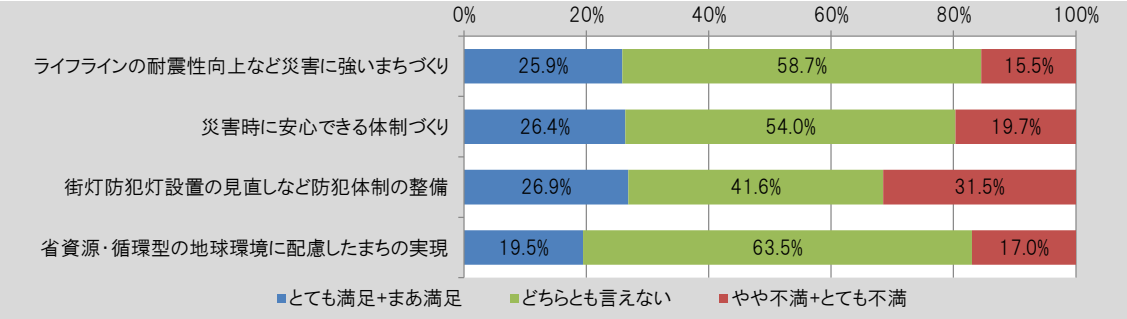
重要度は、防犯・防災の項目は「とても重要である」「まあ重要である」の合計が、すべて 80%を超えており、「省資源・循環型の地球環境に配慮したまちの実現」も 70.9%を占めている。

また、「生活環境の整備の方針」について 39 項目全体での相関関係を見ると、「公共交通機関の充実」「災害時に安心できる体制づくり」「防犯体制の整備」「循環型のまちの実現」がA領域（重要度が高く満足度が低い領域）、「下水道整備と普及率向上」「災害に強いまち」がB領域（重要度が高く満足度も高い領域）に位置する。当該項目はD領域（重要度が低く満足度は高い領域）に位置する項目はない。

＜満足度＞

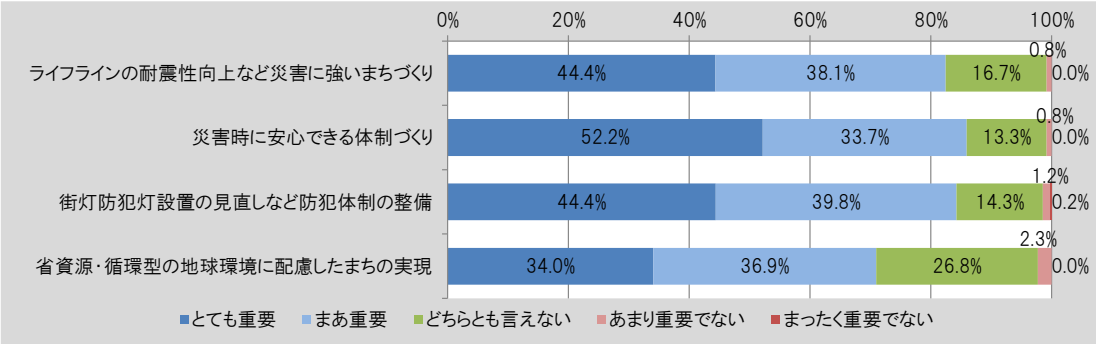
	回答項目 ＼ 満足度		とても満足である	まあ満足である	どちらとも言えない	やや不満である	とても不満である	無回答	計
29	ライフラインの耐震性向上など災害に強いまちづくり	回答数	15	112	288	64	12	36	527
		構成比	3.1%	22.8%	58.7%	13.0%	2.4%	—	100.0%
30	災害時に安心できる体制づくり	回答数	18	112	266	77	20	34	527
		構成比	3.7%	22.7%	54.0%	15.6%	4.1%	—	100.0%
31	街灯防犯灯設置の見直しなど防犯体制の整備	回答数	15	118	206	109	47	32	527
		構成比	3.0%	23.8%	41.6%	22.0%	9.5%	—	100.0%
32	省資源･循環型の地球環境に配慮したまちの実現	回答数	14	81	310	72	11	39	527
		構成比	2.9%	16.6%	63.5%	14.8%	2.3%	—	100.0%

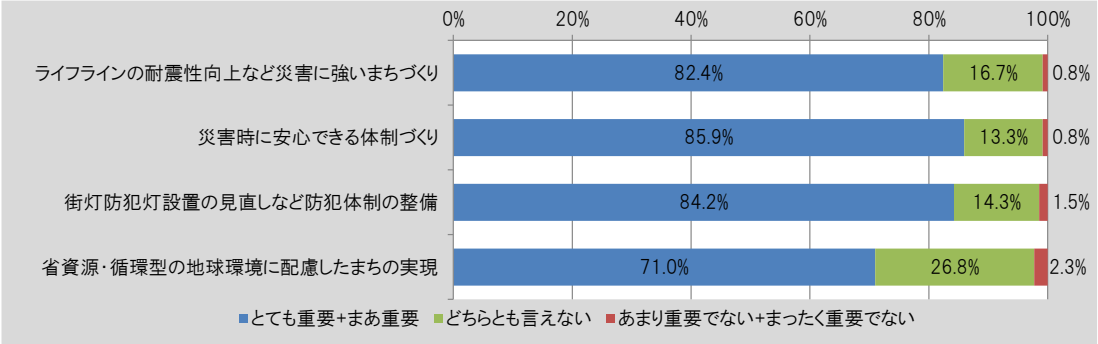




＜重要度＞

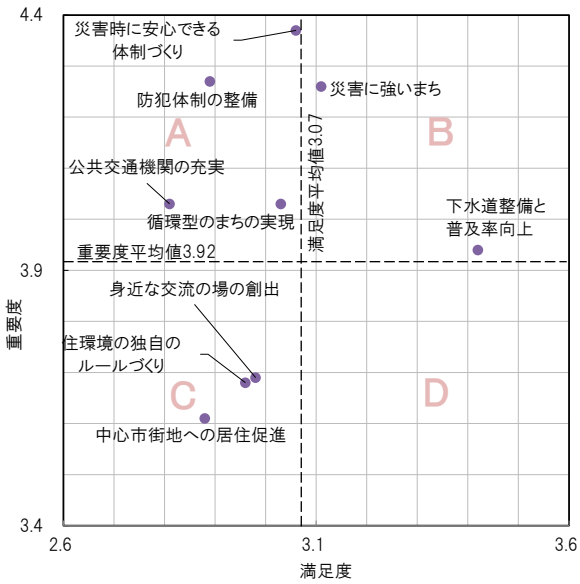
	回答項目	満足度	とても重要である	まあ重要である	どちらとも言えない	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	計
29	ライフラインの耐震性向上など災害に強いまちづくり	回答数	212	182	80	4	0	49	527
		構成比	44.4%	38.1%	16.7%	0.8%	0.0%	—	100.0%
30	災害時に安心できる体制づくり	回答数	252	163	64	4	0	44	527
		構成比	52.2%	33.7%	13.3%	0.8%	0.0%	—	100.0%
31	街灯防犯灯設置の見直しなど防犯体制の整備	回答数	214	192	69	6	1	45	527
		構成比	44.4%	39.8%	14.3%	1.2%	0.2%	—	100.0%
32	省資源･循環型の地球環境に配慮したまちの実現	回答数	164	178	129	11	0	45	527
		構成比	34.0%	36.9%	26.8%	2.3%	0.0%	—	100.0%





＜相関関係＞

	生活環境の整備の方針	満足度	重要度
24	中心市街地への居住促進など暮らしの場の再生	2.88	3.61
25	気軽に集まれる身近な交流の場の創出	2.98	3.69
26	下水道整備の推進と普及率の向上	3.42	3.94
27	公共交通機関の充実による便利に暮らせる環境づくり	2.81	4.03
28	地域独自のルールづくりによる住みやすい住環境形成	2.96	3.68
29	ライフラインの耐震性向上など災害に強いまちづくり	3.11	4.26
30	災害時に安心できる体制づくり	3.06	4.37
31	街灯防犯灯設置の見直しなど防犯体制の整備	2.89	4.27
32	省資源･循環型の地球環境に配慮したまちの実現	3.03	4.03



5．福祉と子育て環境づくり

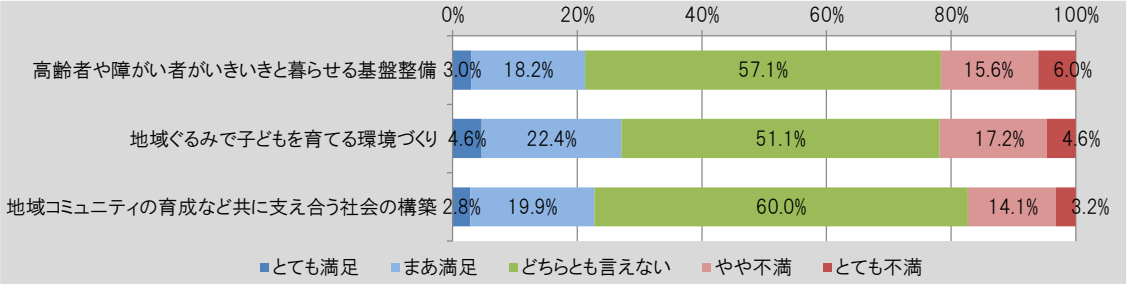
まちづくりの方針「福祉と子育て環境づくり」の満足度では、「とても満足である」と「まあ満足である」の回答を見ると、すべての項目が 20%を超えており、そのうち「地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり」が 27.0%ともっとも高い。一方で「やや不満である」「とても不満」の合計も 20%程度と満足と同程度の値を示している。

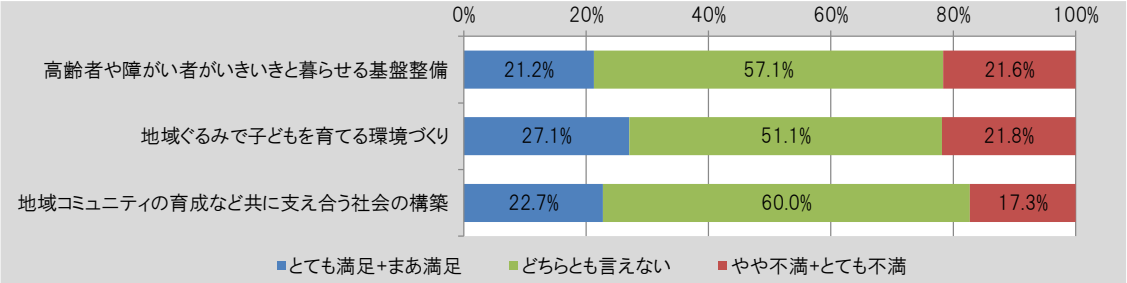
重要度は、「地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり」は「とても重要である」の回答が 42.6%を示しており、「まあ重要である」を合計すると 81.2%と高い。その他の項目も同様に高い値を示している。

また、39 項目全体での相関関係を見ると、3 項目すべてＡ領域（重要度が高く満足度が低い領域）に位置する。

＜満足度＞

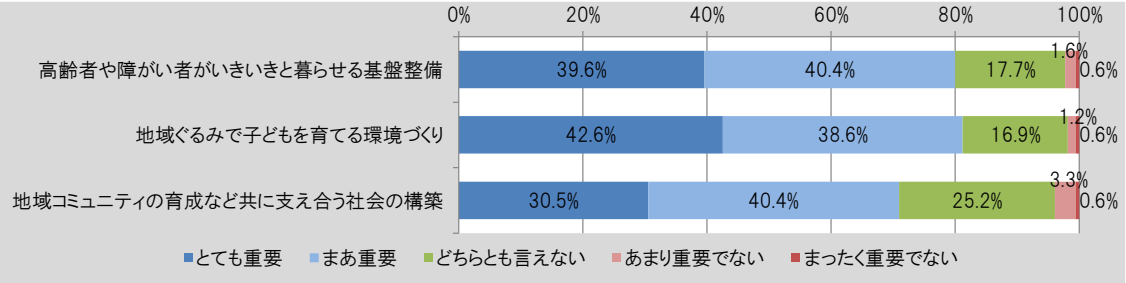
	回答項目	満足度	とても満足である	まあ満足である	どちらとも言えない	やや不満である	とても不満である	無回答	計
33	高齢者や障がい者がいきいきと暮らせる基盤整備	回答数	15	91	285	78	30	28	527
		構成比	3.0%	18.2%	57.1%	15.6%	6.0%	—	100.0%
34	地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり	回答数	23	111	253	85	23	32	527
		構成比	4.6%	22.4%	51.1%	17.2%	4.6%	—	100.0%
35	地域コミュニティの育成など共に支え合う社会の構築	回答数	14	99	298	70	16	30	527
		構成比	2.8%	19.9%	60.0%	14.1%	3.2%	—	100.0%

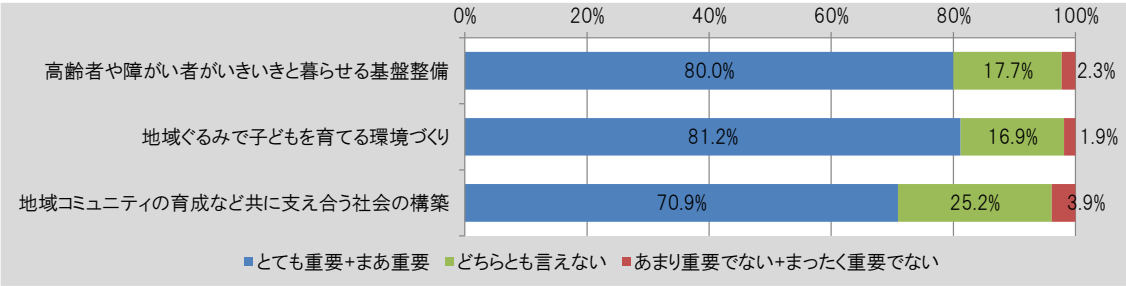




＜重要度＞

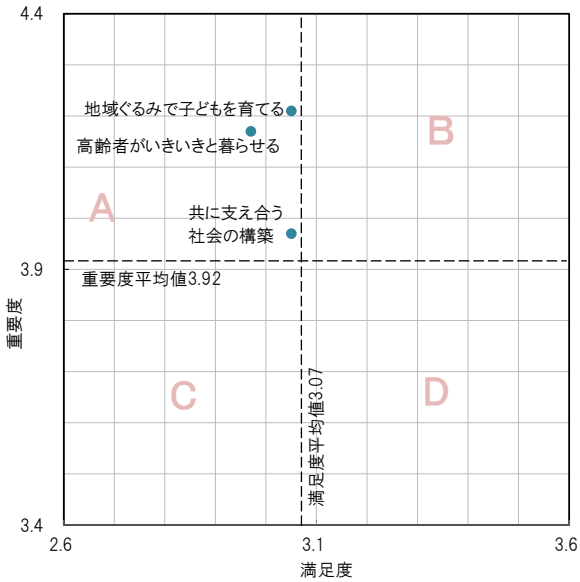
	回答項目	満足度	とても重要である	まあ重要である	どちらとも言えない	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	計
33	高齢者や障がい者がいきいきと暮らせる基盤整備	回答数	192	196	86	8	3	42	527
		構成比	39.6%	40.4%	17.7%	1.6%	0.6%	—	100.0%
34	地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり	回答数	206	187	82	6	3	43	527
		構成比	42.6%	38.6%	16.9%	1.2%	0.6%	—	100.0%
35	地域コミュニティの育成など共に支え合う社会の構築	回答数	148	196	122	16	3	42	527
		構成比	30.5%	40.4%	25.2%	3.3%	0.6%	—	100.0%





＜相関関係＞

福祉と子育て環境づくり		満足度	重要度
33	高齢者や障がい者がいきいきと暮らせる基盤整備	2.97	4.17
34	地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり	3.05	4.21
35	地域コミュニティの育成など共に支え合う社会の構築	3.05	3.97



6．景観形成の方針

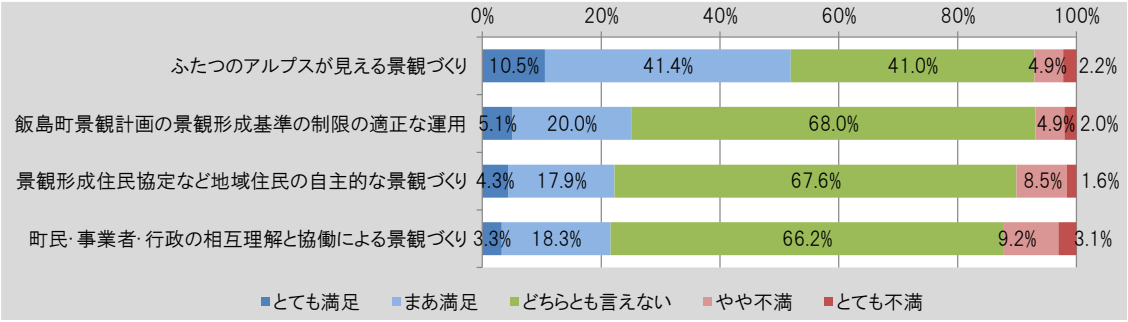
まちづくりの方針「景観形成の方針」の満足度では、「ふたつのアルプスが見える景観づくり」を「とても満足である」と回答した人が 10.5%であり、「まあ満足である」を合計すると 51.9%と高い値を示している。その他の項目は 20%程度にとどまっている。

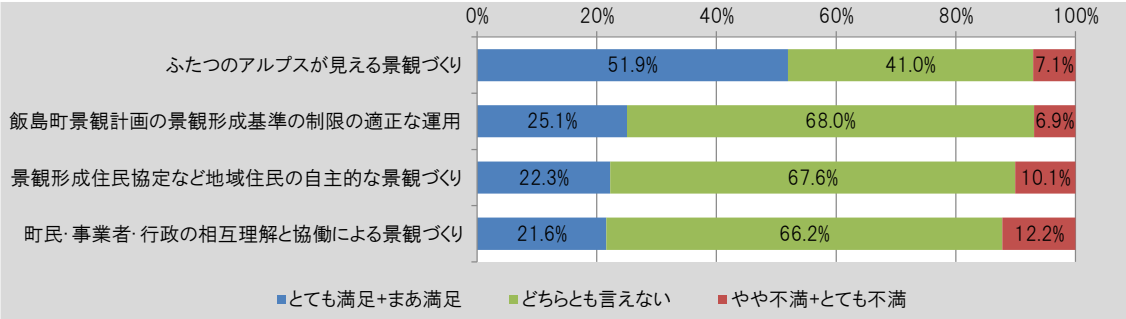
重要度は、「とても重要である」「まあ重要である」の合計を見ると、「ふたつのアルプスが見える景観づくり」67.4%、「町民・事業者・行政の相互理解と協働による景観づくり」が 60.3%と高く、その他の項目も 50%を超えている。

また、39 項目全体での相関関係を見ると、4 項目すべてD領域（重要度が低く満足度は高い領域）に位置する。

＜満足度＞

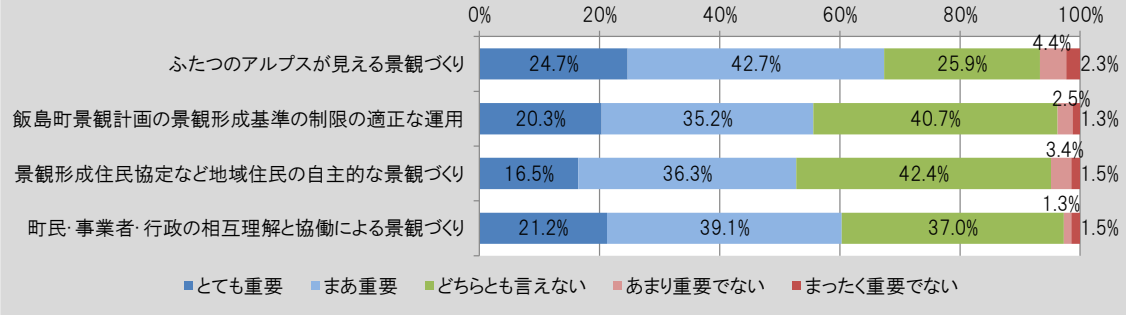
	回答項目 ＼ 満足度		とても満足である	まあ満足である	どちらとも言えない	やや不満である	とても不満である	無回答	計
36	ふたつのアルプスが見える景観づくり	回答数	52	204	202	24	11	34	527
		構成比	10.5%	41.4%	41.0%	4.9%	2.2%	—	100.0%
37	飯島町景観計画の景観形成基準の制限の適正な運用	回答数	25	98	334	24	10	36	527
		構成比	5.1%	20.0%	68.0%	4.9%	2.0%	—	100.0%
38	景観形成住民協定など地域住民の自主的な景観づくり	回答数	21	87	328	41	8	42	527
		構成比	4.3%	17.9%	67.6%	8.5%	1.6%	—	100.0%
39	町民･事業者･行政の相互理解と協働による景観づくり	回答数	16	90	325	45	15	36	527
		構成比	3.3%	18.3%	66.2%	9.2%	3.1%	—	100.0%

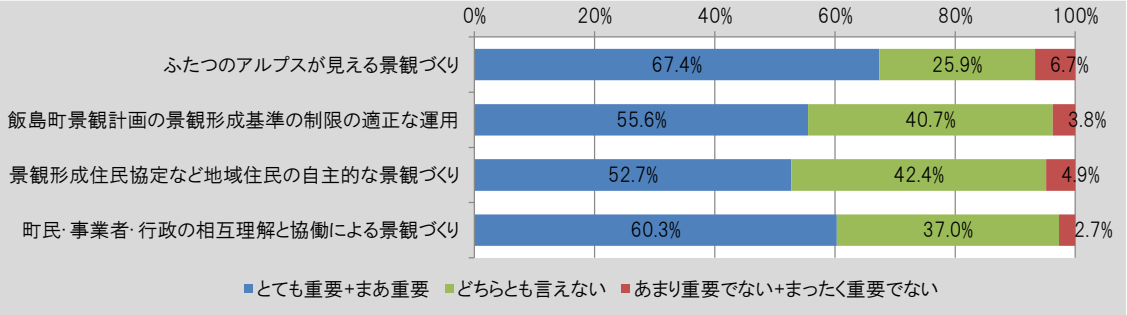




＜重要度＞

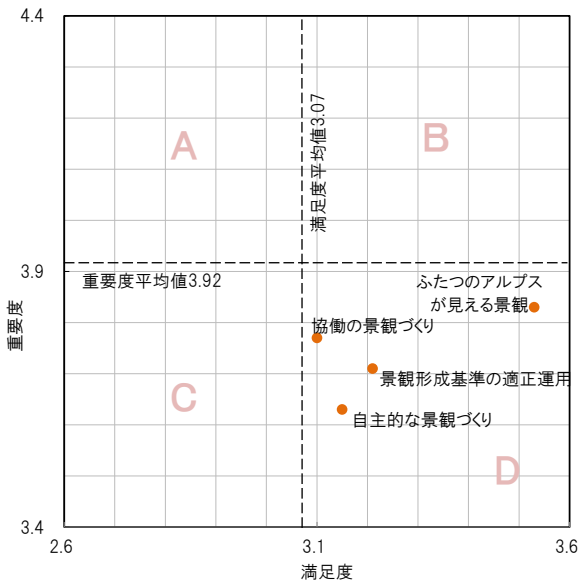
回答項目		満足度	とても重要である	まあ重要である	どちらとも言えない	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	計
36	ふたつのアルプスが見える景観づくり	回答数	118	204	124	21	11	49	527
		構成比	24.7%	42.7%	25.9%	4.4%	2.3%	—	100.0%
37	飯島町景観計画の景観形成基準の制限の適正な運用	回答数	97	168	194	12	6	50	527
		構成比	20.3%	35.2%	40.7%	2.5%	1.3%	—	100.0%
38	景観形成住民協定など地域住民の自主的な景観づくり	回答数	78	172	201	16	7	53	527
		構成比	16.5%	36.3%	42.4%	3.4%	1.5%	—	100.0%
39	町民･事業者･行政の相互理解と協働による景観づくり	回答数	101	186	176	6	7	51	527
		構成比	21.2%	39.1%	37.0%	1.3%	1.5%	—	100.0%





＜相関関係＞

	景観形成の方針	満足度	重要度
36	ふたつのアルプスが見える景観づくり	3.53	3.83
37	飯島町景観計画の景観形成基準の制限の適正な運用	3.21	3.71
38	景観形成住民協定など地域住民の自主的な景観づくり	3.15	3.63
39	町民･事業者･行政の相互理解と協働による景観づくり	3.10	3.77



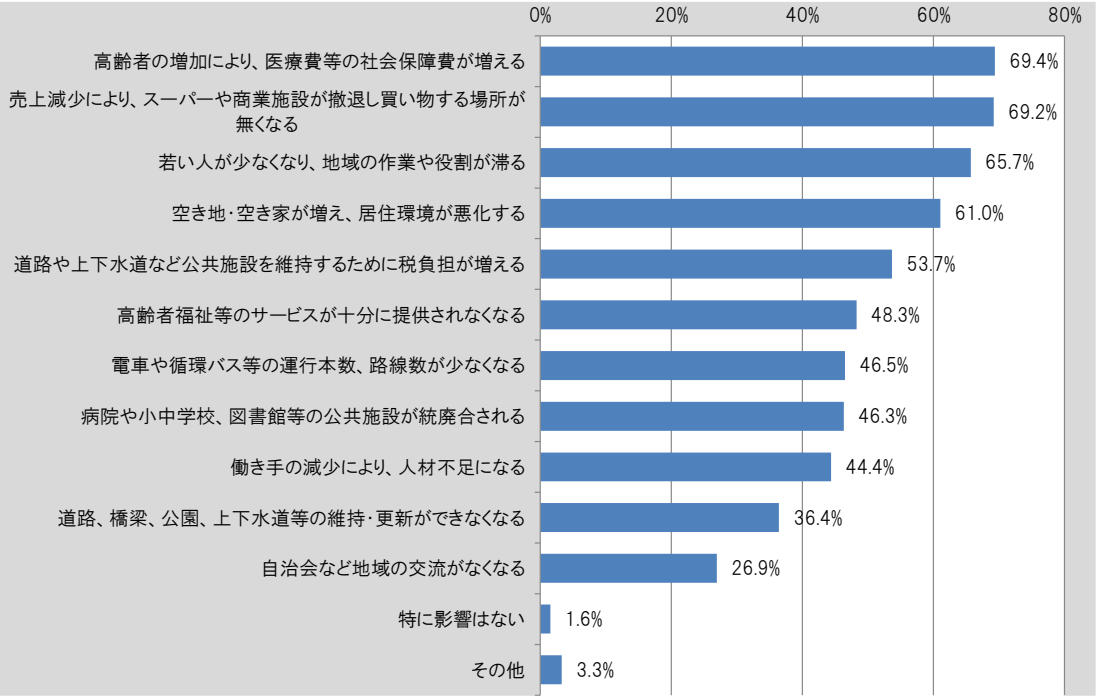
＜町の将来像＞

問 13　少子高齢社会に起因する影響への認識

日本の人口は減少が続いており、今後も更に減少が加速することが推計されています。人口減少と高齢化社会の進行に伴い、将来あなたの身の回りや日常生活に影響が及んでくると思われること、不安に思うことについてお答えください。＜あてはまるもの全てに○をつけてください。＞

「医療費等の社会保障費が増える」「買い物する場所が無くなる」「若い人が少なくなり、地域の作業や役割が増える」「空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する」の回答が 60%を超えている。その他の選択肢も高い値を示しており、「特に影響はない」の回答はわずか 1.6%と、少子高齢社会に起因する影響についての認識が高く、不安に思っていることがわかる。

選択肢	回答数	構成比
高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える	358	69.4%
売上減少により、スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる	357	69.2%
若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る	339	65.7%
空き地･空き家が増え、居住環境が悪化する	315	61.0%
道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える	277	53.7%
高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる	249	48.3%
電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる	240	46.5%
病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される	239	46.3%
働き手の減少により、人材不足になる	229	44.4%
道路、橋梁、公園、上下水道等の維持･更新ができなくなる	188	36.4%
自治会など地域の交流がなくなる	139	26.9%
特に影響はない	8	1.6%
その他	17	3.3%
無回答	11	―
計	527	

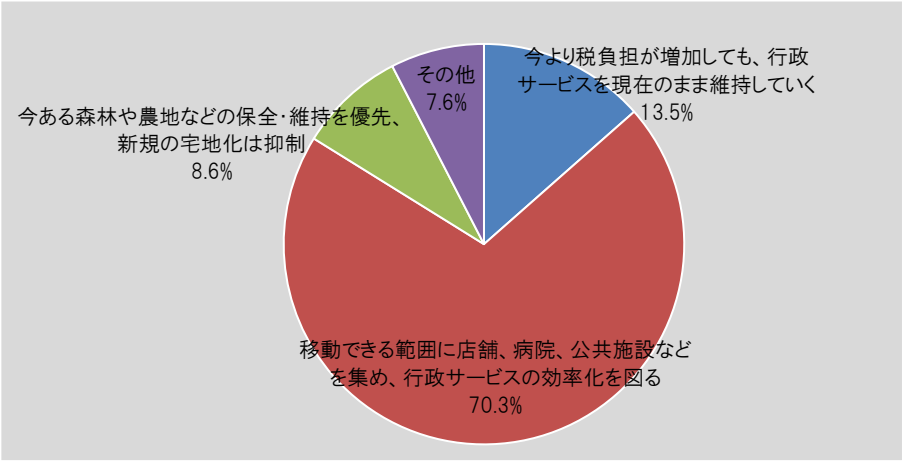


問 14　人口減少等による影響に対する行政の取組み方向性

問１３で示したような不安や問題を未然に防ぎ、飯島町が引き続き発展を遂げていくためには、今後どのような行政サービスを行っていくべきだと思いますか。＜１つだけ○をつけてください。＞

「移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集め、行政サービスの効率化を図る」が70.3%で最も多くなっている。「今より税負担が増加しても現在の行政サービスを維持していく」は13.5%にとどまっている。

	選択肢	回答数	構成比
1.	今より税負担が増加しても、現状の道路や下水道、学校などの公共施設や公共交通といった行政サービスを現在のまま維持していく	66	13.5%
2.	人口減少や税収の減少等の変化に柔軟に対応していくため、徒歩あるいは公共交通で移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集め、行政サービスの効率化を図る	344	70.3%
3.	今ある森林や農地などの保全･維持を優先させ、農地などへの新規の宅地化は抑制する	42	8.6%
4.	その他	37	7.6%
	無回答	38	―
	計	527	100.0%

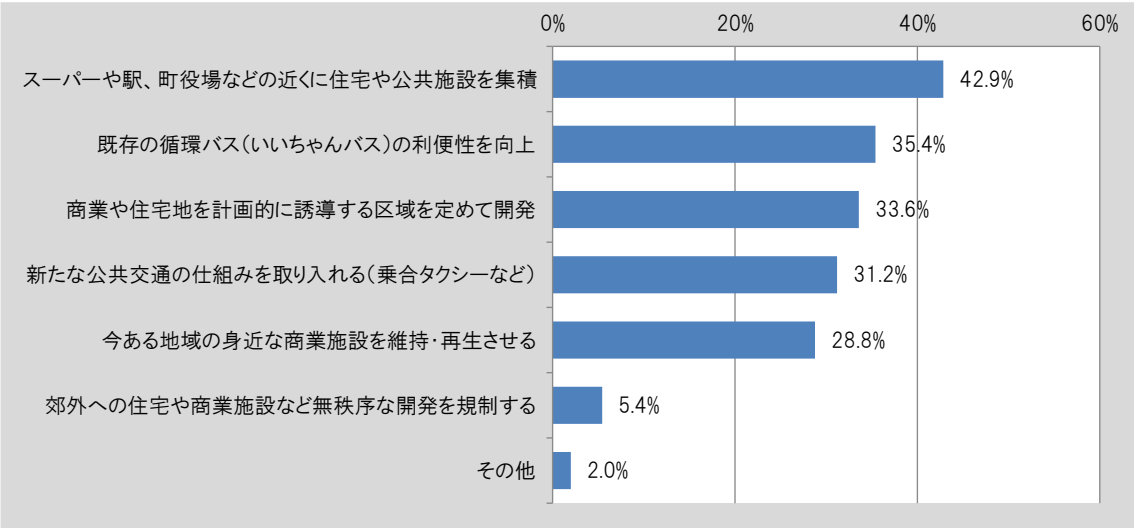


問 15　コンパクトシティ形成に向けた重点施策

高齢社会における移動手段の確保のため、公共交通を維持し、生活に必要な施設を集積させる「コンパクトシティ」形成の必要性が指摘されています。このことについて重点的に行うべきまちづくりは何だと考えますか。＜２つまで○をつけてください。＞

コンパクトシティ形成に向けた施策は、「移動が少なくても快適に住み続けられるよう、スーパーなどの商業施設や駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積させる」が 42.9%で最も多くなっている。これは問 13 の少子高齢社会に起因する影響や不安について回答の高かった事項の改善を求めていると見受けられる。次いで「既存の循環バス（いいちゃんバス）を今よりも便利で使いやすくする」が 35.4%となっている。「新たな公共交通の仕組みを取り入れる」の 31.2%を合計すると 66.6%となり、移動手段に関する事項への施策が求められていることがわかる。

選択肢	回答数	構成比
移動が少なくても快適に住み続けられるよう、スーパーなどの商業施設や駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積させる	213	42.9%
既存の循環バス（いいちゃんバス）を今よりも便利で使いやすくする	176	35.4%
商業施設や住宅地を計画的に誘導する区域を定め、計画的に開発する	167	33.6%
新たな公共交通の仕組みを取り入れる（乗合タクシーなど）	155	31.2%
今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる	143	28.8%
郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する	27	5.4%
その他	10	2.0%
無回答	30	－
計	527	

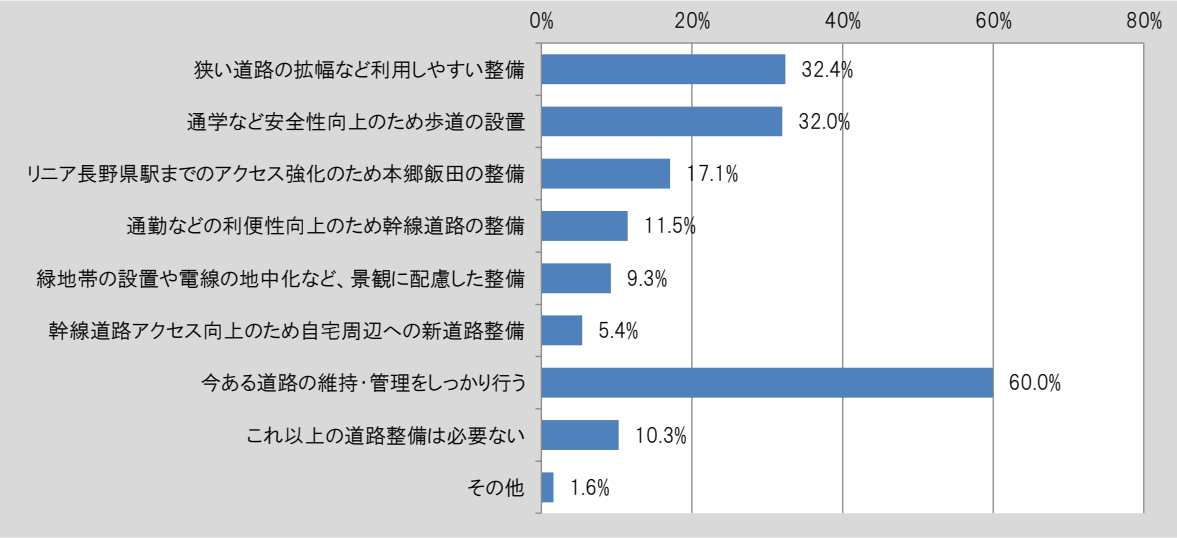


問 16　道路整備の優先の考え方

限られた財源の中で、これからの道路整備について、どのような事項を優先して進めていけば良いと考えますか。＜２つまで○をつけてください。＞

「今ある道路の維持・管理をしっかり行う」が 60.0%で最も多くなっている。整備に関する事項については、「狭い道路の拡幅など利用しやすい整備」「通学など安全性向上のため歩道の設置」が 30%以上を超えており、既存道路の改良が求められている傾向にある。

回答項目	回答数	構成比
狭い道路の拡幅など利用しやすい整備	161	32.4%
通学など安全性向上のため歩道の設置	159	32.0%
リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷から飯田までの整備	85	17.1%
通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備	57	11.5%
緑地帯の設置や電線の地中化など、景観に配慮した整備	46	9.3%
幹線道路へのアクセス向上のため自宅の周辺への新たな道路の整備	27	5.4%
今ある道路の維持･管理をしっかり行う	298	60.0%
これ以上の道路整備は必要ない	51	10.3%
その他	8	1.6%
無回答	30	―
計	527	

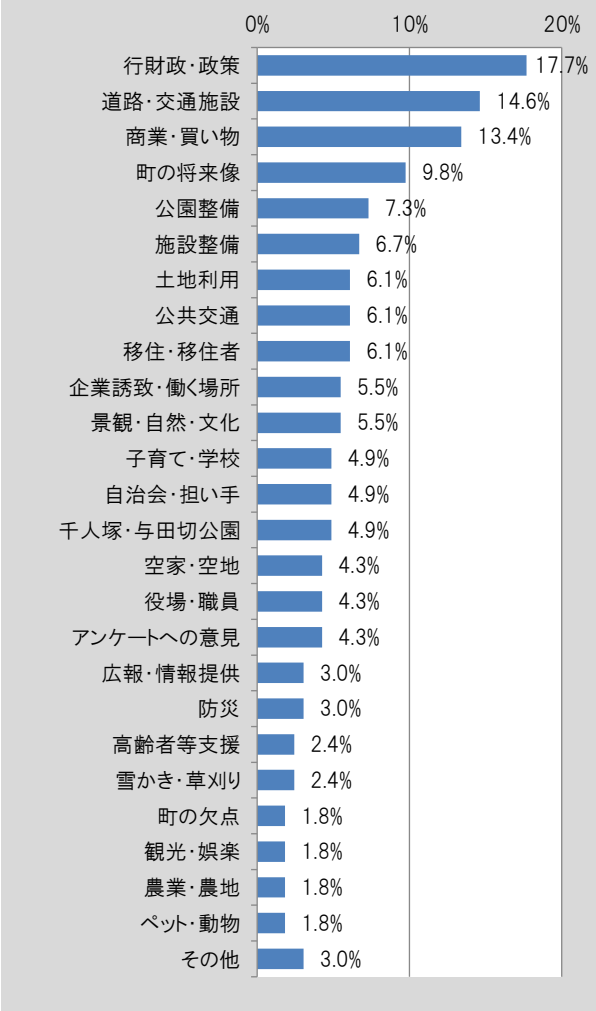


問 17　自由記述：その他、飯島町のまちづくり、都市計画等に関するご意見

自由記述の意見内容を分類すると 25 分類に及ぶ様々な意見が寄せられている。

「行財政・政策」に関する意見が 17.7%で最も多く、次いで「道路・交通施設」が 14.6%、「商業・買い物」が 13.4%となっている。なお自由記述の全文は６．自由記述の章に意見の分類ごとに示す。

	意見の分類	回答数	構成比
1	行財政･政策	29	17.7%
2	道路･交通施設	24	14.6%
3	商業･買い物	22	13.4%
4	町の将来像	16	9.8%
5	公園整備	12	7.3%
6	施設整備	11	6.7%
7	土地利用	10	6.1%
8	公共交通	10	6.1%
9	移住･移住者	10	6.1%
10	企業誘致･働く場所	9	5.5%
11	景観･自然･文化	9	5.5%
12	子育て･学校	8	4.9%
13	自治会･担い手	8	4.9%
14	千人塚･与田切公園	8	4.9%
15	空家･空地	7	4.3%
16	役場･職員	7	4.3%
17	アンケートへの意見	7	4.3%
18	広報･情報提供	5	3.0%
19	防災	5	3.0%
20	高齢者等支援	4	2.4%
21	雪かき･草刈り	4	2.4%
22	町の欠点	3	1.8%
23	観光･娯楽	3	1.8%
24	農業･農地	3	1.8%
25	ペット･動物	3	1.8%
26	その他	5	3.0%
	回答者数	164	



3．考察（単純集計）

1．アンケート結果の総括

①　回答者の属性は持ち家で夫婦及び子供や孫が居る一般的な家族

年齢別回収率は、過去の実績から高齢者が最も高く、年齢層が下がるごとに回収率も下がる傾向にあることから、年齢層によって配布数を調整したことにより、均等の取れた年齢層からの回答が得られている。

回答者の属性は、約９割が「持ち家」で「夫婦」や「二世代」などで暮らしている。また、「他の市町村にすんでいたことがある」が約７割を占め、居住期間 20 年以上が約６割を占めていることから、一定数はＵターン等により飯島町に居住していると思われる。

②　ＪＲ飯田線・いいちゃんバスの低い利用頻度

ＪＲ飯田線は「一度も利用していない」と「１年に数回程度」を合わせると約９割、いいちゃんバスは、「一度も利用したことがない」も約９割となっており、公共交通機関利用の低さが際立った結果となっている。同様の結果としては、問 11 の各行動における交通手段も「自動車・オートバイ」が８割以上となっており、ほとんど公共交通機関が使われていない実態が伺える。

ただし、問 12 の「交通体系整備の方針」における重要度では、「バスなど公共交通網の充実」に対しての重要度が高い結果となっており、公共交通、循環バスに対する必要性の認識は高いと思われる。

③　日常行動の主な目的地は駒ケ根市または飯島町

日常の行動の目的地について、通勤・通学、行政機関や金融機関などは「飯島町」が最も多く、買い物、通院や外食・娯楽などは「駒ヶ根市」が最も多くなっている。最も日常的な行動は、駒ヶ根市への依存度が高いことがわかる。

④　満足度・重要度からみる町の取り組み

満足度・重要度の調査は、39 項目を施策の基本方針ごとに６分類してまとめている。飯島町のまちづくりに対する満足度・重要度の調査における相関関係を示すスコアー算出では、重要度の平均スコアーが 3.92 と高い値が町民の関心の高さを示し、満足度の平均スコアーが 3.07 と中間値を示している。以下に６つの基本方針ごとに考察する。

「土地利用の基本方向」に関しては、「飯島らしさを映す土地利用の形成」、「自然・農地・まち・集落の秩序ある共生」、「農地と森林の多面的な活用」共に満足度、重要度ともに平均スコアーに近い数値となっており、施策の継続または維持が必要な領域（満足度が高い）の位置にある。

「交通体系整理の方針」に関しては、「買い物や通院の利便性」、「バスなど公共交通網の充実」「歩道の拡幅など交通のバリアフリー化」、「飯田線の利用促進と存続への働き」が「施策の見直しが必要な領域（満足度が低く重要度が高い）」の位置にある。

「自然環境の保全・創造の方針」に関しては、「身近な公園の配置」が「施策の縮小・見直しが必要な領域（満足度が低く重要度が低い）」の位置にある。「排水処理対策などにより清流を取り戻す」は「施策の継続が特に必要な領域（満足度が高く重要度が高い）」の位置にある。

「生活環境の整備の方針」に関しては、「街灯防犯灯設置の見直しなど防犯体制の整備」、「公共交通機関の充実による便利に暮らせる環境づくり」、「省資源・循環型の地球環境に配慮したまちの実現」が「施策の見直しが必要な領域（満足度が低く重要度が高い）」の位置にある。

「福祉と子育て環境づくり」に関しては、「高齢者や障がい者がいきいきと暮らせる基盤整備」が「施策の見直しが必要な領域（満足度が低く重要度が高い）」の位置にある。「地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり」、「地域コミュニティの育成など共に支え合う社会の構築」は「施策の継続が特に必要な領域（満足度が高く重要度が高い）」の位置にある。

「景観形成の方針」に関しては、「ふたつのアルプスが見える景観づくり」、「飯島町景観計画の景観形成基準の制限の適正な運用」、「景観形成住民協定など地域住民の自主的な景観づくり」、「町民・事業者・行政の相互理解と協働による景観づくり」ともに「施策の維持が特に必要な領域（満足度が高く重要度が低い）」の位置にある。

⑤　社会保障費や商業施設が将来への不安

問 13 の少子高齢社会に起因する諸問題を解決するための方策に関する設問では、「高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える」が最も多く、次に「売上減少により、スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる」となっている。スーパーや商業施設に関しては、自由記述回答の中でも多く意見があり、日常的に将来への不安を感じているといえる。

⑥　飯島町が発展を遂げるために必要なまちや機能の集約

問 14 の発展を遂げるために必要な行政サービスでは、圧倒的に「人口減少や税収の減少等の変化に柔軟に対応していくため、徒歩あるいは公共交通機関で移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集め、行政サービスの効率化を図る」が意見の多数を占めている。

同様に問 15 のコンパクトシティ形成で重要なまちづくりでは、「移動が少なくても快適に住み続けられるよう、スーパーなどの商業施設や駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積させる」が最も多くなっている。

⑦　道路整備・管理の必要性

問 16 の道路整備への認識と今後の整備への要望は、「今ある道路の維持・管理をしっかり行う」が最も多くなっている。道路整備・管理に関しては、自由記述回答の中でも多く意見があり、関心の高さを示しているといえる。

２．まちづくり課題の整理

①　移動が少なく快適に住み続けられるコンパクトなまちづくり

少子高齢化社会を迎え、商業施設や行政機関の集約の必要性や多様な移動手段の必要性を実

感している意見が多いことから、移動が少なく快適に住み続けられるコンパクトなまちづくりは、町の取り組みとしての重要課題として位置付けられる。

② 商業施設の誘致や買い物対策

スーパーや商業施設に関しては、自由記述回答の中でも多く意見がある。特に移動手段が限られる高齢者にとって買い物は大きな問題であり、商業施設の誘致や買い物対策は、町の取り組みとしての重要課題として位置付けられる。

③ 公共交通施策の見直しによる便利に暮らせる環境づくり

公共交通機関の利用頻度の低さに対して、公共交通網の充実や JR 飯田線の利用促進と存続を求める意見が多いことから、公共交通施策の見直しによる便利に暮らせる環境づくりが町の取り組みとしての重要課題として位置付けられる。

④ 道路整備・管理の重要性と街灯の整備

道路整備・管理に関する意見が多いことから、しっかりした維持管理や狭い道路の拡幅、街灯の整備など町の取り組みとしての重要課題として位置付けられる。

⑤ 若者支援、子育て・学習支援、移住・人口減少対策

移住を促進するための若者支援、子育て・学習支援などは、人口減少対策として必須な施策となってきている。これらは町の取り組みとしての重要課題として位置付けられる。

また、商業・娯楽施設、働く場の誘致への要望が多くみられるが、これは、人口増加策、若者の地元定住策として有効的であるとの認識が高い。

⑥ 既存コミュニティの維持

人口減少や高齢化により、自治会の維持が困難になってきているとの意見がある。今後、地域のコミュニティの維持のための取組が重要となる。また、自治会と行政との役割分担の見直しや組織のあり方検討等が必要である。

４．クロス集計

計画策定の際に必要となる年齢層別や居住地別等による詳細な住民意向の傾向を把握するため、必要と思われ項目を選択し、クロス集計を行った。

１．クロス集計一覧

主題	設問	問１年齢	問４居住地区
回答者の属性	問１年齢		○
	問２家族構成		
	問３職業		
	問４居住地区		
	問５居住歴		
	問６住宅種類		
	問７ＪＲ飯田線の利用頻度		
公共交通機関の利用状況について	問８最寄り駅までの徒歩所要時間		○
	問９いいちゃんバスの利用頻度		
	問10いいちゃんバスのバス停までの徒歩での所要時間		○
	通勤通学　目的地		○
	買い物　目的地		○
	通院　目的地		○
	外食　目的地		○
	役場　目的地		
	銀行　目的地		
土地利用の基本方向	飯島らしさを映す土地利用の形成		●
	自然・農地・まち・集落の秩序ある共生		●
	農地と森林の多面的な活用		●
交通体系整備の方針	国道バイパス整備による広域交通網の形成		●
	まちの骨格となる幹線道路網の整備		●
	市街地・集落地内の生活道路の拡幅整備		●
	必要な道路の効率的な整備		●
	通勤通学の利便性		●
	買い物や通院の利便性		●
	歩道整備など安全、快適に歩ける環境		
	歩道の拡幅など交通のバリアフリー化		
	バスなど公共交通網の充実		
	新たな交通環境への対応		
	飯田線の利用促進と存続への働き		
自然環境の保全・創造の方針	森林や農地の保全と創造		
	街路樹や沿道緑化による生活環境の向上		
	多様な生物の生息空間づくり		
	身近な公園の配置		●
	排水処理対策などにより清流を取り戻す		
	生物の生息空間の水と緑のネットワーク		
	河川の親水化など親しみのある水辺づくり		
	皆で取り組む身近な緑地の手入れと創出		
	自然体験を通じた学習や情報交流		
生活環境の整備の方針	中心市街地への居住促進など暮らしの場の再生		
	気軽に集まれる身近な交流の場の創出		
	下水道整備の推進と普及率の向上		
	公共交通機関の充実による便利に暮らせる環境づくり		
	地域独自のルールづくりによる住みやすい住環境形成		
	ライフラインの耐震性向上など災害に強いまちづくり		
	災害時に安心できる体制づくり		
	街灯防犯灯設置の見直しなど防犯体制の整備		
省資源・循環型の地球環境に配慮したまちの実現			
福祉と子育て環境づくり	高齢者や障がい者がいきいきと暮らせる基盤整備		
	地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり		
地域コミュニティの育成など共に支え合う社会の構築			
景観形成の方針	ふたつのアルプスが見える景観づくり		●
	景観形成基準の制限の適正な運用		●
	景観形成住民協定など地域住民の自主的な景観づくり		●
	町民･事業者･行政の相互理解と協働による景観づくり		●
施設整備方向性	問13少子高齢社会と日常生活への影響	○	○
	問14行政サービス方向性	○	○
	問15立適計画施策の方向性	○	○
	問16道路整備施策の方向性	○	○
	問17自由記述		

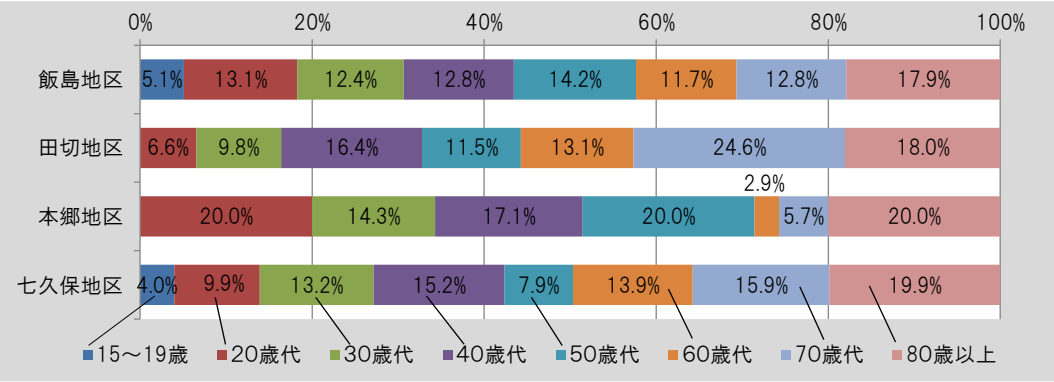
○：4. クロス集計へ取りまとめ
●：5. 過去アンケートの比較及び整理へ取りまとめ

2．居住地区（問 4）とのクロス集計

＜年齢(問 1)＞

全町では、各年齢層割合が概ね均等となっていた。地区別でみると、田切地区の 70 歳代が多くを占めたことにより、中高年以上の割合が高くなっている。反対に本郷地区は、20 歳代が 20%を占めるなど若い年齢層が高い地区となっている。

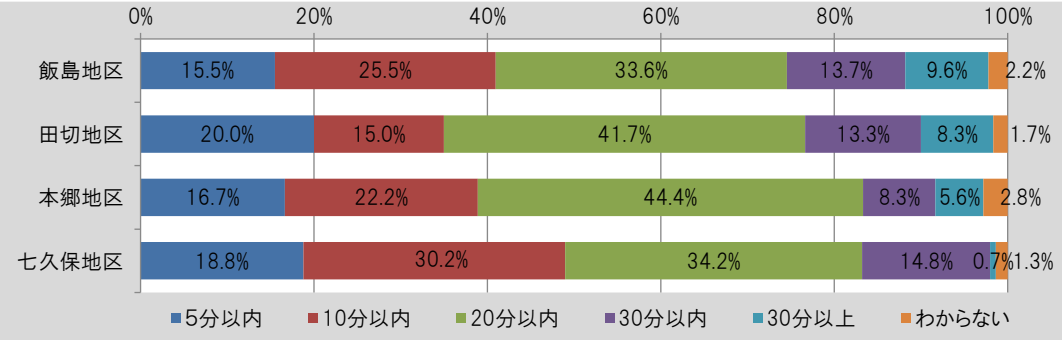
居住地		年齢	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	計
1	飯島地区	回答数	14	36	34	35	39	32	35	49		274
		構成比	5.1%	13.1%	12.4%	12.8%	14.2%	11.7%	12.8%	17.9%	－	－
2	田切地区	回答数	0	4	6	10	7	8	15	11		61
		構成比	0.0%	6.6%	9.8%	16.4%	11.5%	13.1%	24.6%	18.0%	－	－
3	本郷地区	回答数	0	7	5	6	7	1	2	7	1	36
		構成比	0.0%	20.0%	14.3%	17.1%	20.0%	2.9%	5.7%	20.0%	－	－
4	七久保地区	回答数	6	15	20	23	12	21	24	30		151
		構成比	4.0%	9.9%	13.2%	15.2%	7.9%	13.9%	15.9%	19.9%	－	－



＜最寄り駅までの所要時間（問 8）＞

ＪＲ最寄り駅までの徒歩での所要時間について、田切地区は「５分以内」が 20.0%と高い値を示したものの、「10 分以内」が 15.0%と他の地区と比較して低い。七久保地区は 50%近い人が 10 分以内と回答している。しかし、どの地区も「20 分以内」の回答が最も多くなっており、「30 分以内」「30 分以上」の回答も多い。

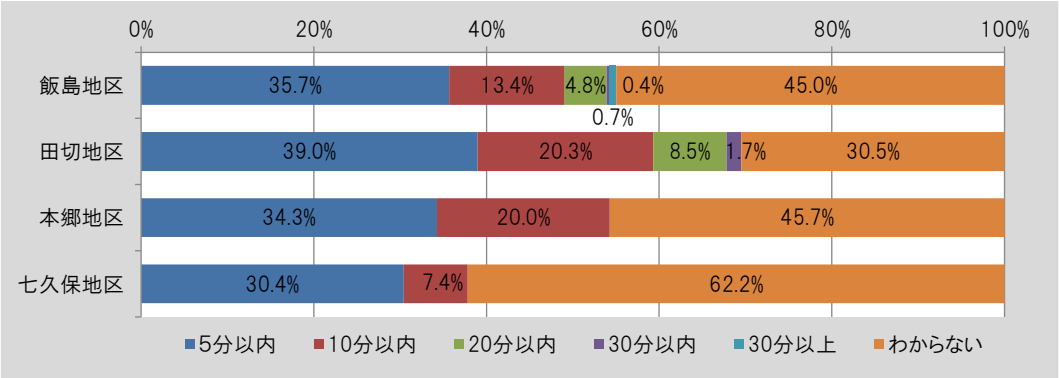
居住地	所要時間	5分以内	10分以内	20分以内	30分以内	30分以上	わからない	無回答	計
飯島地区	回答数	42	69	91	37	26	6	3	274
	構成比	15.5%	25.5%	33.6%	13.7%	9.6%	2.2%	－	－
田切地区	回答数	12	9	25	8	5	1	1	61
	構成比	20.0%	15.0%	41.7%	13.3%	8.3%	1.7%	－	－
本郷地区	回答数	6	8	16	3	2	1	0	36
	構成比	16.7%	22.2%	44.4%	8.3%	5.6%	2.8%	－	－
七久保地区	回答数	28	45	51	22	1	2	2	151
	構成比	18.8%	30.2%	34.2%	14.8%	0.7%	1.3%	－	－



＜いいちゃんバス停までの所要時間（問 10）＞

バス停までの所要時間は、どの地区も「５分以内」が 30%を超えている。その一方で「わからない」の回答も多く、特に七久保は 62.2%と高い値を示している。

居住地	所要時間	5分以内	10分以内	20分以内	30分以内	30分以上	わからない	無回答	計
飯島地区	回答数	96	36	13	1	2	121	5	274
	構成比	35.7%	13.4%	4.8%	0.4%	0.7%	45.0%	－	－
田切地区	回答数	23	12	5	1	0	18	2	61
	構成比	39.0%	20.3%	8.5%	1.7%	0.0%	30.5%	－	－
本郷地区	回答数	12	7	0	0	0	16	1	36
	構成比	34.3%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	45.7%	－	－
七久保地区	回答数	45	11	0	0	0	92	3	151
	構成比	30.4%	7.4%	0.0%	0.0%	0.0%	62.2%	－	－

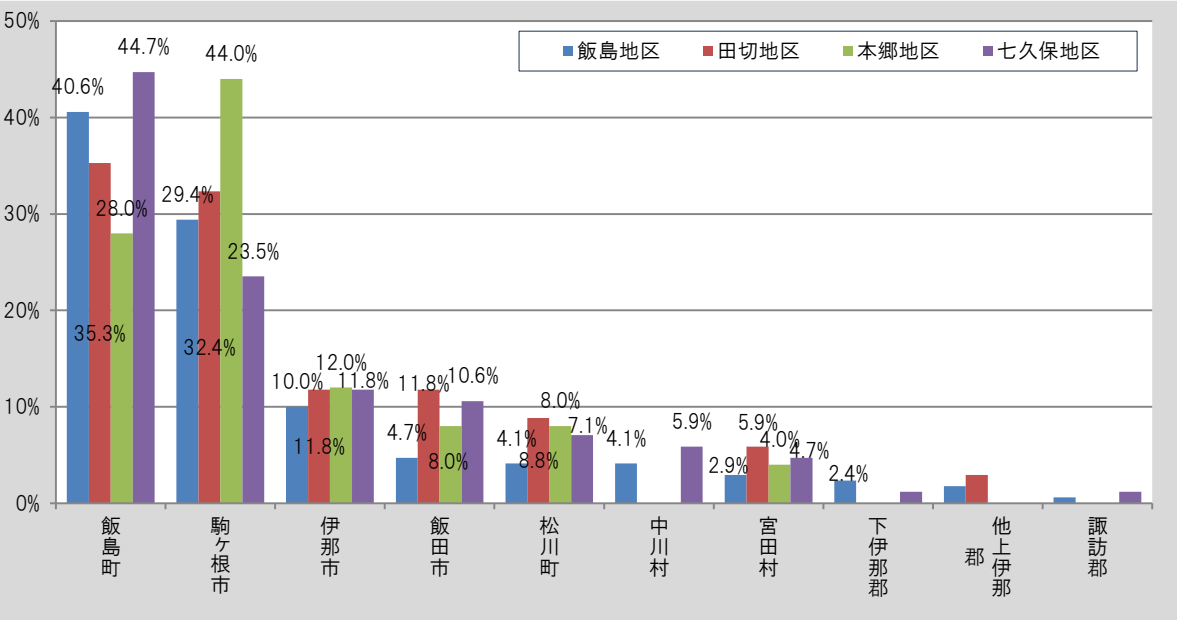


＜日常行動の主な目的地（問 11）＞

・通勤・通学

通勤・通学の主な目的地で最も多いのは、本郷地区は「駒ヶ根市」、その他の地区は「飯島町」となっている。上伊那方面、下伊那方面で分類すると飯島地区は上伊那方面に多く、本郷・七久保地区は下伊那寄りに多い。田切地区は同じ割合となっている。

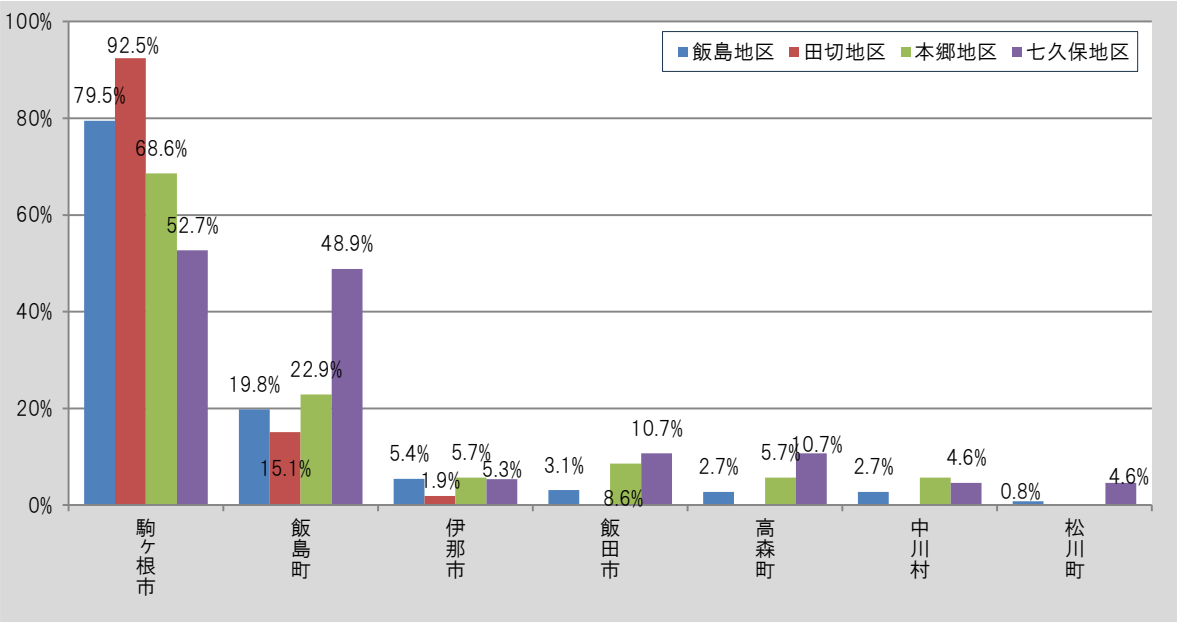
選択肢	飯島地区		田切地区		本郷地区		七久保地区	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
飯島町	69	40.6%	12	35.3%	7	28.0%	38	44.7%
駒ヶ根市	50	29.4%	11	32.4%	11	44.0%	20	23.5%
伊那市	17	10.0%	4	11.8%	3	12.0%	10	11.8%
飯田市	8	4.7%	4	11.8%	2	8.0%	9	10.6%
松川町	7	4.1%	3	8.8%	2	8.0%	6	7.1%
中川村	7	4.1%					5	5.9%
宮田村	5	2.9%	2	5.9%	1	4.0%	4	4.7%
下伊那郡	4	2.4%					1	1.2%
他上伊那郡	3	1.8%	1	2.9%				
諏訪郡	1	0.6%					1	1.2%
松本市	1	0.6%						
無回答	104	―	27	―	11	―	66	―
計	274		61		36		151	



・食料品など買い物

食料品などの買い物の主な目的地は、どの地区も「駒ヶ根市」の回答が最も多い。特に田切地区は 92.5%を占めている。七久保地区は「駒ヶ根市」52.7%、「飯島町」48.9%とほぼ同比率にある。また、本郷・七久保地区は「飯田市」や「高森町」など下伊那方面へ足を延ばしている傾向が見られる。

選択肢	飯島地区		田切地区		本郷地区		七久保地区	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
駒ヶ根市	205	79.5%	49	92.5%	24	68.6%	69	52.7%
飯島町	51	19.8%	8	15.1%	8	22.9%	64	48.9%
伊那市	14	5.4%	1	1.9%	2	5.7%	7	5.3%
飯田市	8	3.1%			3	8.6%	14	10.7%
高森町	7	2.7%			2	5.7%	14	10.7%
中川村	7	2.7%			2	5.7%	6	4.6%
松川町	2	0.8%					6	4.6%
宮田村	1	0.4%						
喬木村	1	0.4%						
松本市	1	0.4%					1	0.8%
無回答	16	―	8	―	1	―	20	―
計	274		61		36		151	

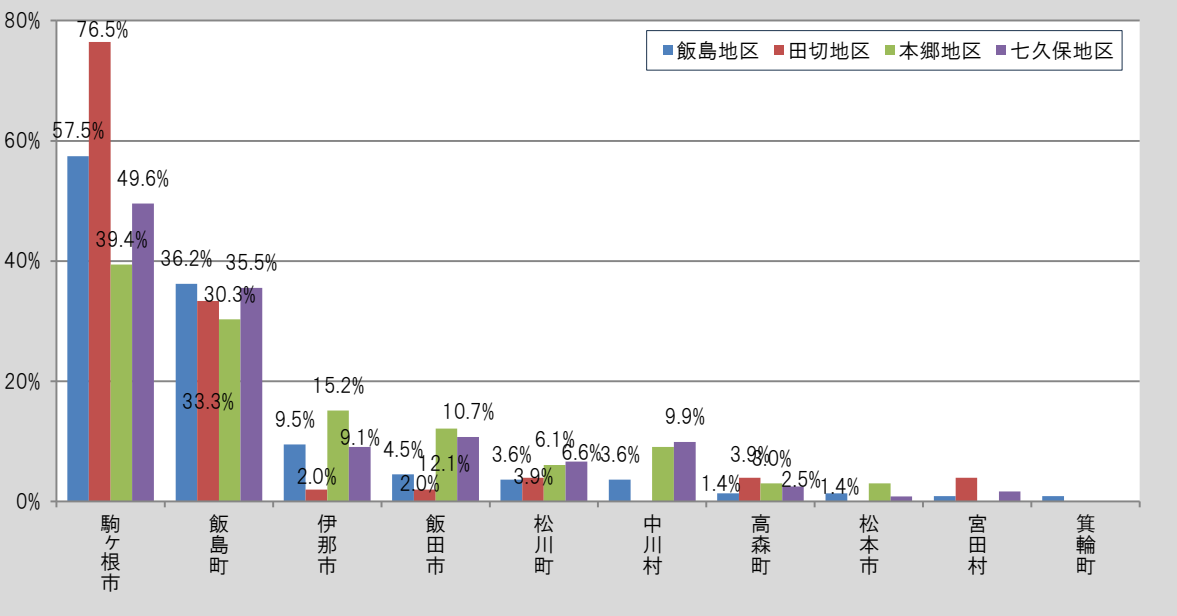


・通院

通院の主な目的地は、どの地区も「駒ヶ根市」の回答が最も多い。特に田切地区は 76.5%と高い値を占めている。本郷地区、七久保地区の「駒ヶ根市」の回答は、順に 39.4%、49.6%であり、他の地区と比較すると低く、「伊那市」「飯田市」「松川町」「中川村」など他市町村への通院が見られる。

「飯島町」の回答はどの地区も 30%台となっている。

選択肢	飯島地区		田切地区		本郷地区		七久保地区	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
駒ヶ根市	127	57.5%	39	76.5%	13	39.4%	60	49.6%
飯島町	80	36.2%	17	33.3%	10	30.3%	43	35.5%
伊那市	21	9.5%	1	2.0%	5	15.2%	11	9.1%
飯田市	10	4.5%	1	2.0%	4	12.1%	13	10.7%
松川町	8	3.6%	2	3.9%	2	6.1%	8	6.6%
中川村	8	3.6%			3	9.1%	12	9.9%
高森町	3	1.4%	2	3.9%	1	3.0%	3	2.5%
松本市	3	1.4%			1	3.0%	1	0.8%
宮田村	2	0.9%	2	3.9%			2	1.7%
箕輪町	2	0.9%						
他下伊那郡	1	0.5%						
他上伊那	1	0.5%						
その他	1	0.5%					1	0.8%
無回答	53	―	10	―	3	―	30	―
計	274		61		36		151	

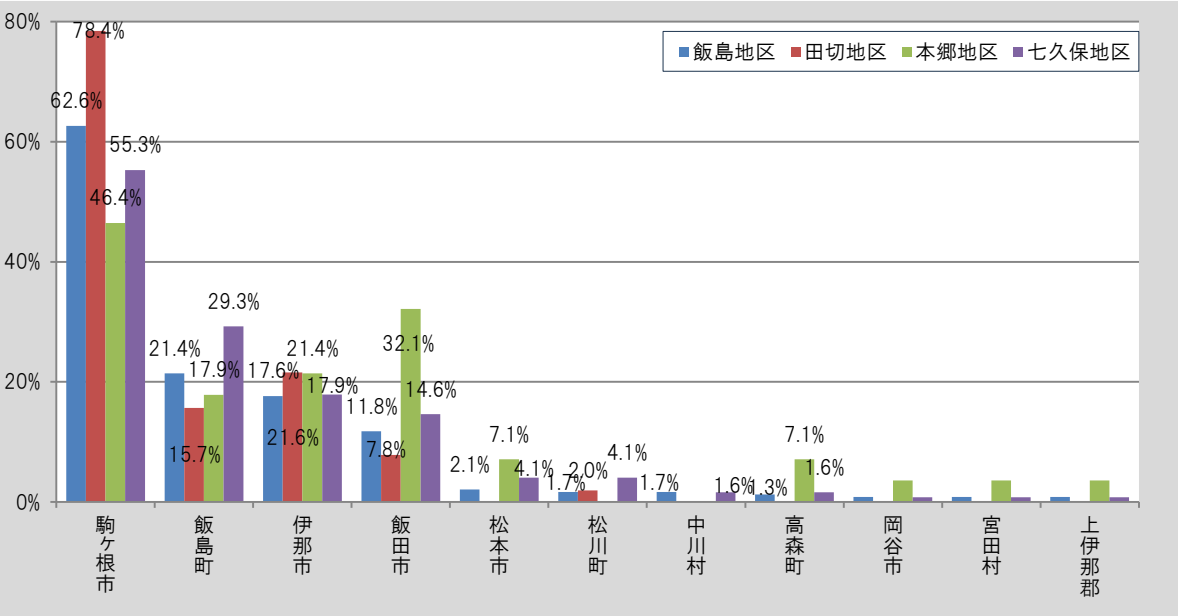


・外食・娯楽など

外食・娯楽の主な目的地は、どの地区も「駒ヶ根市」の回答が最も多い。特に田切地区、飯島地区は順に 78.4%、62.6%と高い値を占めている。七久保地区は「飯島町」が 29.3%と高い。

七久保地区は「飯田市」「高森町」など特に下伊那方面への回答が多く見受けられる。

選択肢	飯島地区		田切地区		本郷地区		七久保地区	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
駒ヶ根市	149	62.6%	40	78.4%	13	46.4%	68	55.3%
飯島町	51	21.4%	8	15.7%	5	17.9%	36	29.3%
伊那市	42	17.6%	11	21.6%	6	21.4%	22	17.9%
飯田市	28	11.8%	4	7.8%	9	32.1%	18	14.6%
松本市	5	2.1%			2	7.1%	5	4.1%
松川町	4	1.7%	1	2.0%			5	4.1%
中川村	4	1.7%					2	1.6%
高森町	3	1.3%			2	7.1%	2	1.6%
岡谷市	2	0.8%			1	3.6%	1	0.8%
宮田村	2	0.8%			1	3.6%	1	0.8%
上伊那郡	2	0.8%			1	3.6%	1	0.8%
下伊那郡	1	0.4%			1	3.6%	2	1.6%
県内	2	0.8%	2	3.9%	2	7.1%	2	1.6%
県外							2	1.6%
無回答	36	―	10	―	8	―	28	―
計	274		61		36		151	

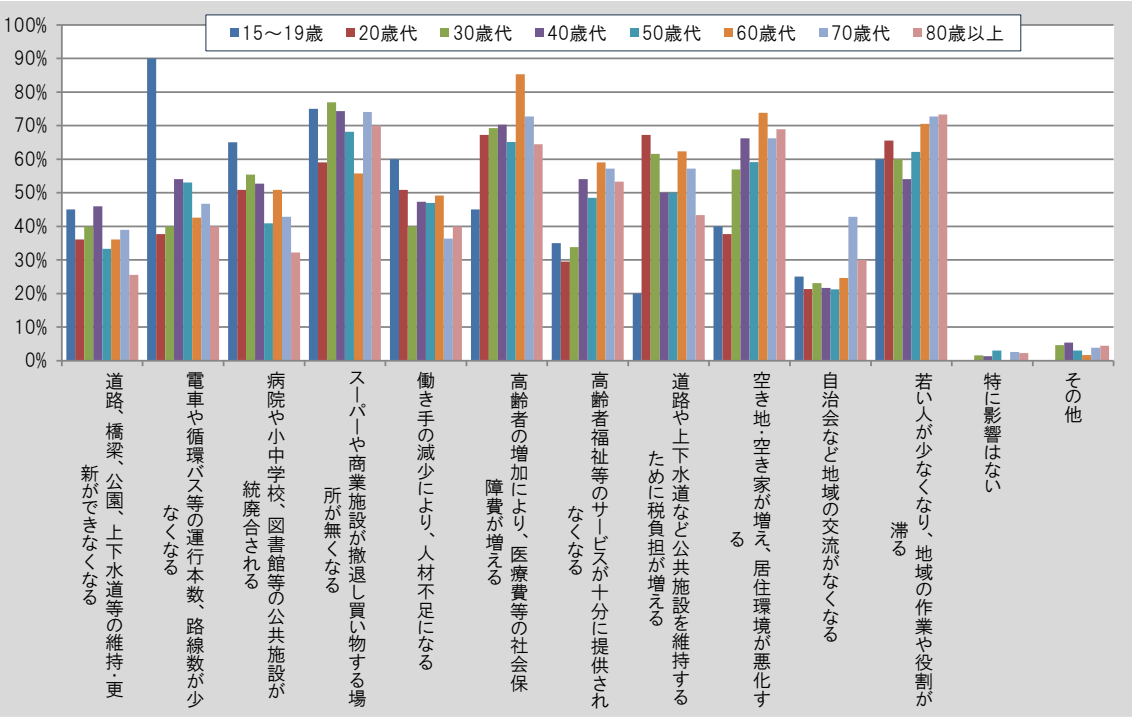


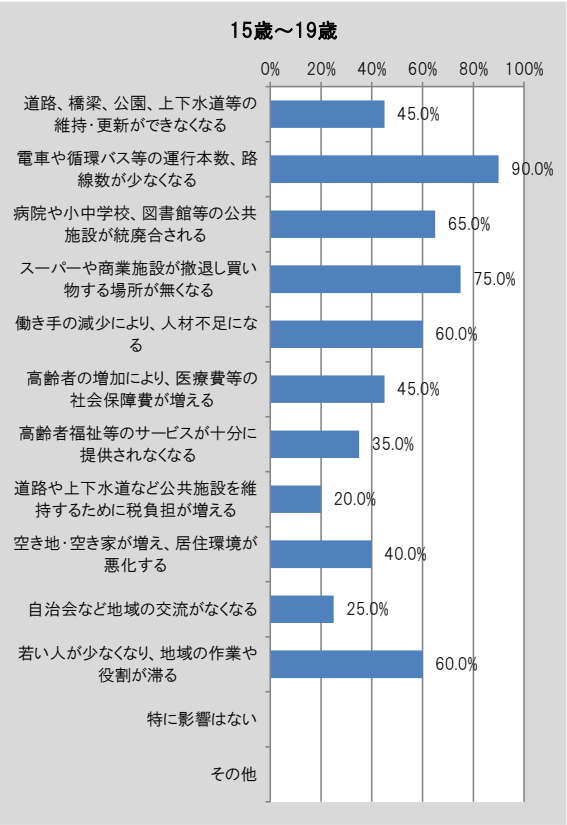
3．少子高齢社会に起因する影響への認識（問 13）とのクロス集計

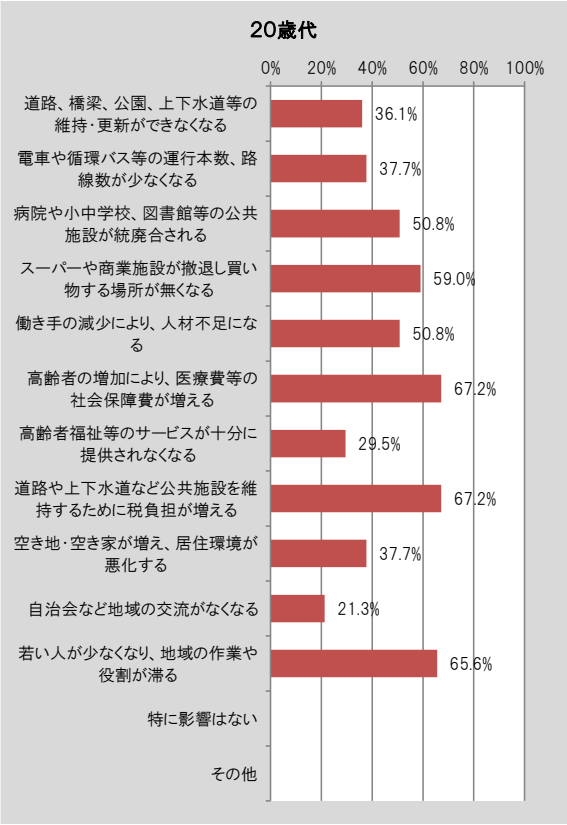
＜年齢(問 1)＞

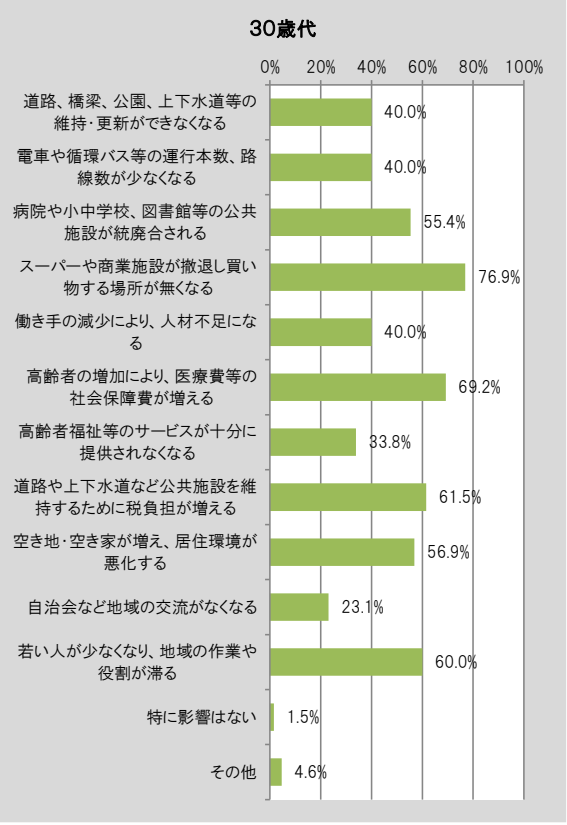
「買い物する場所が無くなる」は、ほとんどの年齢層で高い値を示している。また、「医療費等の社会保障費が増える」は 60 歳代と 70 歳代が高く、「地域の作業や役割が滞る」は 60 歳以上の年齢層で高い。15～19 歳は「電車やバス等の運行本数が少なくなる」が 90.0%となっている。

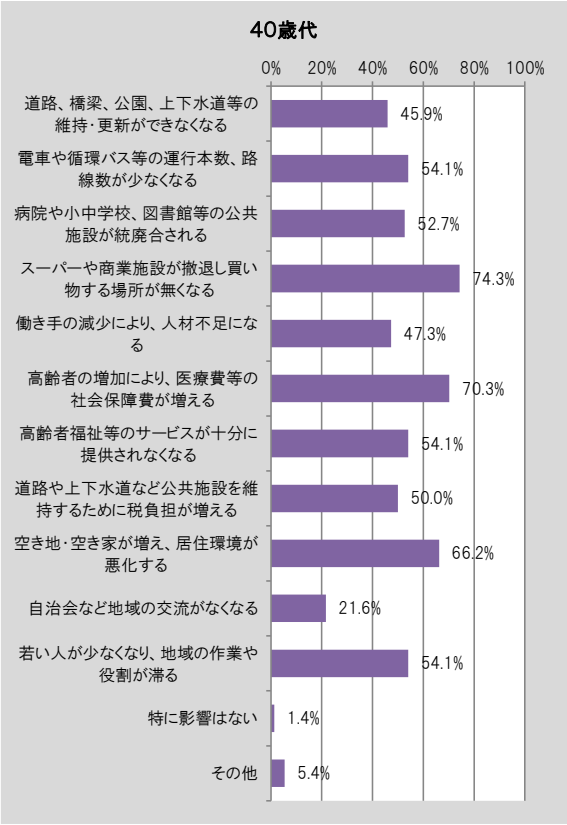
年齢層	選択肢	道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる	電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる	病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される	スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる	働き手の減少により、人材不足になる	高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える	高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる	道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える	空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する	自治会など地域の交流がなくなる	若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る	特に影響はない	その他	無回答	計
15～19歳	回答数	9	18	13	15	12	9	7	4	8	5	12	0	0	0	20
	構成比	45.0%	90.0%	65.0%	75.0%	60.0%	45.0%	35.0%	20.0%	40.0%	25.0%	60.0%	0.0%	0.0%	－	－
20歳代	回答数	22	23	31	36	31	41	18	41	23	13	40	0	0	1	62
	構成比	36.1%	37.7%	50.8%	59.0%	50.8%	67.2%	29.5%	67.2%	37.7%	21.3%	65.6%	0.0%	0.0%	－	－
30歳代	回答数	26	26	36	50	26	45	22	40	37	15	39	1	3	0	65
	構成比	40.0%	40.0%	55.4%	76.9%	40.0%	69.2%	33.8%	61.5%	56.9%	23.1%	60.0%	1.5%	4.6%	－	－
40歳代	回答数	34	40	39	55	35	52	40	37	49	16	40	1	4	0	74
	構成比	45.9%	54.1%	52.7%	74.3%	47.3%	70.3%	54.1%	50.0%	66.2%	21.6%	54.1%	1.4%	5.4%	－	－
50歳代	回答数	22	35	27	45	31	43	32	33	39	14	41	2	2	0	66
	構成比	33.3%	53.0%	40.9%	68.2%	47.0%	65.2%	48.5%	50.0%	59.1%	21.2%	62.1%	3.0%	3.0%	－	－
60歳代	回答数	22	26	31	34	30	52	36	38	45	15	43	0	1	1	62
	構成比	36.1%	42.6%	50.8%	55.7%	49.2%	85.2%	59.0%	62.3%	73.8%	24.6%	70.5%	0.0%	1.6%	－	－
70歳代	回答数	30	36	33	57	28	56	44	44	51	33	56	2	3	0	77
	構成比	39.0%	46.8%	42.9%	74.0%	36.4%	72.7%	57.1%	57.1%	66.2%	42.9%	72.7%	2.6%	3.9%	－	－
80歳以上	回答数	23	36	29	63	36	58	48	39	62	27	66	2	4	7	97
	構成比	25.6%	40.0%	32.2%	70.0%	40.0%	64.4%	53.3%	43.3%	68.9%	30.0%	73.3%	2.2%	4.4%	－	－

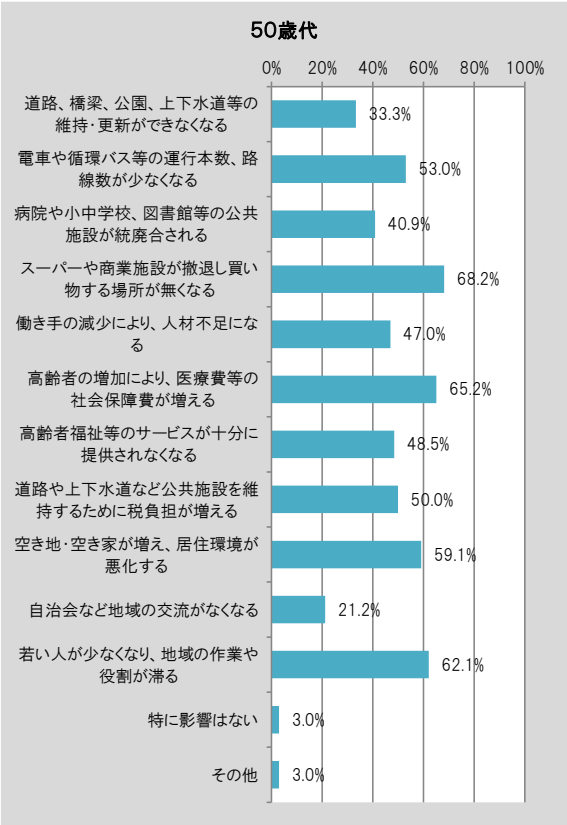


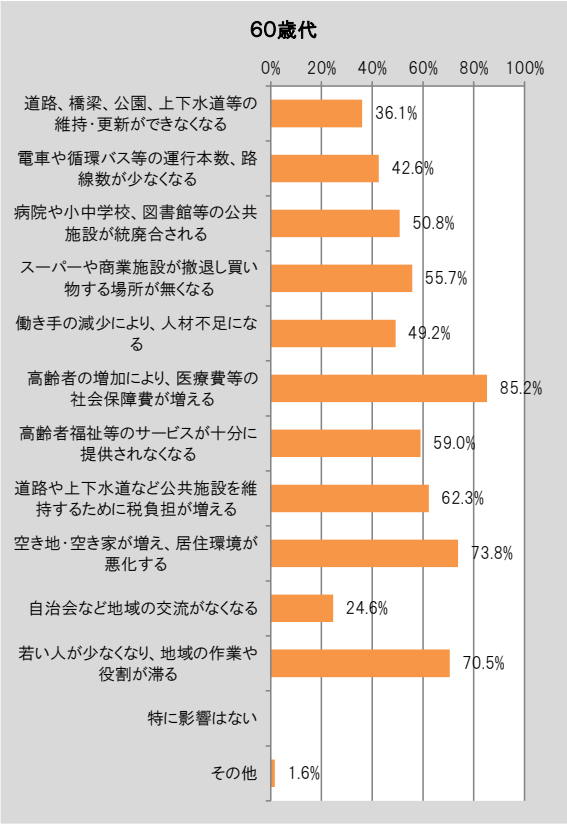

15歳～19歳
0%
20%
40%
60%
80%
100%
道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる
45.0%
電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる
90.0%
病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される
65.0%
スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる
75.0%
働き手の減少により、人材不足になる
60.0%
高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える
45.0%
高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる
35.0%
道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える
20.0%
空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する
40.0%
自治会など地域の交流がなくなる
25.0%
若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る
60.0%
特に影響はない
その他

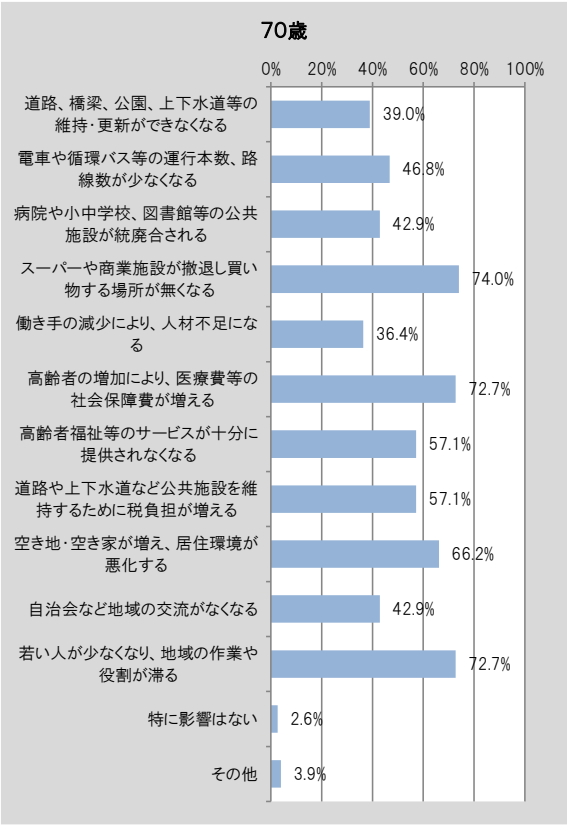

20歳代
0%
20%
40%
60%
80%
100%
道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる
36.1%
電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる
37.7%
病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される
50.8%
スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる
59.0%
働き手の減少により、人材不足になる
50.8%
高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える
67.2%
高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる
29.5%
道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える
67.2%
空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する
37.7%
自治会など地域の交流がなくなる
21.3%
若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る
65.6%
特に影響はない
その他

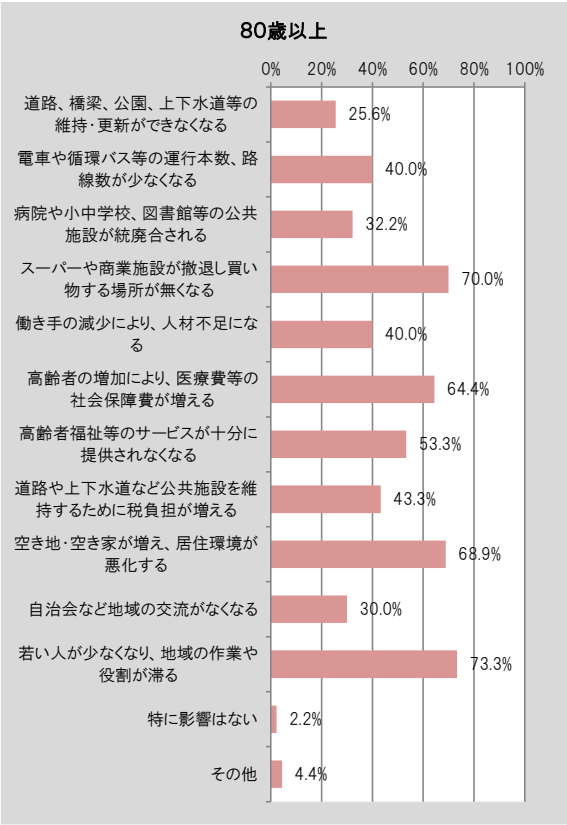

30歳代
0%
20%
40%
60%
80%
100%
道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる
40.0%
電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる
40.0%
病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される
55.4%
スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる
76.9%
働き手の減少により、人材不足になる
40.0%
高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える
69.2%
高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる
33.8%
道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える
61.5%
空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する
56.9%
自治会など地域の交流がなくなる
23.1%
若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る
60.0%
特に影響はない
1.5%
その他
4.6%


40歳代
0%
20%
40%
60%
80%
100%
道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる
45.9%
電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる
54.1%
病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される
52.7%
スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる
74.3%
働き手の減少により、人材不足になる
47.3%
高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える
70.3%
高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる
54.1%
道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える
50.0%
空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する
66.2%
自治会など地域の交流がなくなる
21.6%
若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る
54.1%
特に影響はない
1.4%
その他
5.4%


50歳代
0%
20%
40%
60%
80%
100%
道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる
33.3%
電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる
53.0%
病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される
40.9%
スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる
68.2%
働き手の減少により、人材不足になる
47.0%
高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える
65.2%
高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる
48.5%
道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える
50.0%
空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する
59.1%
自治会など地域の交流がなくなる
21.2%
若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る
62.1%
特に影響はない
3.0%
その他
3.0%


60歳代
0%
20%
40%
60%
80%
100%
道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる
36.1%
電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる
42.6%
病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される
50.8%
スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる
55.7%
働き手の減少により、人材不足になる
49.2%
高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える
85.2%
高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる
59.0%
道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える
62.3%
空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する
73.8%
自治会など地域の交流がなくなる
24.6%
若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る
70.5%
特に影響はない
その他
1.6%


70歳
0%
20%
40%
60%
80%
100%
道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる
39.0%
電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる
46.8%
病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される
42.9%
スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる
74.0%
働き手の減少により、人材不足になる
36.4%
高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える
72.7%
高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる
57.1%
道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える
57.1%
空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する
66.2%
自治会など地域の交流がなくなる
42.9%
若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る
72.7%
特に影響はない
2.6%
その他
3.9%

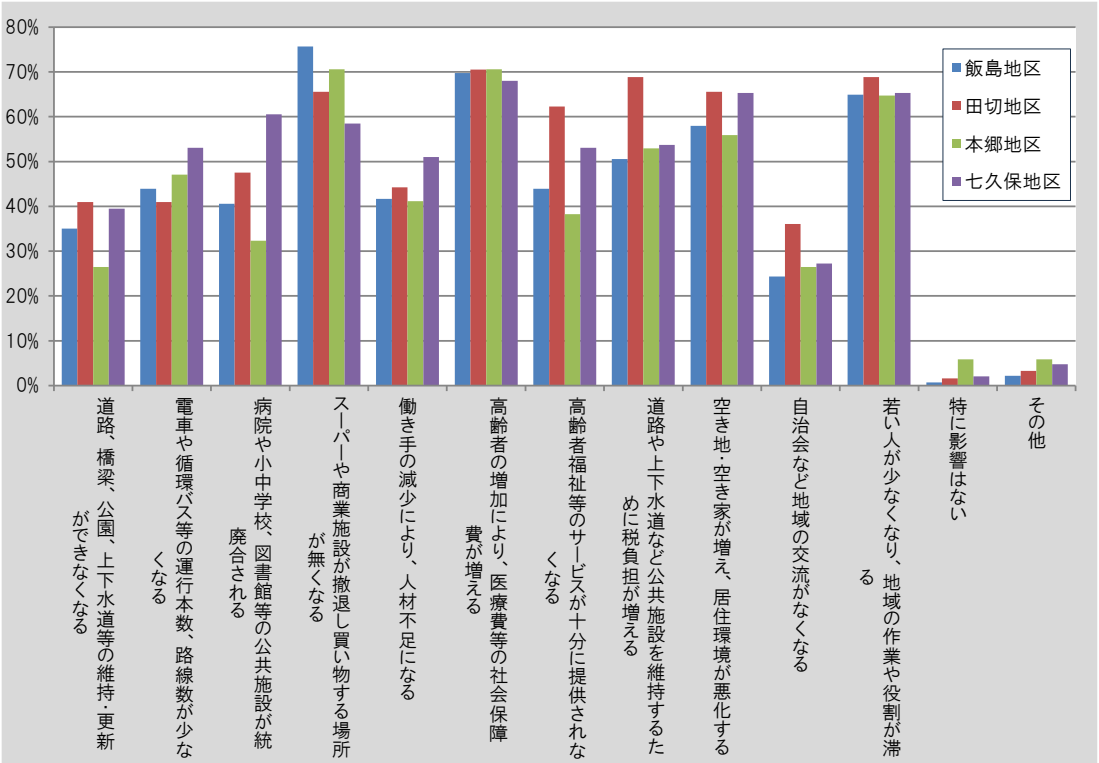

80歳以上
0%
20%
40%
60%
80%
100%
道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる
25.6%
電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる
40.0%
病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される
32.2%
スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる
70.0%
働き手の減少により、人材不足になる
40.0%
高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える
64.4%
高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる
53.3%
道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える
43.3%
空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する
68.9%
自治会など地域の交流がなくなる
30.0%
若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る
73.3%
特に影響はない
2.2%
その他
4.4%

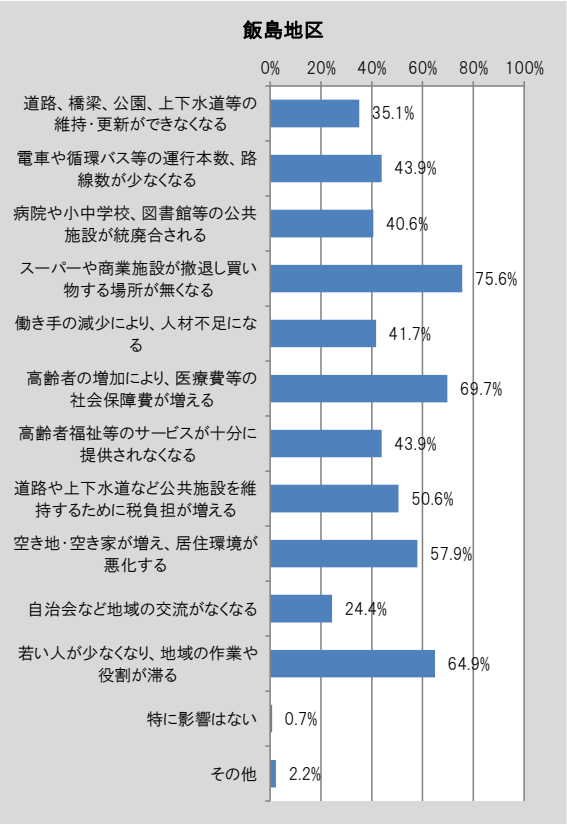
＜居住地区(問 4)＞

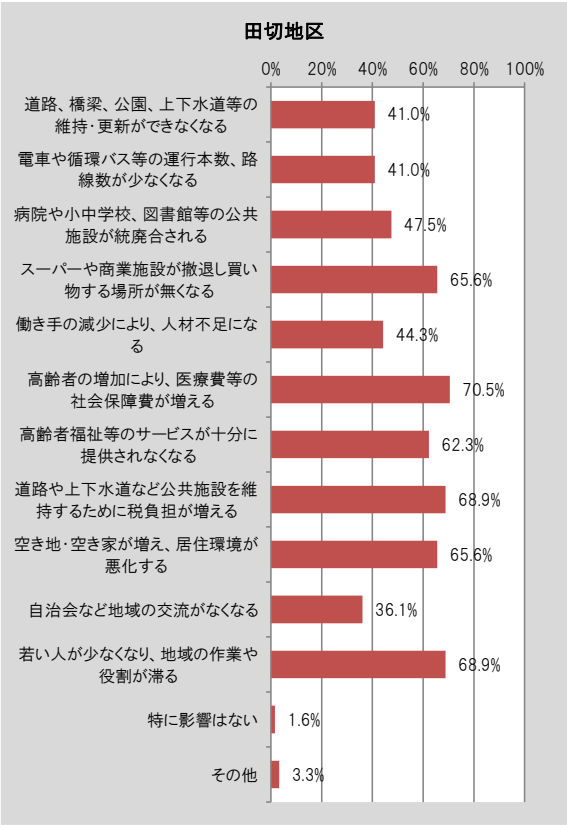
「買い物する場所が無くなる」は、飯島と本郷地区で 70%以上の高い値を示している。

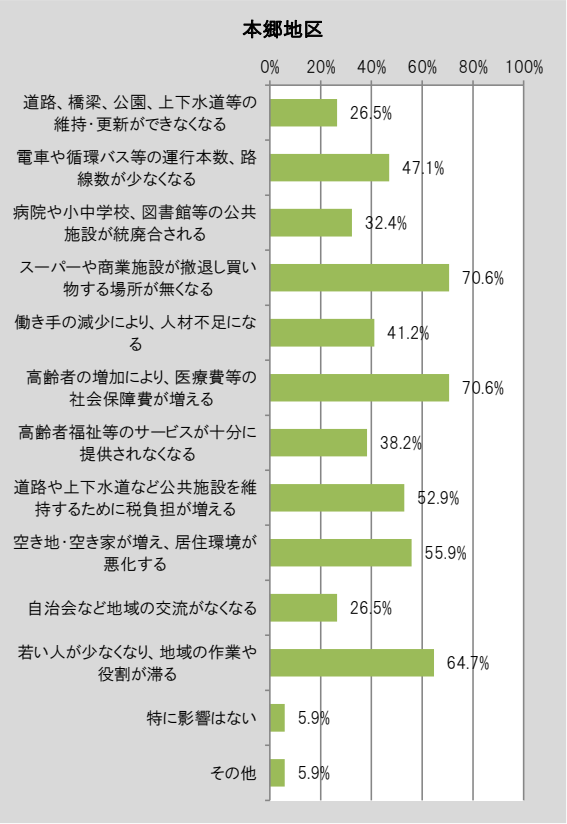
「医療費等の社会保障費が増える」「地域の作業や役割や滞る」は、どの地区も高く、地区での違いは見られない。

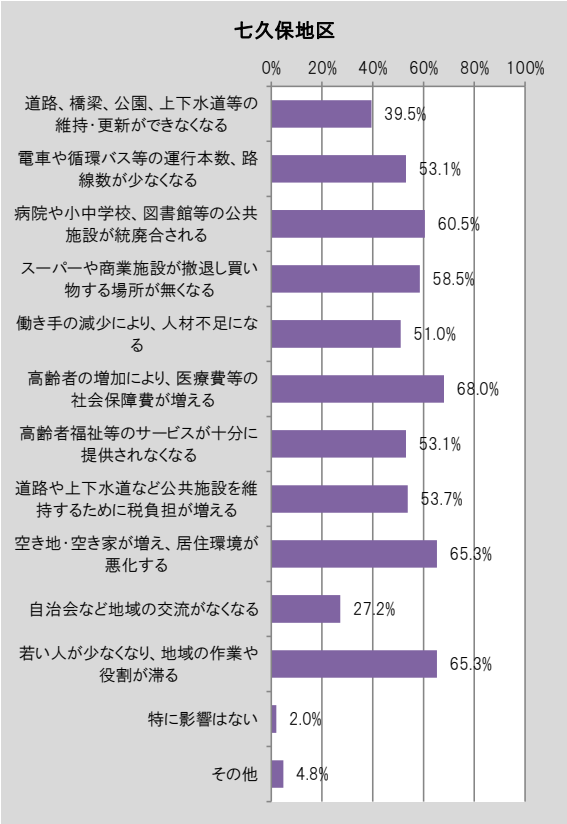
居住地区	選択肢	道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる	電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる	病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される	売上減少により、スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる	働き手の減少により、人材不足になる	高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える	高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる	道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える	空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する	自治会など地域の交流がなくなる	若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る	特に影響はない	その他	無回答	計
飯島地区	回答数	95	119	110	205	113	189	119	137	157	66	176	2	6	3	274
	構成比	35.1%	43.9%	40.6%	75.6%	41.7%	69.7%	43.9%	50.6%	57.9%	24.4%	64.9%	0.7%	2.2%	－	－
田切地区	回答数	25	25	29	40	27	43	38	42	40	22	42	1	2	0	61
	構成比	41.0%	41.0%	47.5%	65.6%	44.3%	70.5%	62.3%	68.9%	65.6%	36.1%	68.9%	1.6%	3.3%	－	－
本郷地区	回答数	9	16	11	24	14	24	13	18	19	9	22	2	2	2	36
	構成比	26.5%	47.1%	32.4%	70.6%	41.2%	70.6%	38.2%	52.9%	55.9%	26.5%	64.7%	5.9%	5.9%	－	－
七久保地区	回答数	58	78	89	86	75	100	78	79	96	40	96	3	7	4	151
	構成比	39.5%	53.1%	60.5%	58.5%	51.0%	68.0%	53.1%	53.7%	65.3%	27.2%	65.3%	2.0%	4.8%	－	－




飯島地区
0%
20%
40%
60%
80%
100%
道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる
35.1%
電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる
43.9%
病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される
40.6%
スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる
75.6%
働き手の減少により、人材不足になる
41.7%
高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える
69.7%
高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる
43.9%
道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える
50.6%
空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する
57.9%
自治会など地域の交流がなくなる
24.4%
若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る
64.9%
特に影響はない
0.7%
その他
2.2%


田切地区
0%
20%
40%
60%
80%
100%
道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる
41.0%
電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる
41.0%
病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される
47.5%
スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる
65.6%
働き手の減少により、人材不足になる
44.3%
高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える
70.5%
高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる
62.3%
道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える
68.9%
空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する
65.6%
自治会など地域の交流がなくなる
36.1%
若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る
68.9%
特に影響はない
1.6%
その他
3.3%


本郷地区
0%
20%
40%
60%
80%
100%
道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる
26.5%
電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる
47.1%
病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される
32.4%
スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる
70.6%
働き手の減少により、人材不足になる
41.2%
高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える
70.6%
高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる
38.2%
道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える
52.9%
空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する
55.9%
自治会など地域の交流がなくなる
26.5%
若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る
64.7%
特に影響はない
5.9%
その他
5.9%

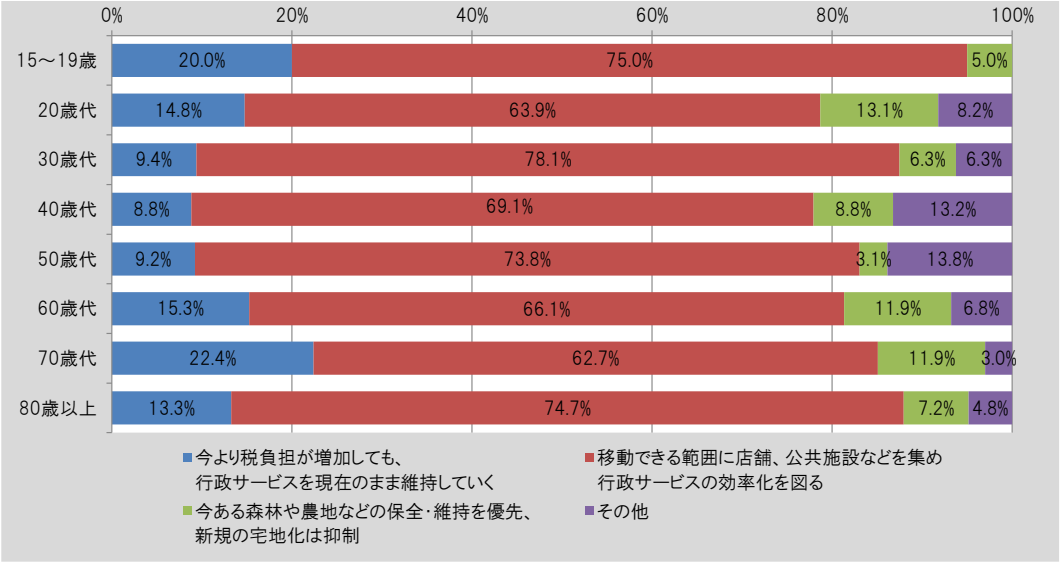

七久保地区
0%
20%
40%
60%
80%
100%
道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新ができなくなる
39.5%
電車や循環バス等の運行本数、路線数が少なくなる
53.1%
病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される
60.5%
スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる
58.5%
働き手の減少により、人材不足になる
51.0%
高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える
68.0%
高齢者福祉等のサービスが十分に提供されなくなる
53.1%
道路や上下水道など公共施設を維持するために税負担が増える
53.7%
空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する
65.3%
自治会など地域の交流がなくなる
27.2%
若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る
65.3%
特に影響はない
2.0%
その他
4.8%

4．人口減少等による影響に対する行政の取組方向性（問 14）とのクロス集計

＜年齢(問 1)＞

15 歳～19 歳、70 歳以上は「今より税負担が増加しても、行政サービスを現在のまま維持していく」が 20%を超えており、30 歳代から 50 歳代は 10%を下回っている。

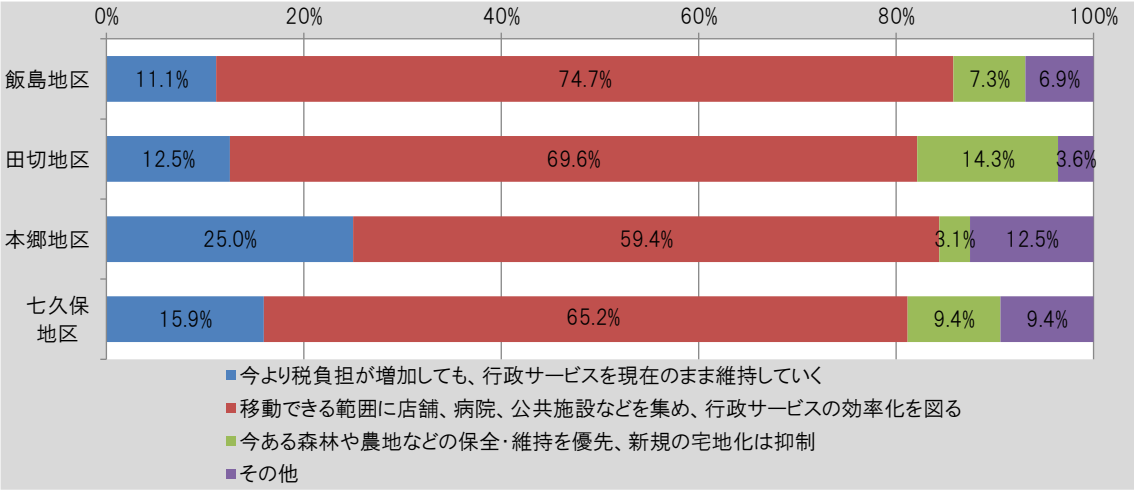
年齢層	選択肢	今より税負担が増加しても、現状の道路や下水道、学校などの公共施設や公共交通といった行政サービスを現在のまま維持していく	人口減少や税収の減少等の変化に柔軟に対応していくため、徒歩あるいは公共交通で移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集め、行政サービスの効率化を図る	今ある森林や農地などの保全・維持を優先させ、農地などへの新規の宅地化は抑制する	その他	無回答	計
15～19歳	回答数	4	15	1	0	0	20
	構成比	20.0%	75.0%	5.0%	0.0%	－	－
20歳代	回答数	9	39	8	5	1	62
	構成比	14.8%	63.9%	13.1%	8.2%	－	－
30歳代	回答数	6	50	4	4	1	65
	構成比	9.4%	78.1%	6.3%	6.3%	－	－
40歳代	回答数	6	47	6	9	6	74
	構成比	8.8%	69.1%	8.8%	13.2%	－	－
50歳代	回答数	6	48	2	9	1	66
	構成比	9.2%	73.8%	3.1%	13.8%	－	－
60歳代	回答数	9	39	7	4	3	62
	構成比	15.3%	66.1%	11.9%	6.8%	－	－
70歳代	回答数	15	42	8	2	10	77
	構成比	22.4%	62.7%	11.9%	3.0%	－	－
80歳以上	回答数	11	62	6	4	14	97
	構成比	13.3%	74.7%	7.2%	4.8%	－	－



＜居住地区(問 4)＞

本郷地区は「今より税負担が増加しても、行政サービスを現在のまま維持していく」が25.0%となっており、他の地区より突出して高くなっている。

居住地区	選択肢	今より税負担が増加しても、現状の道路や下水道、学校などの公共施設や公共交通といった行政サービスを現在のまま維持していく	移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集め、行政サービスの効率化を図る	人口減少や税収の減少等の変化に柔軟に対応していくため、徒歩あるいは公共交通で	今ある森林や農地などの保全・維持を優先させ、農地などへの新規の宅地化は抑制する	その他	無回答	計
飯島地区	回答数	29	195	19	18	13	274
	構成比	11.1%	74.7%	7.3%	6.9%	-	-
田切地区	回答数	7	39	8	2	5	61
	構成比	12.5%	69.6%	14.3%	3.6%	-	-
本郷地区	回答数	8	19	1	4	4	36
	構成比	25.0%	59.4%	3.1%	12.5%	-	-
七久保地区	回答数	22	90	13	13	13	151
	構成比	15.9%	65.2%	9.4%	9.4%	-	-



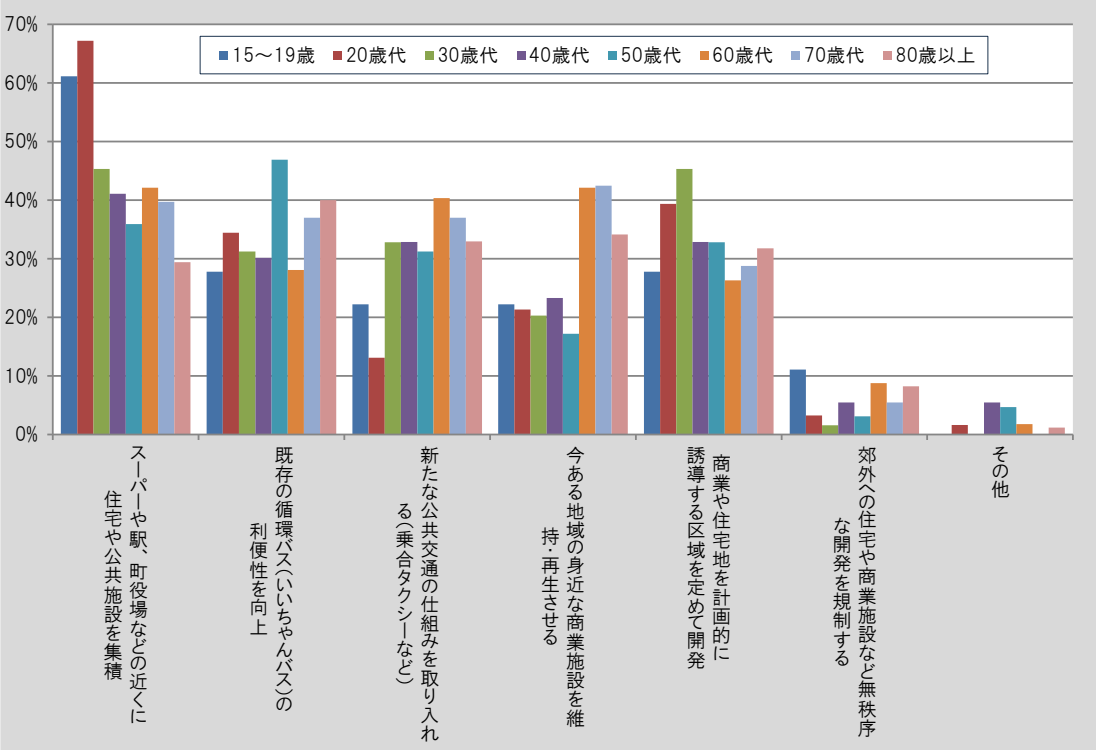
5．コンパクトシティ形成に向けた施策（問 15）とのクロス集計

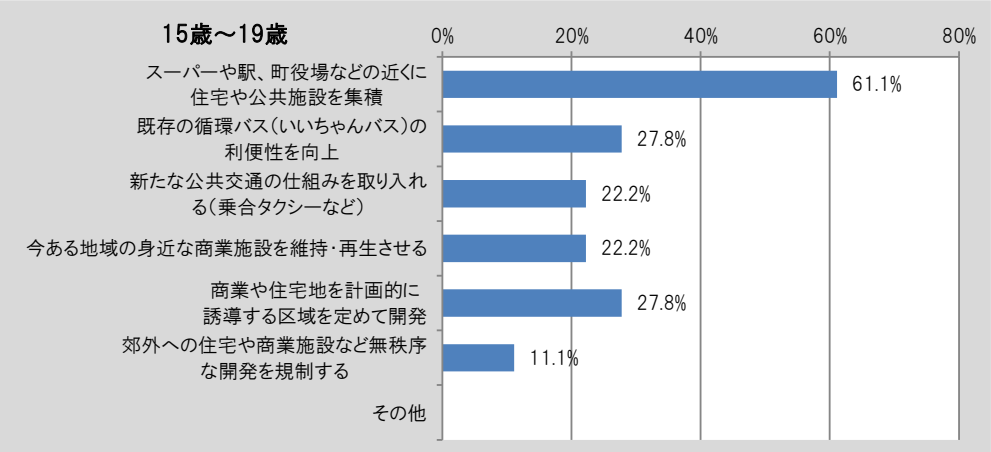
＜年齢(問 1)＞

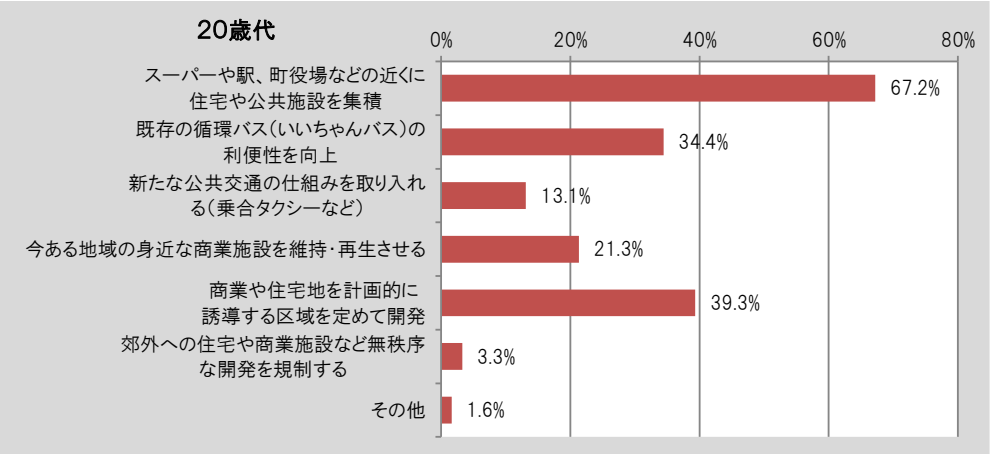
「スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積」は、20 歳代以下が高く60%以上を示しており、30 歳代以降は年齢が上がるにつれて低くなっている。

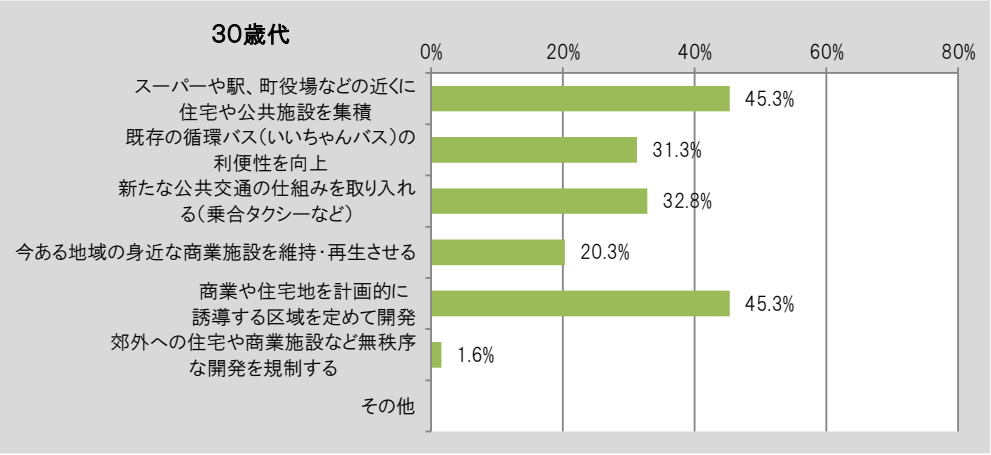
「今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる」は、50 歳代以下には低く、60 歳代以上には高く支持されている。「商業や住宅地を計画的に誘導する区域を定めて開発」は 30 歳代に最も高く支持されている。

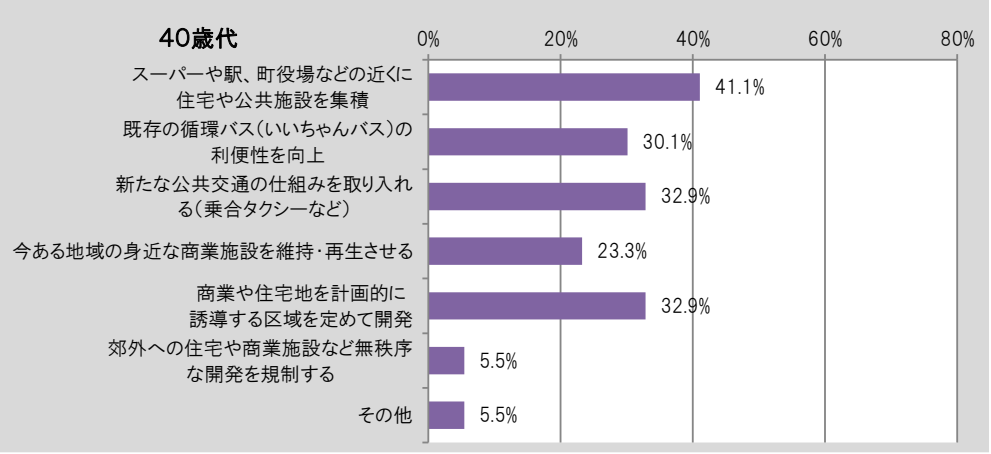
年齢層	選択肢	住宅や公共施設を集積させる	移動が少なくても快適に住み続けられるよう、スーパーなどの商業施設や駅、町役場などの近くに住	既存の循環バス（いいちゃんバス）を今よりも便利で使いやすくする	新たな公共交通の仕組みを取り入れる（乗合タクシーなど）	今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる	商業施設や住宅地を計画的に誘導する区域を定め、計画的に開発する	郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する	その他	無回答	計
15～19歳	回答数	11	5	4	4	5	2	0	2	20
	構成比	61.1%	27.8%	22.2%	22.2%	27.8%	11.1%	0.0%	－	－
20歳代	回答数	41	21	8	13	24	2	1	1	62
	構成比	67.2%	34.4%	13.1%	21.3%	39.3%	3.3%	1.6%	－	－
30歳代	回答数	29	20	21	13	29	1	0	1	65
	構成比	45.3%	31.3%	32.8%	20.3%	45.3%	1.6%	0.0%	－	－
40歳代	回答数	30	22	24	17	24	4	4	1	74
	構成比	41.1%	30.1%	32.9%	23.3%	32.9%	5.5%	5.5%	－	－
50歳代	回答数	23	30	20	11	21	2	3	2	66
	構成比	35.9%	46.9%	31.3%	17.2%	32.8%	3.1%	4.7%	－	－
60歳代	回答数	24	16	23	24	15	5	1	5	62
	構成比	42.1%	28.1%	40.4%	42.1%	26.3%	8.8%	1.8%	－	－
70歳代	回答数	29	27	27	31	21	4	0	4	77
	構成比	39.7%	37.0%	37.0%	42.5%	28.8%	5.5%	0.0%	－	－
80歳以上	回答数	25	34	28	29	27	7	1	12	97
	構成比	29.4%	40.0%	32.9%	34.1%	31.8%	8.2%	1.2%	－	－

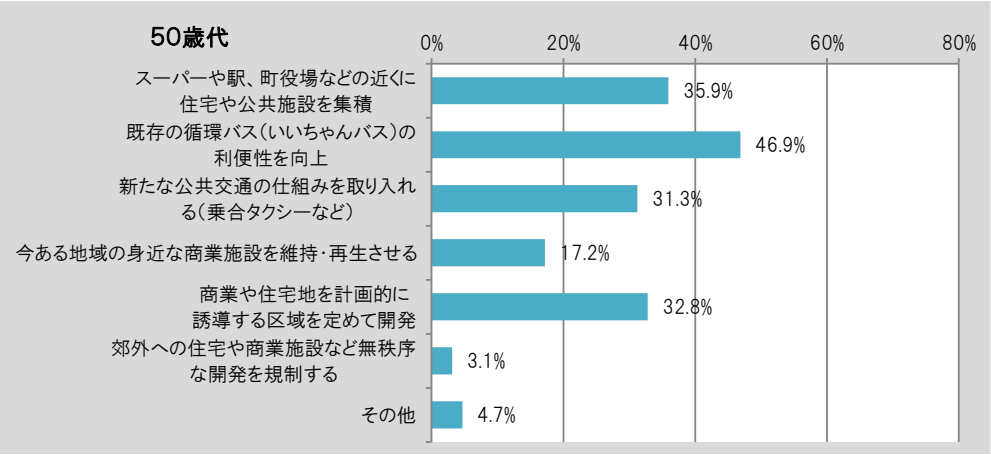


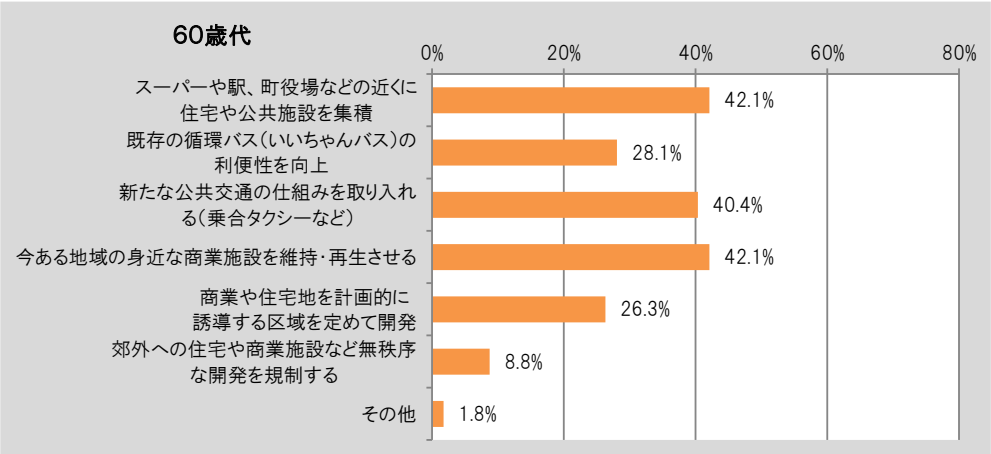

15歳～19歳
0%
20%
40%
60%
80%
スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積
61.1%
既存の循環バス(いいちゃんバス)の利便性を向上
27.8%
新たな公共交通の仕組みを取り入れる(乗合タクシーなど)
22.2%
今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる
22.2%
商業や住宅地を計画的に誘導する区域を定めて開発
27.8%
郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する
11.1%
その他

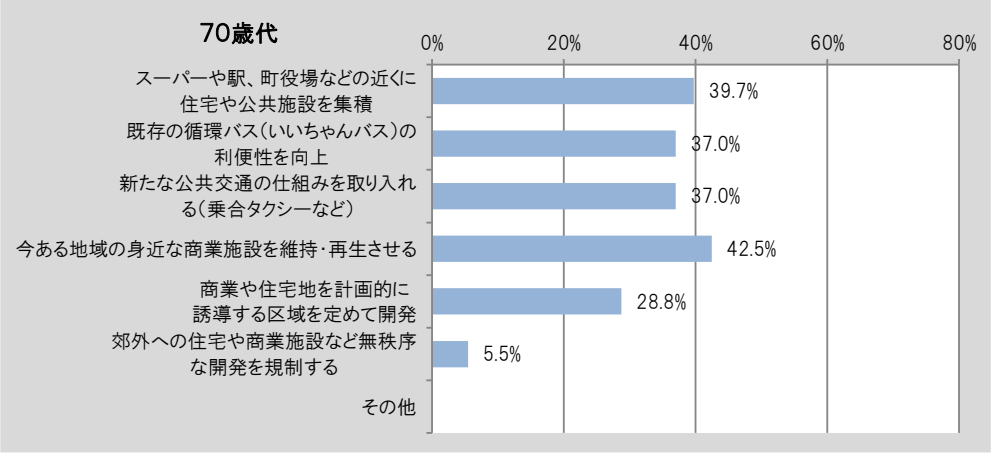

20歳代
0%
20%
40%
60%
80%
スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積
67.2%
既存の循環バス(いいちゃんバス)の利便性を向上
34.4%
新たな公共交通の仕組みを取り入れる(乗合タクシーなど)
13.1%
今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる
21.3%
商業や住宅地を計画的に誘導する区域を定めて開発
39.3%
郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する
3.3%
その他
1.6%

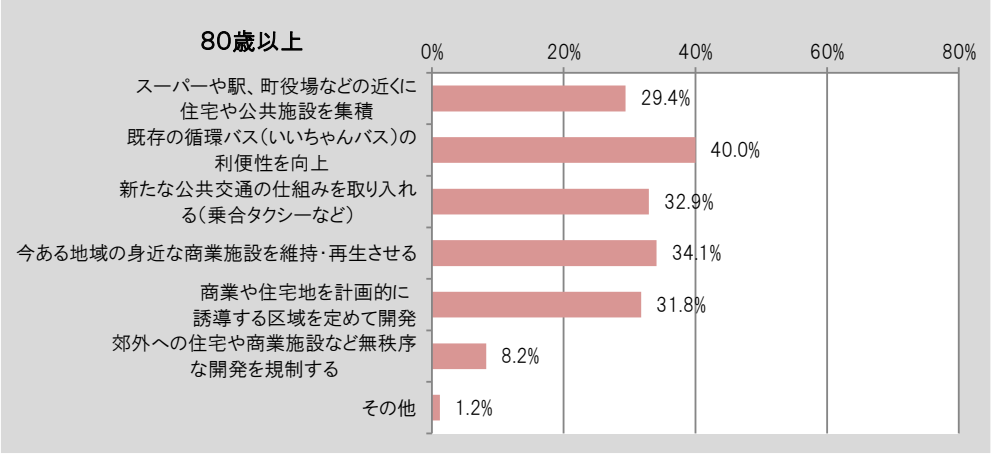

30歳代
0%
20%
40%
60%
80%
スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積
45.3%
既存の循環バス(いいちゃんバス)の利便性を向上
31.3%
新たな公共交通の仕組みを取り入れる(乗合タクシーなど)
32.8%
今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる
20.3%
商業や住宅地を計画的に誘導する区域を定めて開発
45.3%
郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する
1.6%
その他


40歳代
0%
20%
40%
60%
80%
スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積
41.1%
既存の循環バス(いいちゃんバス)の利便性を向上
30.1%
新たな公共交通の仕組みを取り入れる(乗合タクシーなど)
32.9%
今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる
23.3%
商業や住宅地を計画的に誘導する区域を定めて開発
32.9%
郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する
5.5%
その他
5.5%


50歳代
0%
20%
40%
60%
80%
スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積
35.9%
既存の循環バス(いいちゃんバス)の利便性を向上
46.9%
新たな公共交通の仕組みを取り入れる(乗合タクシーなど)
31.3%
今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる
17.2%
商業や住宅地を計画的に誘導する区域を定めて開発
32.8%
郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する
3.1%
その他
4.7%


60歳代
0%
20%
40%
60%
80%
スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積
42.1%
既存の循環バス(いいちゃんバス)の利便性を向上
28.1%
新たな公共交通の仕組みを取り入れる(乗合タクシーなど)
40.4%
今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる
42.1%
商業や住宅地を計画的に誘導する区域を定めて開発
26.3%
郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する
8.8%
その他
1.8%

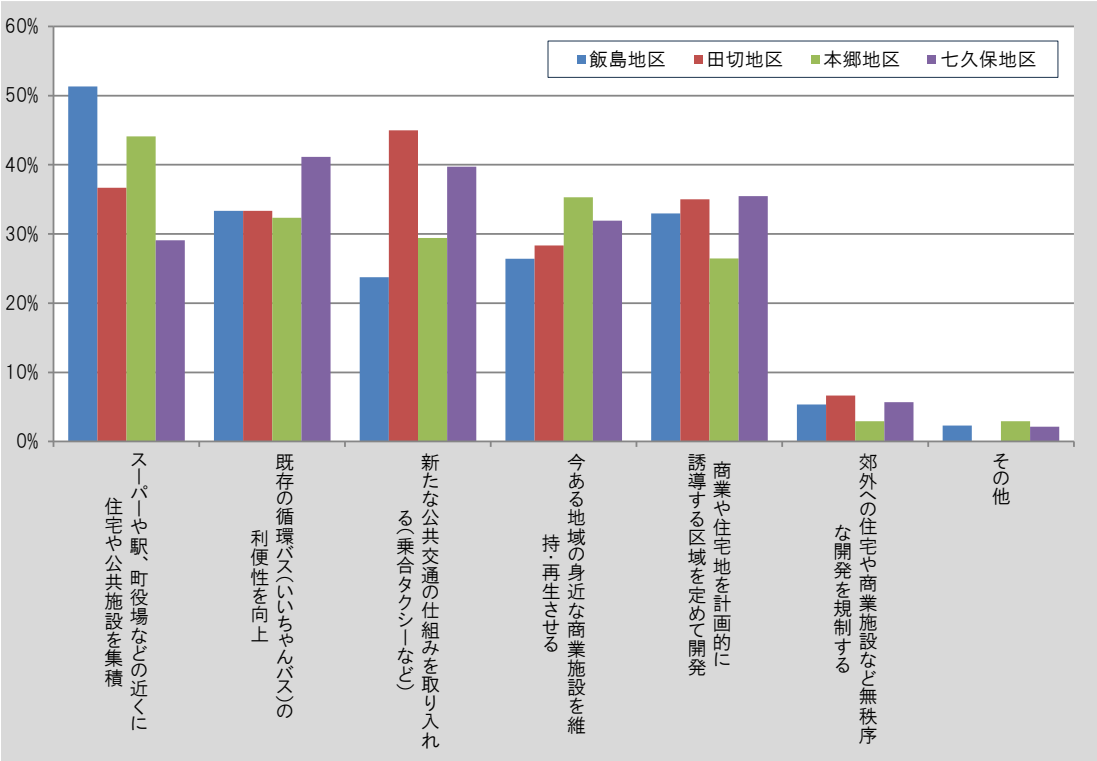

70歳代
0%
20%
40%
60%
80%
スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積
39.7%
既存の循環バス(いいちゃんバス)の利便性を向上
37.0%
新たな公共交通の仕組みを取り入れる(乗合タクシーなど)
37.0%
今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる
42.5%
商業や住宅地を計画的に誘導する区域を定めて開発
28.8%
郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する
5.5%
その他

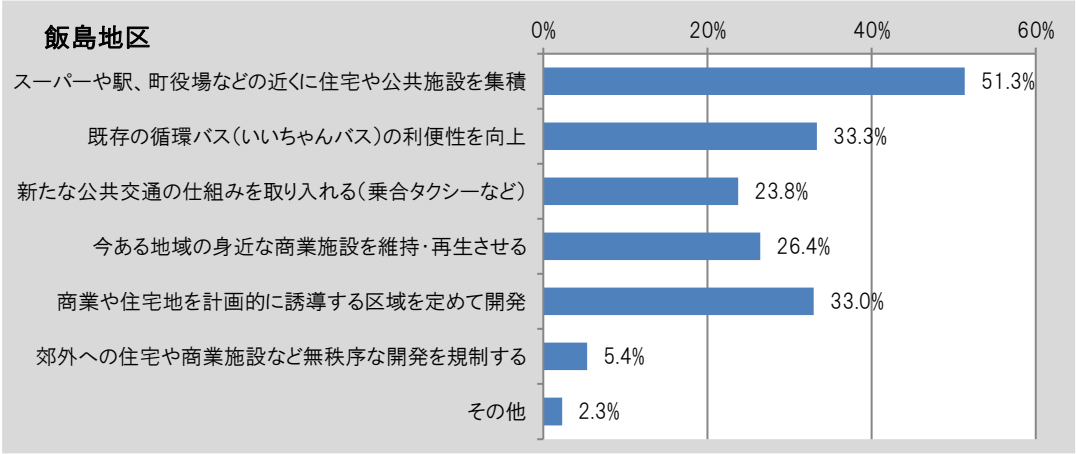

80歳以上
0%
20%
40%
60%
80%
スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積
29.4%
既存の循環バス(いいちゃんバス)の利便性を向上
40.0%
新たな公共交通の仕組みを取り入れる(乗合タクシーなど)
32.9%
今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる
34.1%
商業や住宅地を計画的に誘導する区域を定めて開発
31.8%
郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する
8.2%
その他
1.2%

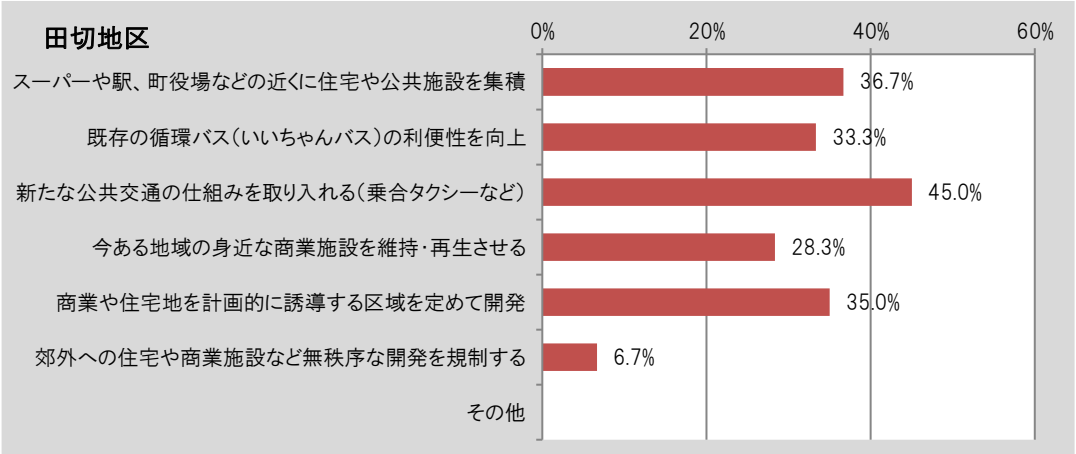
＜居住地区(問 4)＞

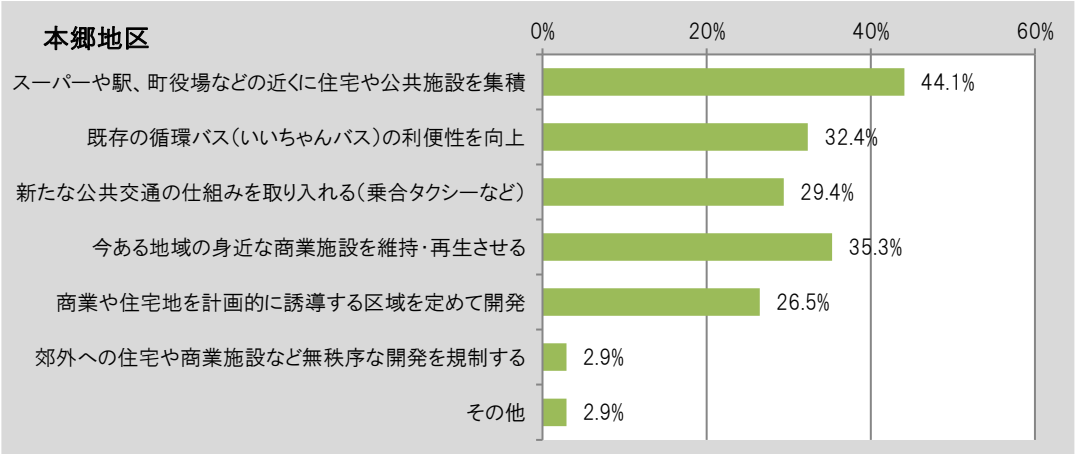
飯島地区及び本郷地区は「スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積」が、田切地区は「新たな公共交通の仕組みを取り入れる」が最も高く支持されている。七久保地区は「既存の循環バスの利便性を向上」「新たな公共交通の仕組みを取り入れる」の交通に関する事項への支持が高くなっている。

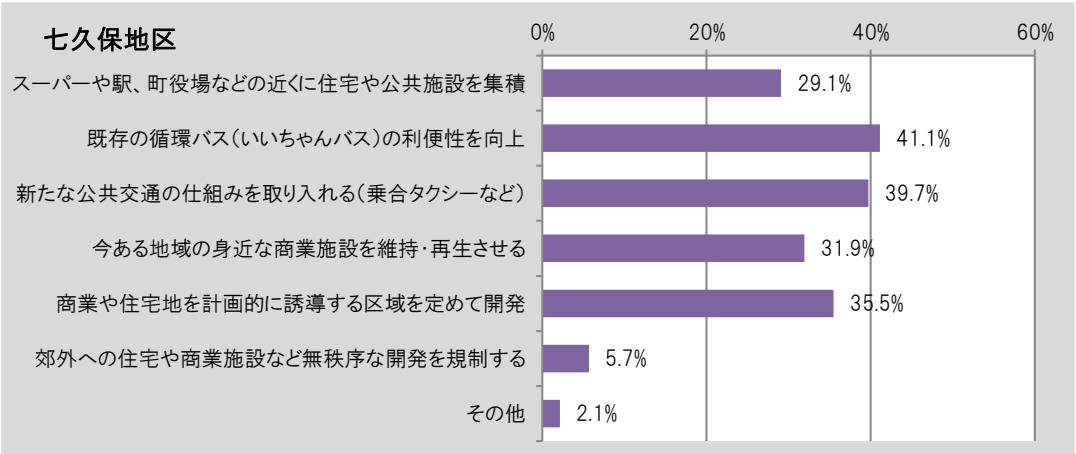
居住地区	選択肢	移動が少なくても快適に住み続けられるよう、スーパーなどの商業施設や駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積させる	既存の循環バス（いいちゃんバス）を今よりも便利で使いやすくする	新たな公共交通の仕組みを取り入れる（乗合タクシーなど）	今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる	商業施設や住宅地を計画的に誘導する区域を定め、計画的に開発する	郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する	その他	無回答	計
飯島地区	回答数	134	87	62	69	86	14	6	13	274
	構成比	51.3%	33.3%	23.8%	26.4%	33.0%	5.4%	2.3%	-	-
田切地区	回答数	22	20	27	17	21	4	0	1	61
	構成比	36.7%	33.3%	45.0%	28.3%	35.0%	6.7%	0.0%	-	-
本郷地区	回答数	15	11	10	12	9	1	1	2	36
	構成比	44.1%	32.4%	29.4%	35.3%	26.5%	2.9%	2.9%	-	-
七久保地区	回答数	41	58	56	45	50	8	3	10	151
	構成比	29.1%	41.1%	39.7%	31.9%	35.5%	5.7%	2.1%	-	-




飯島地区
0%
20%
40%
60%
スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積
51.3%
既存の循環バス(いいちゃんバス)の利便性を向上
33.3%
新たな公共交通の仕組みを取り入れる(乗合タクシーなど)
23.8%
今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる
26.4%
商業や住宅地を計画的に誘導する区域を定めて開発
33.0%
郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する
5.4%
その他
2.3%


田切地区
0%
20%
40%
60%
スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積
36.7%
既存の循環バス(いいちゃんバス)の利便性を向上
33.3%
新たな公共交通の仕組みを取り入れる(乗合タクシーなど)
45.0%
今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる
28.3%
商業や住宅地を計画的に誘導する区域を定めて開発
35.0%
郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する
6.7%
その他


本郷地区
0%
20%
40%
60%
スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積
44.1%
既存の循環バス(いいちゃんバス)の利便性を向上
32.4%
新たな公共交通の仕組みを取り入れる(乗合タクシーなど)
29.4%
今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる
35.3%
商業や住宅地を計画的に誘導する区域を定めて開発
26.5%
郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する
2.9%
その他
2.9%


七久保地区
0%
20%
40%
60%
スーパーや駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積
29.1%
既存の循環バス(いいちゃんバス)の利便性を向上
41.1%
新たな公共交通の仕組みを取り入れる(乗合タクシーなど)
39.7%
今ある地域の身近な商業施設を維持・再生させる
31.9%
商業や住宅地を計画的に誘導する区域を定めて開発
35.5%
郊外への住宅や商業施設など無秩序な開発を規制する
5.7%
その他
2.1%

6．道路整備の優先性の考え方（問 16）とのクロス集計

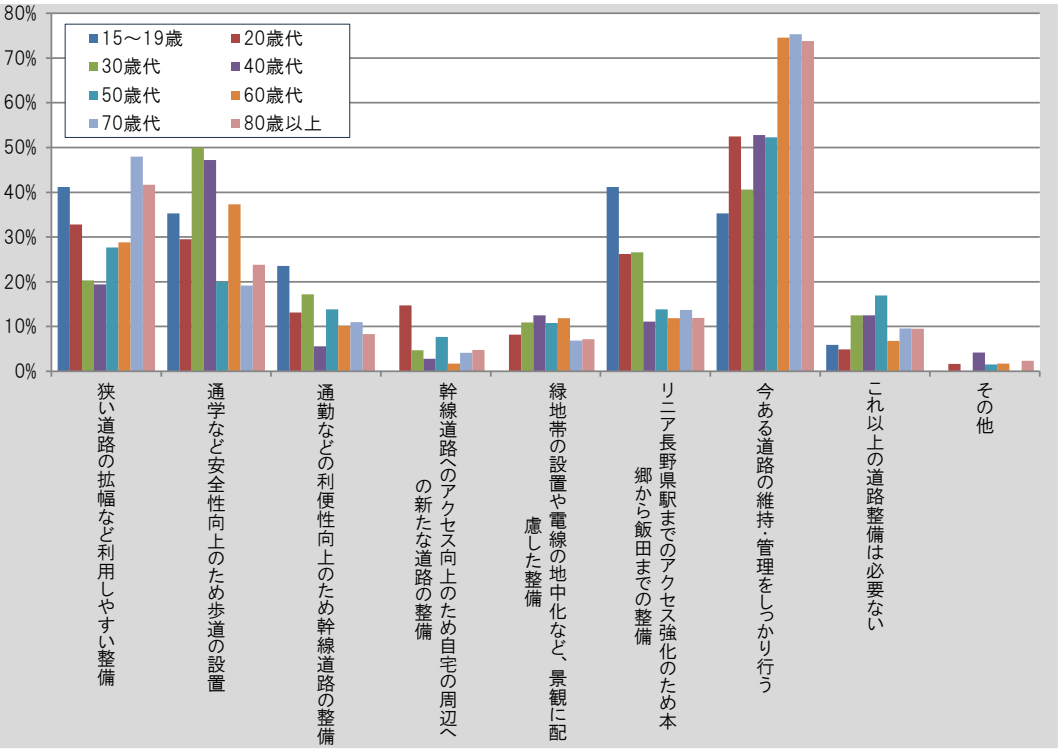
＜年齢(問 1)＞

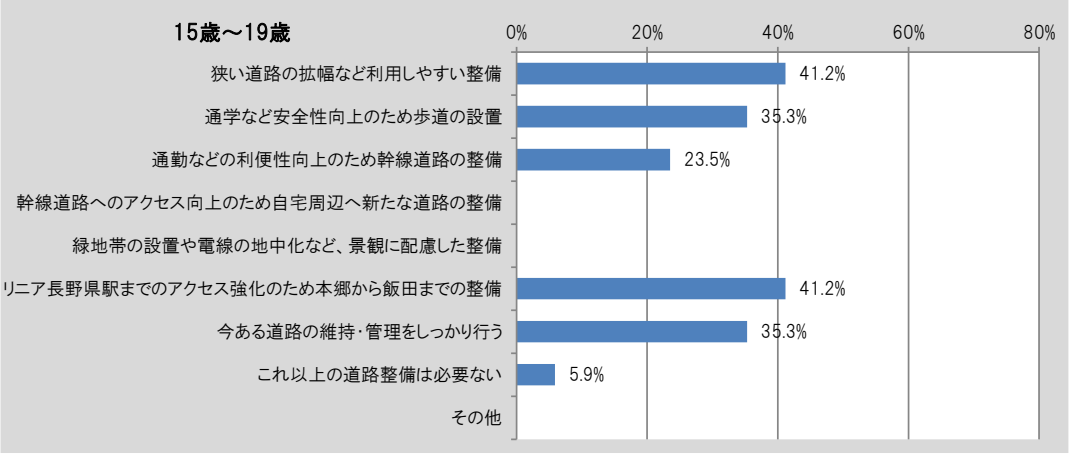
「今ある道路の維持・管理をしっかり行う」は、どの年齢層も高く、特に 60 歳代以上の年齢層は非常に高い値を示している。

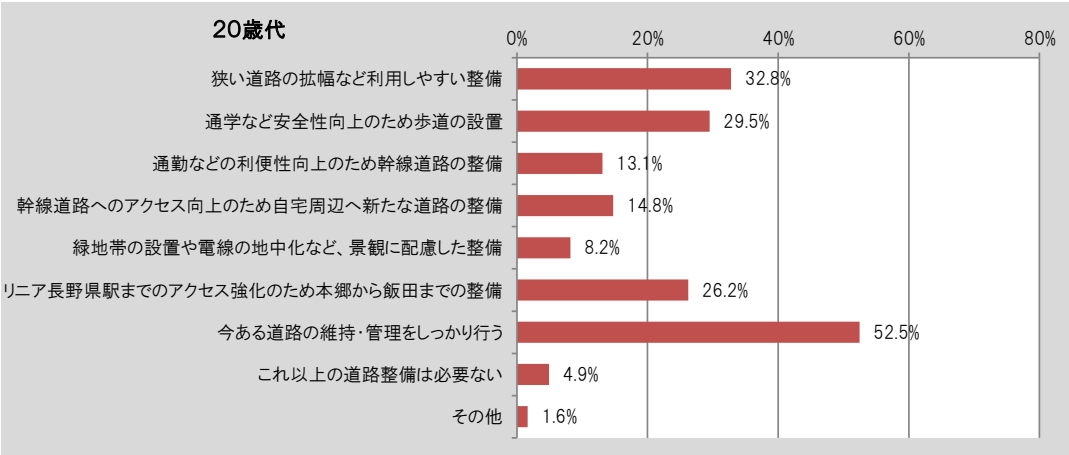
「通学など安全性向上のため歩道の設置」は、30 歳代、40 歳代の子育て世代に高く支持されている。

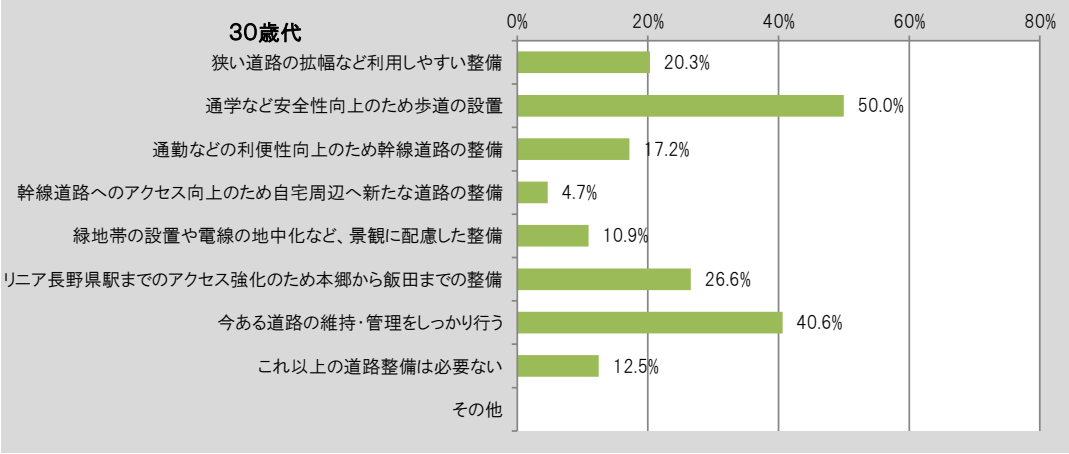
「リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷から飯田までの整備」は 30 歳代以下が比較的高く、特に 15～19 歳は 41.2%を占めている。

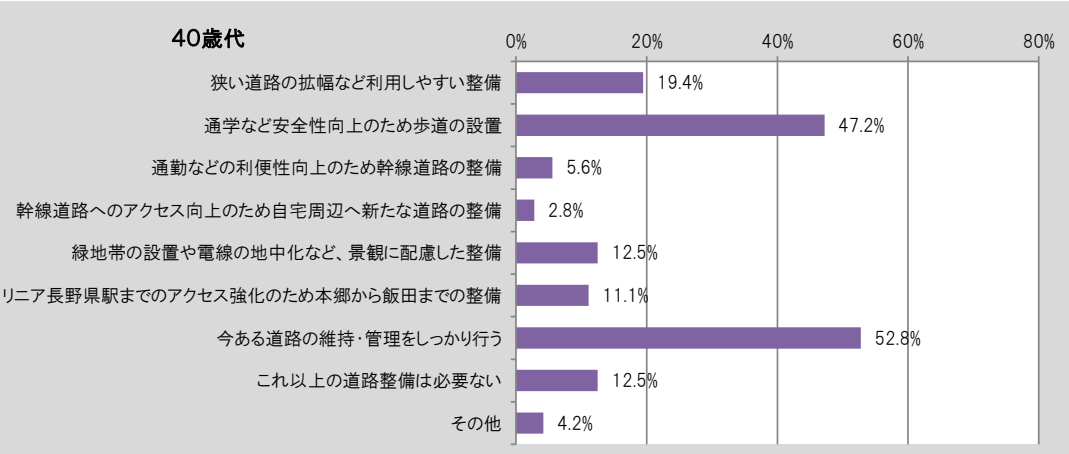
年齢層	選択肢	狭い道路の拡幅など利用しやすい整備	通学など安全性向上のため歩道の設置	通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備	幹線道路へのアクセス向上のため自宅の周辺への新たな道路の整備	緑地帯の設置や電線の地中化など、景観に配慮した整備	リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷から飯田までの整備	今ある道路の維持・管理をしっかり行う	これ以上の道路整備は必要ない	その他	無回答	計
15～19歳	回答数	7	6	4	0	0	7	6	1	0	3	20
	構成比	41.2%	35.3%	23.5%	0.0%	0.0%	41.2%	35.3%	5.9%	0.0%	－	－
20歳代	回答数	20	18	8	9	5	16	32	3	1	1	62
	構成比	32.8%	29.5%	13.1%	14.8%	8.2%	26.2%	52.5%	4.9%	1.6%	－	－
30歳代	回答数	13	32	11	3	7	17	26	8	0	1	65
	構成比	20.3%	50.0%	17.2%	4.7%	10.9%	26.6%	40.6%	12.5%	0.0%	－	－
40歳代	回答数	14	34	4	2	9	8	38	9	3	2	74
	構成比	19.4%	47.2%	5.6%	2.8%	12.5%	11.1%	52.8%	12.5%	4.2%	－	－
50歳代	回答数	18	13	9	5	7	9	34	11	1	1	66
	構成比	27.7%	20.0%	13.8%	7.7%	10.8%	13.8%	52.3%	16.9%	1.5%	－	－
60歳代	回答数	17	22	6	1	7	7	44	4	1	3	62
	構成比	28.8%	37.3%	10.2%	1.7%	11.9%	11.9%	74.6%	6.8%	1.7%	－	－
70歳代	回答数	35	14	8	3	5	10	55	7	0	4	77
	構成比	47.9%	19.2%	11.0%	4.1%	6.8%	13.7%	75.3%	9.6%	0.0%	－	－
80歳以上	回答数	35	20	7	4	6	10	62	8	2	13	97
	構成比	41.7%	23.8%	8.3%	4.8%	7.1%	11.9%	73.8%	9.5%	2.4%	－	－

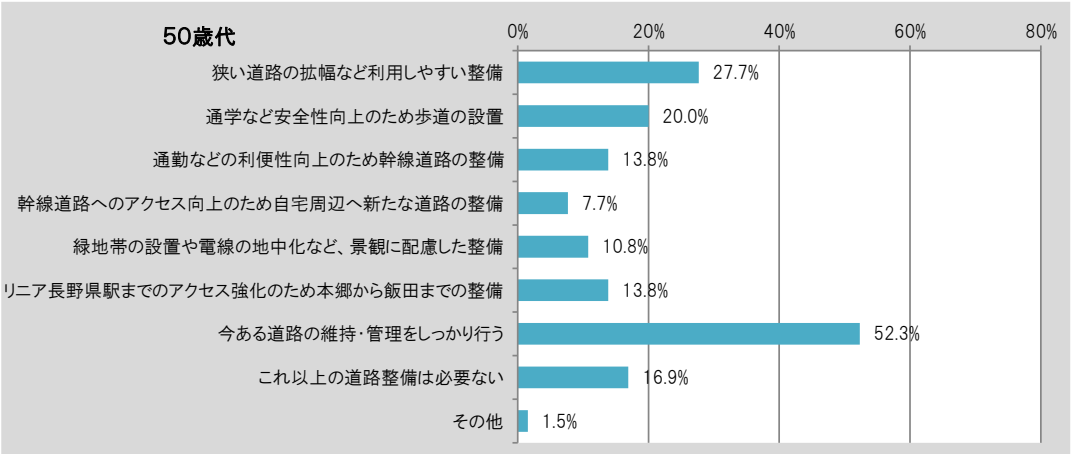


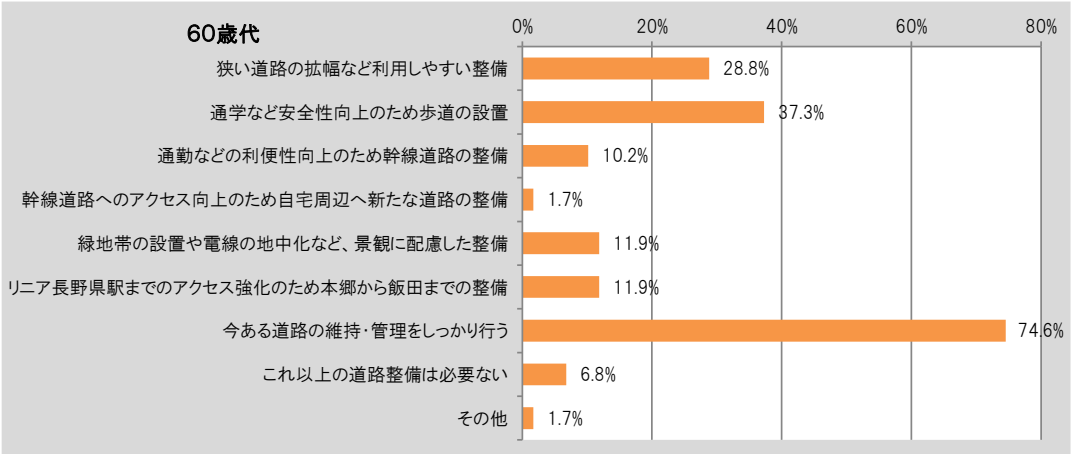

15歳～19歳
0%
20%
40%
60%
80%
狭い道路の拡幅など利用しやすい整備
41.2%
通学など安全性向上のため歩道の設置
35.3%
通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備
23.5%
幹線道路へのアクセス向上のため自宅周辺へ新たな道路の整備
緑地帯の設置や電線の地中化など、景観に配慮した整備
リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷から飯田までの整備
41.2%
今ある道路の維持・管理をしっかり行う
35.3%
これ以上の道路整備は必要ない
5.9%
その他

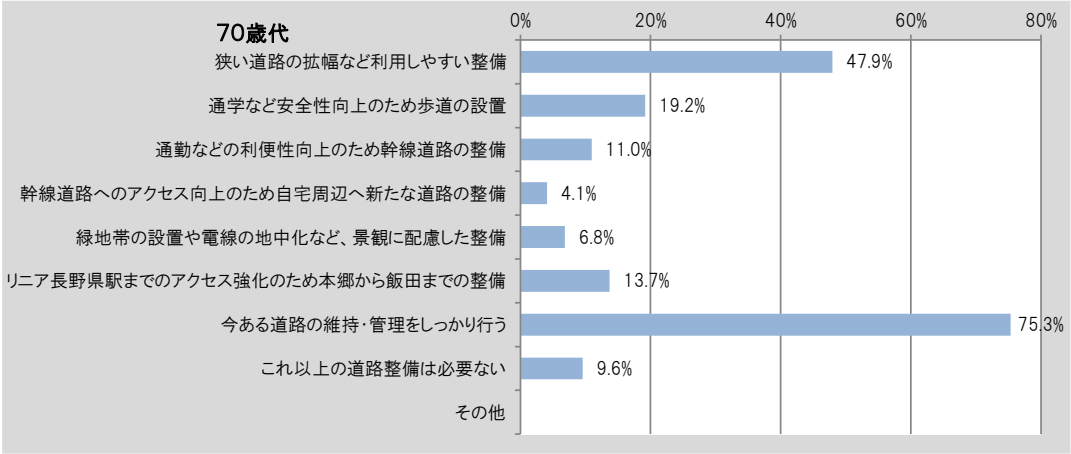

20歳代
0%
20%
40%
60%
80%
狭い道路の拡幅など利用しやすい整備
32.8%
通学など安全性向上のため歩道の設置
29.5%
通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備
13.1%
幹線道路へのアクセス向上のため自宅周辺へ新たな道路の整備
14.8%
緑地帯の設置や電線の地中化など、景観に配慮した整備
8.2%
リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷から飯田までの整備
26.2%
今ある道路の維持・管理をしっかり行う
52.5%
これ以上の道路整備は必要ない
4.9%
その他
1.6%

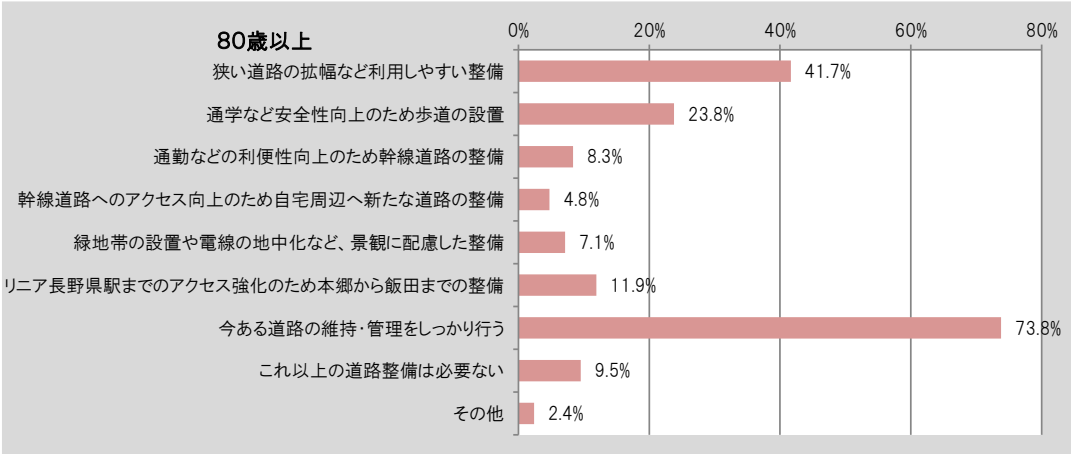

30歳代
0%
20%
40%
60%
80%
狭い道路の拡幅など利用しやすい整備
20.3%
通学など安全性向上のため歩道の設置
50.0%
通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備
17.2%
幹線道路へのアクセス向上のため自宅周辺へ新たな道路の整備
4.7%
緑地帯の設置や電線の地中化など、景観に配慮した整備
10.9%
リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷から飯田までの整備
26.6%
今ある道路の維持・管理をしっかり行う
40.6%
これ以上の道路整備は必要ない
12.5%
その他


40歳代
0%
20%
40%
60%
80%
狭い道路の拡幅など利用しやすい整備
19.4%
通学など安全性向上のため歩道の設置
47.2%
通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備
5.6%
幹線道路へのアクセス向上のため自宅周辺へ新たな道路の整備
2.8%
緑地帯の設置や電線の地中化など、景観に配慮した整備
12.5%
リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷から飯田までの整備
11.1%
今ある道路の維持・管理をしっかり行う
52.8%
これ以上の道路整備は必要ない
12.5%
その他
4.2%


50歳代
0%
20%
40%
60%
80%
狭い道路の拡幅など利用しやすい整備 27.7%
通学など安全性向上のため歩道の設置 20.0%
通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備 13.8%
幹線道路へのアクセス向上のため自宅周辺へ新たな道路の整備 7.7%
緑地帯の設置や電線の地中化など、景観に配慮した整備 10.8%
リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷から飯田までの整備 13.8%
今ある道路の維持・管理をしっかり行う 52.3%
これ以上の道路整備は必要ない 16.9%
その他 1.5%


60歳代
0%
20%
40%
60%
80%
狭い道路の拡幅など利用しやすい整備 28.8%
通学など安全性向上のため歩道の設置 37.3%
通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備 10.2%
幹線道路へのアクセス向上のため自宅周辺へ新たな道路の整備 1.7%
緑地帯の設置や電線の地中化など、景観に配慮した整備 11.9%
リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷から飯田までの整備 11.9%
今ある道路の維持・管理をしっかり行う 74.6%
これ以上の道路整備は必要ない 6.8%
その他 1.7%

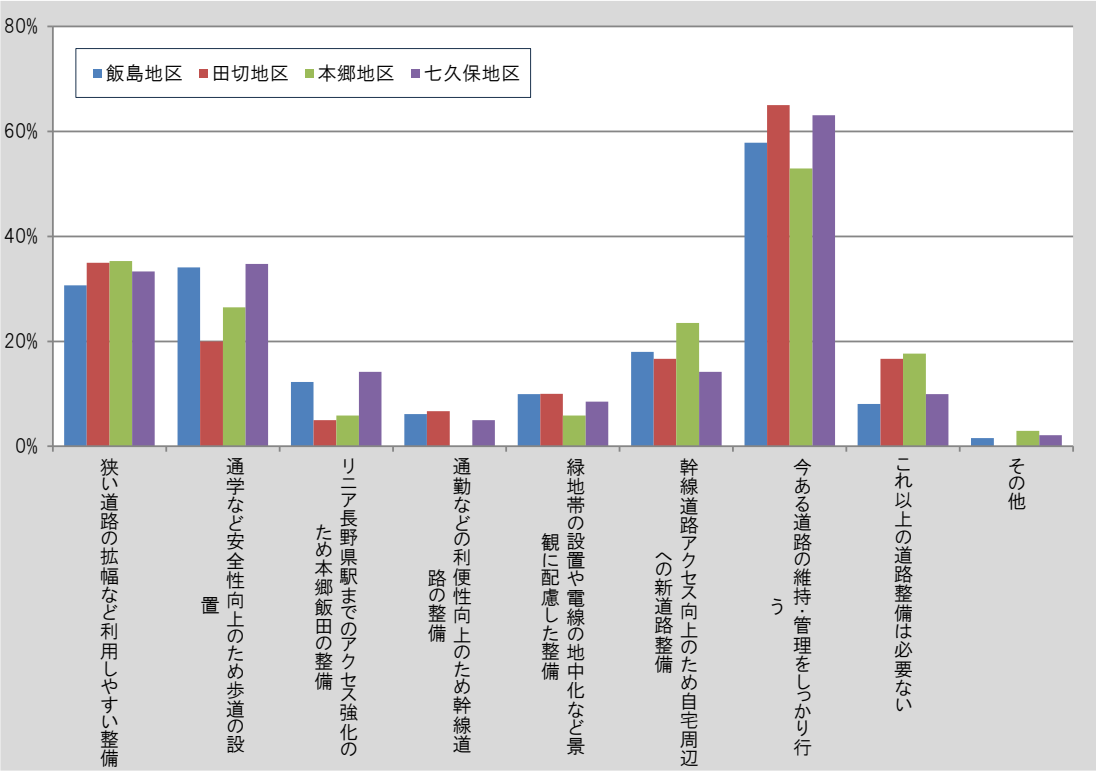

70歳代
0%
20%
40%
60%
80%
狭い道路の拡幅など利用しやすい整備 47.9%
通学など安全性向上のため歩道の設置 19.2%
通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備 11.0%
幹線道路へのアクセス向上のため自宅周辺へ新たな道路の整備 4.1%
緑地帯の設置や電線の地中化など、景観に配慮した整備 6.8%
リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷から飯田までの整備 13.7%
今ある道路の維持・管理をしっかり行う 75.3%
これ以上の道路整備は必要ない 9.6%
その他

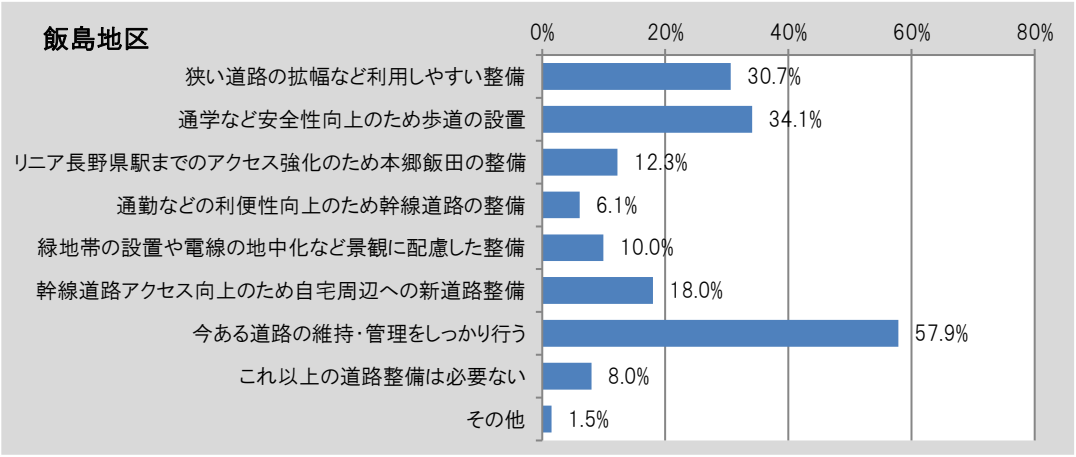

80歳以上
0%
20%
40%
60%
80%
狭い道路の拡幅など利用しやすい整備 41.7%
通学など安全性向上のため歩道の設置 23.8%
通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備 8.3%
幹線道路へのアクセス向上のため自宅周辺へ新たな道路の整備 4.8%
緑地帯の設置や電線の地中化など、景観に配慮した整備 7.1%
リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷から飯田までの整備 11.9%
今ある道路の維持・管理をしっかり行う 73.8%
これ以上の道路整備は必要ない 9.5%
その他 2.4%

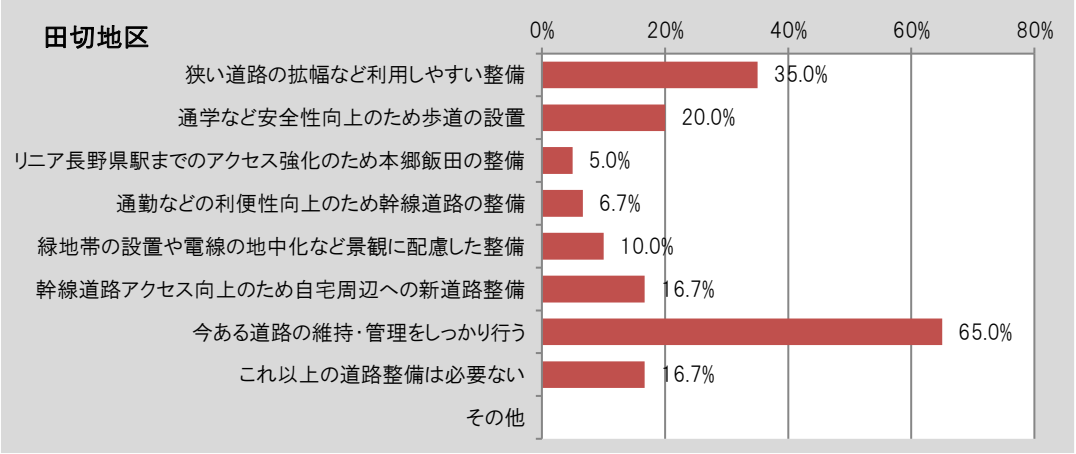
＜居住地区(問 4)＞

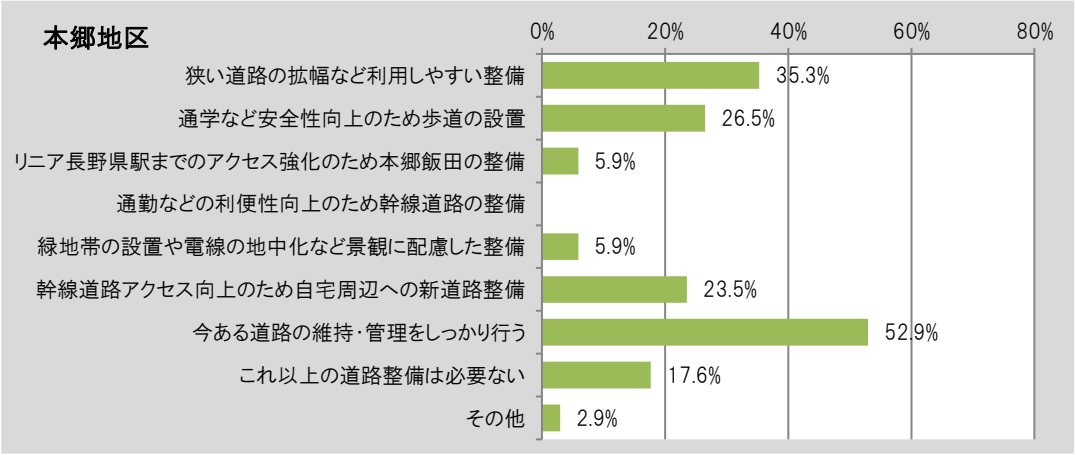
「今ある道路の維持・管理をしっかり行う」は、田切地区及び七久保地区が比較的高くなっている。「通学など安全性向上のため歩道の設置」は、飯島地区及び七久保地区が比較的高く、田切地区は低くなっている。

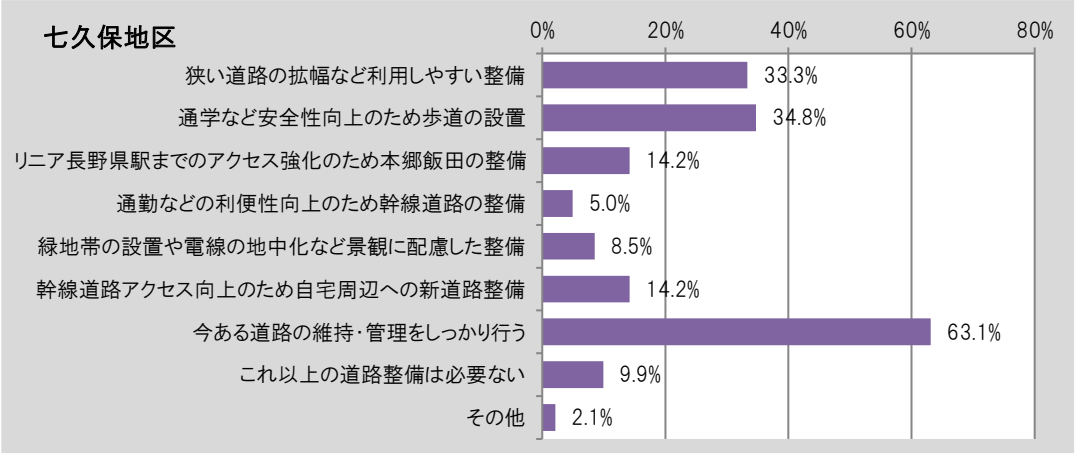
居住地区	選択肢	狭い道路の拡幅など利用しやすい整備	通学など安全性向上のため歩道の設置	通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備	幹線道路へのアクセス向上のため自宅の周辺への新たな道路の整備	緑地帯の設置や電線の地中化など、景観に配慮した整備	リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷から飯田までの整備	今ある道路の維持・管理をしっかり行う	これ以上の道路整備は必要ない	その他	無回答	計
飯島地区	回答数	80	89	32	16	26	47	151	21	4	13	274
	構成比	30.7%	34.1%	12.3%	6.1%	10.0%	18.0%	57.9%	8.0%	1.5%	－	－
田切地区	回答数	21	12	3	4	6	10	39	10	0	1	61
	構成比	35.0%	20.0%	5.0%	6.7%	10.0%	16.7%	65.0%	16.7%	0.0%	－	－
本郷地区	回答数	12	9	2	0	2	8	18	6	1	2	36
	構成比	35.3%	26.5%	5.9%	0.0%	5.9%	23.5%	52.9%	17.6%	2.9%	－	－
七久保地区	回答数	47	49	20	7	12	20	89	14	3	10	151
	構成比	33.3%	34.8%	14.2%	5.0%	8.5%	14.2%	63.1%	9.9%	2.1%	－	－




飯島地区
0%
20%
40%
60%
80%
狭い道路の拡幅など利用しやすい整備 30.7%
通学など安全性向上のため歩道の設置 34.1%
リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷飯田の整備 12.3%
通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備 6.1%
緑地帯の設置や電線の地中化など景観に配慮した整備 10.0%
幹線道路アクセス向上のため自宅周辺への新道路整備 18.0%
今ある道路の維持・管理をしっかり行う 57.9%
これ以上の道路整備は必要ない 8.0%
その他 1.5%


田切地区
0%
20%
40%
60%
80%
狭い道路の拡幅など利用しやすい整備 35.0%
通学など安全性向上のため歩道の設置 20.0%
リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷飯田の整備 5.0%
通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備 6.7%
緑地帯の設置や電線の地中化など景観に配慮した整備 10.0%
幹線道路アクセス向上のため自宅周辺への新道路整備 16.7%
今ある道路の維持・管理をしっかり行う 65.0%
これ以上の道路整備は必要ない 16.7%
その他


本郷地区
0%
20%
40%
60%
80%
狭い道路の拡幅など利用しやすい整備 35.3%
通学など安全性向上のため歩道の設置 26.5%
リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷飯田の整備 5.9%
通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備
緑地帯の設置や電線の地中化など景観に配慮した整備 5.9%
幹線道路アクセス向上のため自宅周辺への新道路整備 23.5%
今ある道路の維持・管理をしっかり行う 52.9%
これ以上の道路整備は必要ない 17.6%
その他 2.9%


七久保地区
0%
20%
40%
60%
80%
狭い道路の拡幅など利用しやすい整備 33.3%
通学など安全性向上のため歩道の設置 34.8%
リニア長野県駅までのアクセス強化のため本郷飯田の整備 14.2%
通勤などの利便性向上のため幹線道路の整備 5.0%
緑地帯の設置や電線の地中化など景観に配慮した整備 8.5%
幹線道路アクセス向上のため自宅周辺への新道路整備 14.2%
今ある道路の維持・管理をしっかり行う 63.1%
これ以上の道路整備は必要ない 9.9%
その他 2.1%

5．過去アンケートの比較及び整理

飯島町都市計画マスタープラン当初計画の策定時期に実施された住民アンケートの満足度について、比較分析を行った。満足度については、本調査にある選択肢「どちらともいえない」を除外し再集計したものと比較しており、本調査の単純及びクロス集計（居住地区）での値とは異なる。

加えて、近年に町で実施したアンケートのうち、立地適正化計画策定に参考となる結果について取りまとめた。

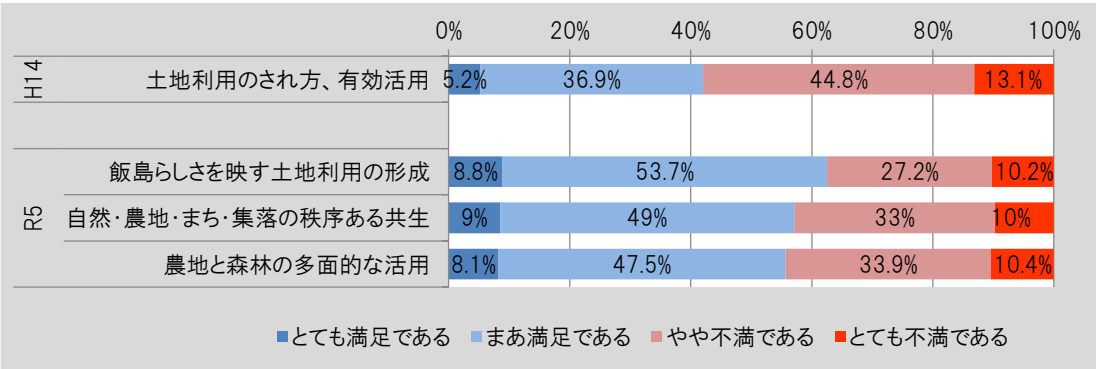
1．土地利用

＜全町＞

土地利用に関する事項を平成 14 年調査と比較すると、「とても満足である」「まあ満足である」ともに上昇が見られる。

土地利用	選択肢	とても満足である	まあ満足である	やや不満である	とても不満である	計
H14 土地利用のされ方、有効活用	回答数	26	185	225	66	502
	構成比	5.2%	36.9%	44.8%	13.1%	100.0%
飯島らしさを映す土地利用の形成	回答数	25	152	77	29	283
	構成比	8.8%	53.7%	27.2%	10.2%	100.0%
自然･農地･まち･集落の秩序ある共生	回答数	21	120	82	24	247
	構成比	8.5%	48.6%	33.2%	9.7%	100.0%
農地と森林の多面的な活用	回答数	18	105	75	23	221
	構成比	8.1%	47.5%	33.9%	10.4%	100.0%

資料：一般町民向けアンケート(H14.12実施)



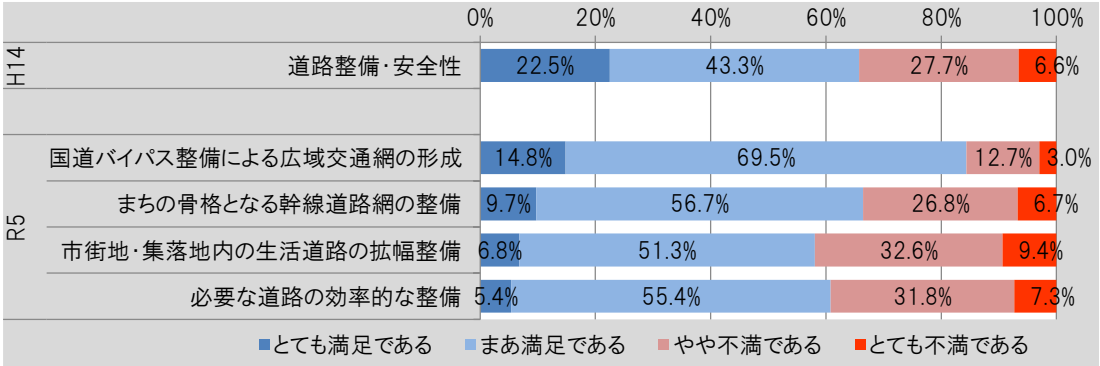
2．交通

交通に関する事項を平成 14 年調査と比較すると、「とても満足である」は下落している。

「国道バイパス整備による広域交通網の形成」のみ満足度が高く、その他については横ばい、または下落している。

交通	選択肢	とても満足である	まあ満足である	やや不満である	とても不満である	計
H14 道路整備･安全性	回答数	65	125	80	19	289
	構成比	22.5%	43.3%	27.7%	6.6%	100.0%
国道バイパス整備による広域交通網の形成	回答数	55	258	47	11	371
	構成比	14.8%	69.5%	12.7%	3.0%	100.0%
まちの骨格となる幹線道路網の整備	回答数	29	169	80	20	298
	構成比	9.7%	56.7%	26.8%	6.7%	100.0%
市街地･集落地内の生活道路の拡幅整備	回答数	21	159	101	29	310
	構成比	6.8%	51.3%	32.6%	9.4%	100.0%
必要な道路の効率的な整備	回答数	17	174	100	23	314
	構成比	5.4%	55.4%	31.8%	7.3%	100.0%

資料：住宅マスタープランアンケート(H14.7実施)

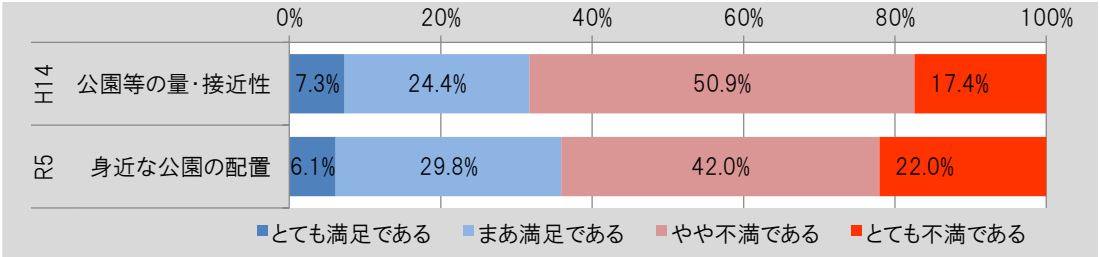


3．公園

公園に関する事項を平成 14 年調査と比較すると、「とても不満である」の上昇が顕著である。

公園	選択肢	とても満足である	まあ満足である	やや不満である	とても不満である	計
H14 公園等の量･接近性	回答数	21	70	146	50	287
	構成比	7.3%	24.4%	50.9%	17.4%	100.0%
R5 身近な公園の配置	回答数	15	73	103	54	245
	構成比	6.1%	29.8%	42.0%	22.0%	100.0%

資料：住宅マスタープランアンケート(H14.7実施)

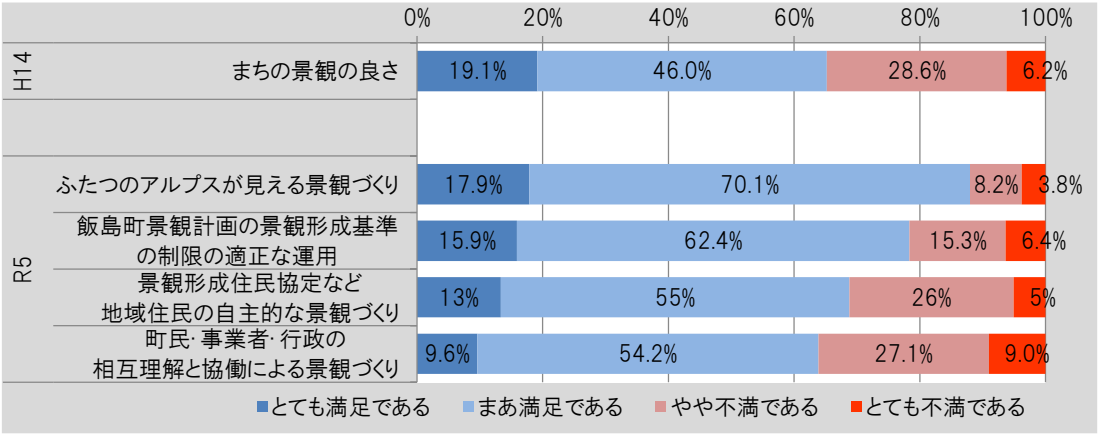


4．景観

景観に関する事項を平成 14 年調査と比較すると、「とても満足である」は下落したものの「まあ満足」は上昇している。

景観	選択肢	とても満足である	まあ満足である	やや不満である	とても不満である	計
H14 まちの景観の良さ	回答数	99	238	148	32	517
	構成比	19.1%	46.0%	28.6%	6.2%	100.0%
ふたつのアルプスが見える景観づくり	回答数	52	204	24	11	291
	構成比	17.9%	70.1%	8.2%	3.8%	100.0%
飯島町景観計画の景観形成基準の制限の適正な運用	回答数	25	98	24	10	157
	構成比	15.9%	62.4%	15.3%	6.4%	100.0%
景観形成住民協定など地域住民の自主的な景観づくり	回答数	21	87	41	8	157
	構成比	13.4%	55.4%	26.1%	5.1%	100.0%
町民･事業者･行政の相互理解と協働による景観づくり	回答数	16	90	45	15	166
	構成比	9.6%	54.2%	27.1%	9.0%	100.0%

資料：一般町民向けアンケート(H14.12実施)

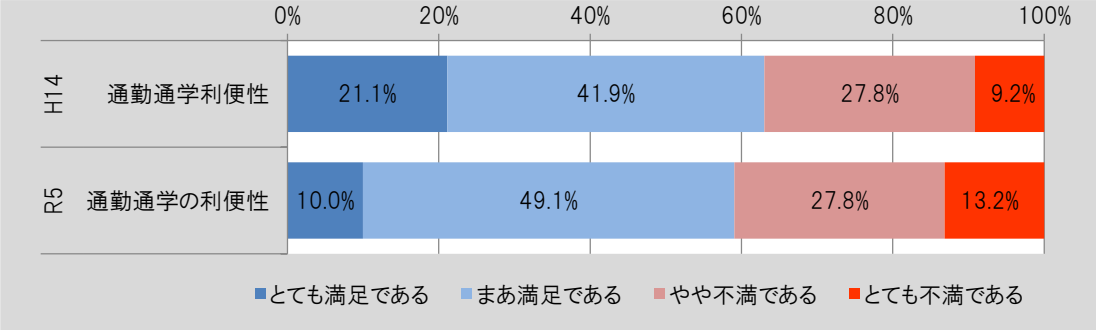


5．通勤・通学の利便性

通勤･通学の利便性について平成 14 年調査と比較すると､｢とても満足である｣は 21.1%から 10.0%に半減し、「とても不満である」が 9.2%から 13.2%に上昇している。

通勤通学利便性	選択肢	とても満足である	まあ満足である	やや不満である	とても不満である	計
H14 通勤通学利便性	回答数	60	119	79	26	284
	構成比	21.1%	41.9%	27.8%	9.2%	100.0%
R5 通勤通学の利便性	回答数	28	138	78	37	281
	構成比	10.0%	49.1%	27.8%	13.2%	100.0%

資料：住宅マスタープランアンケート(H14.7実施)

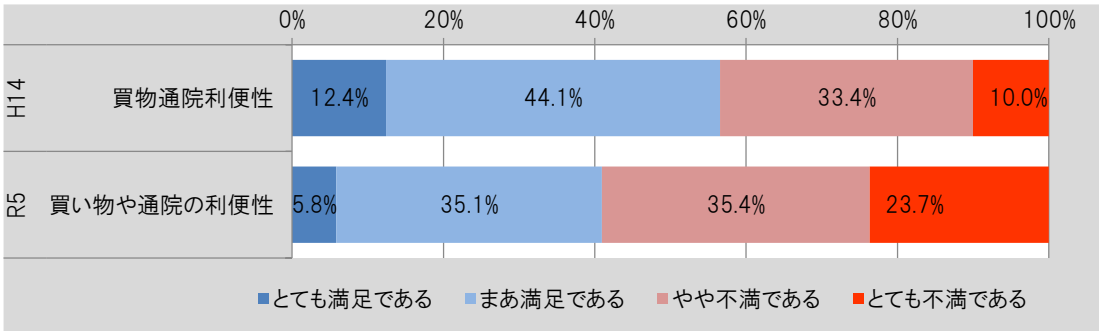


6．買い物・通院の利便性

買い物・通院の利便性について平成 14 年調査と比較すると、「とても満足である」は 12.4%から 5.8%に半減し、「とても不満である」は 10.0%から 23.7%に倍増している。

買い物利便性	選択肢	とても満足である	まあ満足である	やや不満である	とても不満である	計
H14買物通院利便性	回答数	36	128	97	29	290
	構成比	12.4%	44.1%	33.4%	10.0%	100.0%
R5 買い物や通院の利便性	回答数	21	126	127	85	359
	構成比	5.8%	35.1%	35.4%	23.7%	100.0%

資料：住宅マスタープランアンケート(H14.7実施)



7．生活環境の満足度評価（地区別）

H14 町民一般アンケートで実施した地区別の生活環境に関する満足度評価と、本調査の満足度調査を比較分析する。

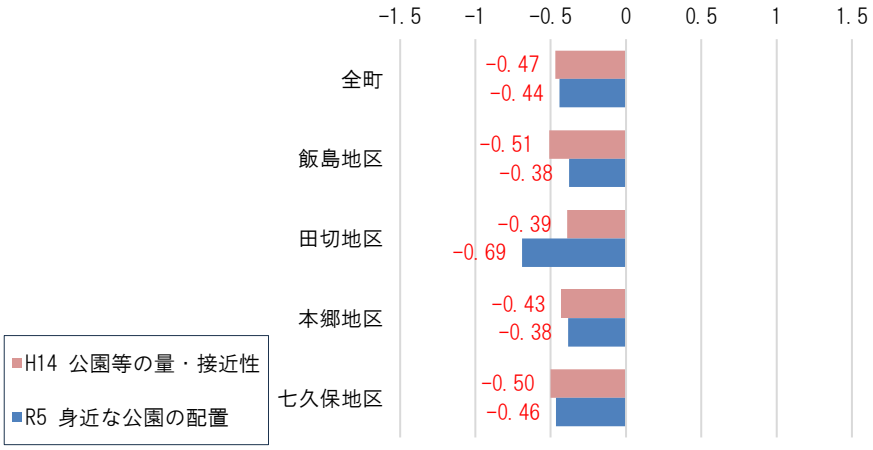
※「満足」+2、「まあ満足」+1、「多少不満」-1、「非常に不満」-2 と階級値を与え、その平均値を算出したものである。マイナスがつけば全体として不満の割合が多いことを示している。また、数値はその度合いを示す。（H14 町民一般アンケートより）

＜公園＞

公園について平成 14 年調査と比較すると、田切地区は下落が顕著である。その他の地区はやや上昇しているものの、マイナスに位置する。

居住地区	全町	飯島地区	田切地区	本郷地区	七久保地区
H14 公園等の量･接近性	-0.47	-0.51	-0.39	-0.43	-0.50
R5 身近な公園の配置	-0.44	-0.38	-0.69	-0.38	-0.46

資料：住宅マスタープランアンケート(H14.7実施)

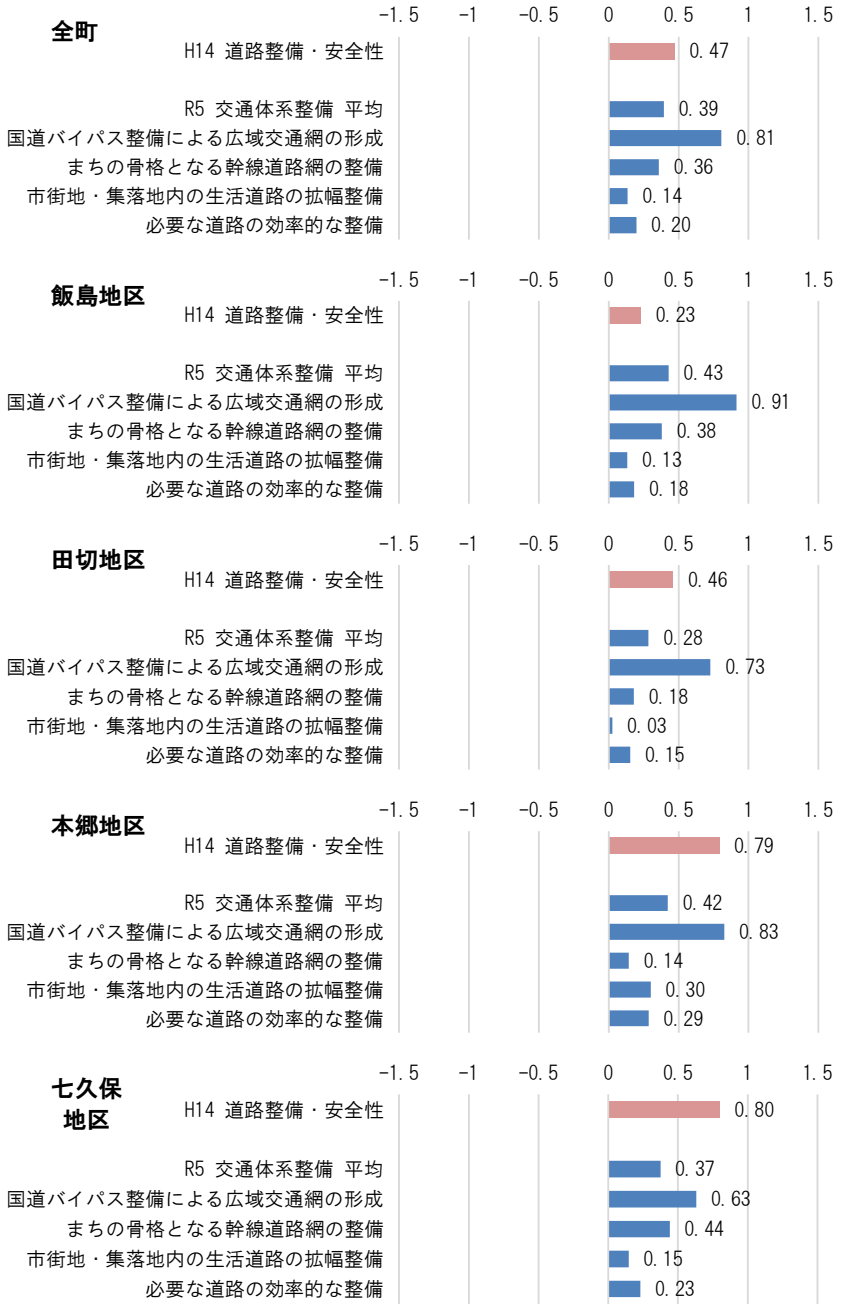


＜道路整備＞

道路整備について平成 14 年調査と交通体系整備の平均を比較すると、飯島地区を除きすべて下落している。個別項目を見ると「国道バイパス整備による広域交通網の形成」がどの地区も比較的高い値を示したことから平均値の上昇は見られるものの、その他の項目がマイナスではないが非常に低いことから、平均を下げている。

居住地区	全町	飯島地区	田切地区	本郷地区	七久保地区
H14 道路整備･安全性	0.47	0.23	0.46	0.79	0.80
R5 交通体系整備 平均	0.39	0.43	0.28	0.42	0.37
国道バイパス整備による広域交通網の形成	0.81	0.91	0.73	0.83	0.63
まちの骨格となる幹線道路網の整備	0.36	0.38	0.18	0.14	0.44
市街地･集落地内の生活道路の拡幅整備	0.14	0.13	0.03	0.30	0.15
必要な道路の効率的な整備	0.20	0.18	0.15	0.29	0.23

資料：住宅マスタープランアンケート(H14.7実施)



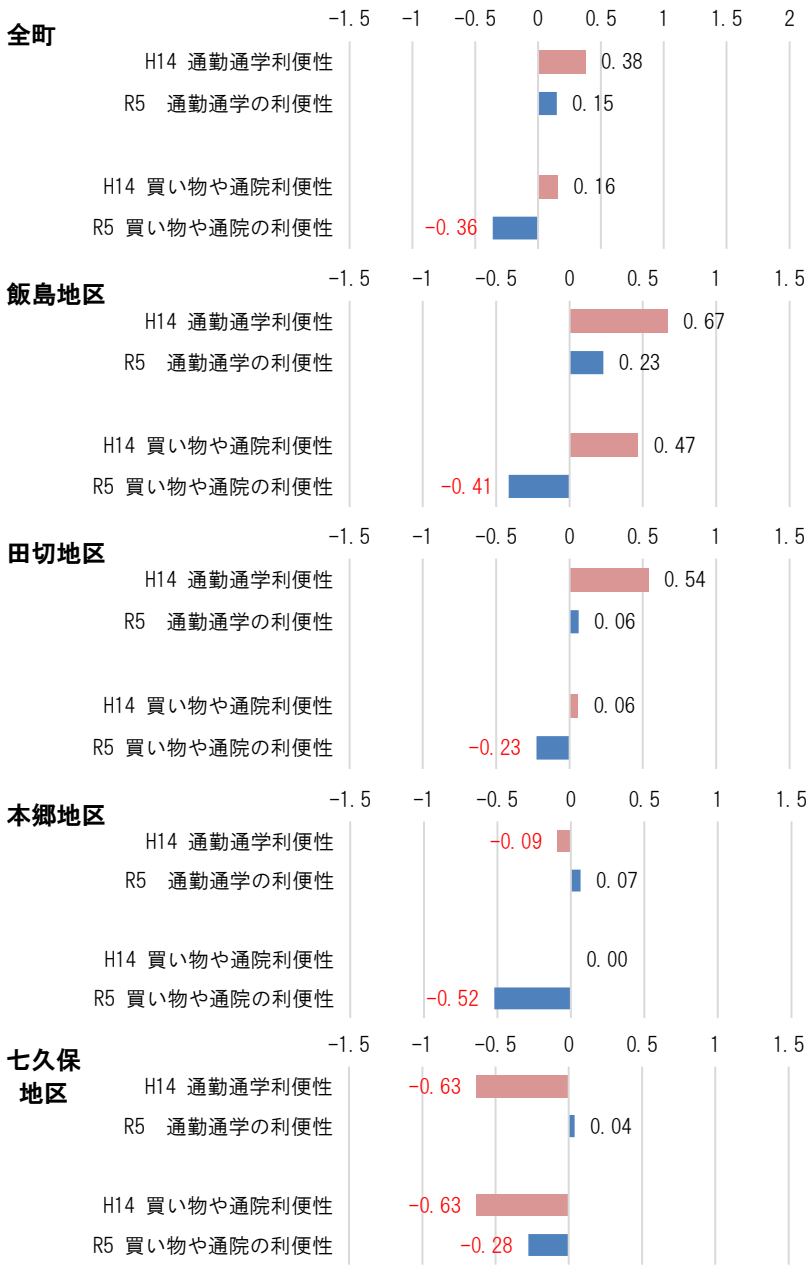
＜通勤通学・買い物や通院の利便性＞

通勤通学の利便性について平成 14 年調査と比較すると、本郷地区及び七久保地区はマイナスであったものがプラスへと転じている。飯島地区及び田切地区はプラスではあるものの、著しく下落している。

また、買い物や通院の利便性は、平成 14 年では七久保地区以外はプラスであったが、すべての地区でマイナスに転じている。七久保地区は-0.63 から-0.28 に上昇している。

居住地区	全町	飯島地区	田切地区	本郷地区	七久保地区
H14 通勤通学利便性	0.38	0.67	0.54	-0.09	-0.63
R5 通勤通学の利便性	0.15	0.23	0.06	0.07	0.04
H14 買い物や通院利便性	0.16	0.47	0.06	0.00	-0.63
R5 買い物や通院の利便性	-0.36	-0.41	-0.23	-0.52	-0.28

資料：住宅マスタープランアンケート（H14.7実施）

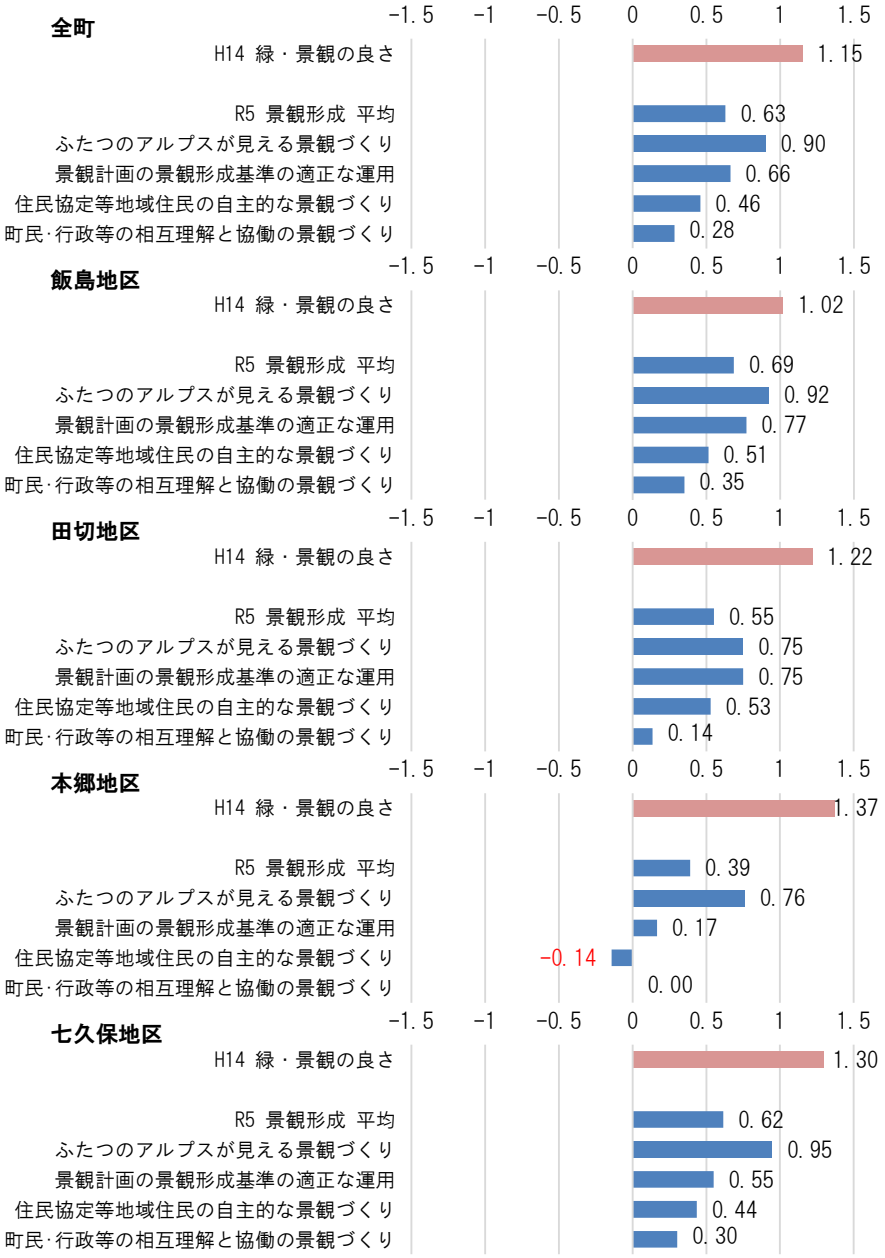


＜景観＞

景観について、平成 14 年調査はすべての地区で 1 ポイント以上であったが、すべての項目が下落している。「ふたつのアルプスが見える景観づくり」は比較的高い値を示しているが、平成 14 年には及ばない。本郷地区では「住民協定等地域住民の自主的な景観づくり」はマイナスになっており、本郷地区の平均を下げている。

居住地区	全町	飯島地区	田切地区	本郷地区	七久保地区
H14 緑･景観の良さ	1.15	1.02	1.22	1.37	1.30
R5 景観形成 平均	0.63	0.69	0.55	0.39	0.62
ふたつのアルプスが見える景観づくり	0.90	0.92	0.75	0.76	0.95
景観計画の景観形成基準の適正な運用	0.66	0.77	0.75	0.17	0.55
住民協定等地域住民の自主的な景観づくり	0.46	0.51	0.53	-0.14	0.44
町民･行政等の相互理解と協働の景観づくり	0.28	0.35	0.14	0.00	0.30

資料：住宅マスタープランアンケート(H14.7実施)

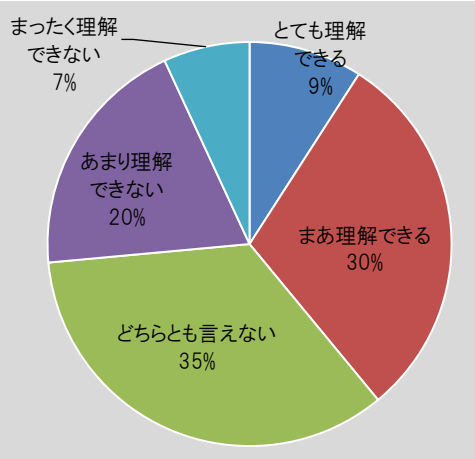


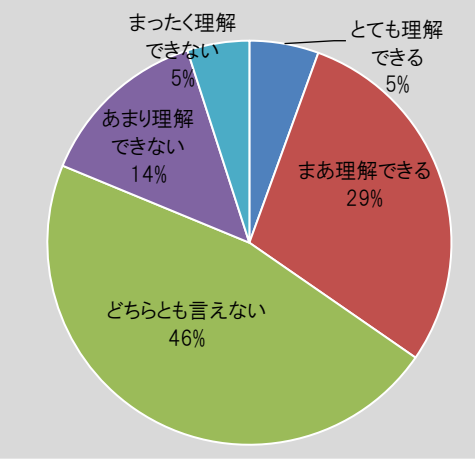
8．コンパクトシティへの理解

令和元年度「第 6 次総合計画」策定のためのアンケート調査報告書（R1.10）において立地適正化計画に関わる設問を行っていることから参考とする。

Q. 国が提案している「コンパクトシティ」政策への理解

選択肢	回答数	構成比
とても理解できる	95	9%
まあ理解できる	312	30%
どちらとも言えない	360	35%
あまり理解できない	204	20%
まったく理解できない	72	7%
無回答	10	―
計	1,053	100%



Q. 居住地が「コンパクトシティに適していないとされた場合」への理解

選択肢	回答数	構成比
とても理解できる	57	5%
まあ理解できる	299	29%
どちらとも言えない	479	46%
あまり理解できない	142	14%
まったく理解できない	51	5%
無回答	25	―
計	1,053	99%